平成28年度

経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援

外部評価・実績報告書

愛知県立大学
Aichi Prefectural University
グローバル人材育成推進室

刊行の辞

本書は、平成 24 年 9 月に採択された文部科学省グローバル人材育成推進事業について、平成 29 年 3 月 14 日（13:00～15:00）、愛知県立大学で行われた事業評価委員会に提出した平成 28 年度実績報告書と外部評価委員の評価をまとめたものである。

外部評価については、一定の観点から評価いただくため、川嶋太津夫氏（大阪大学高等教育・入試研究開発センター長）、安倍悟氏（愛知大学現代中国学部　学部長）、石田訓夫氏（元外務省外交史料館　館長）、服部俊之氏（愛知県立旭丘高等学校　教頭）の諸氏には平成 27 年度に引き続き平成 28 年度も評価委員をお願いした。藤原啓税氏（中部経済連合会　常務理事事務局長）には、28 年度の評価委員として新たな観点から評価をお願いした。本事業は補助金終了後、平成 29 年度から、新たなグローバル事業として全学的な取り組みとなる。そのことに対して、評価委員の皆様からは期待とともに有益なご意見をいただいた。全学的な取り組みに移行する折の外国語学部教職員の積極的な支援、大学内外への広報の充実、国際会議ボランティアへのより主体的な関与、参加学生の裾野の拡大と語学力の底上げ、プログラム修了者の学外へのPRなどの必要性であり多岐にわたる。委員の皆様には感謝申し上げたい。

評価委員会の皆様よりご指摘いただいた諸課題については、関係各署と連携し協力を得ながら実現に努めたい。

平成 29 年 3 月

愛知県立大学 グローバル人材育成推進室長

外国語学部教授　吉池孝一

平成 28 年度　愛知県立大学　経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援
外部評価・実績報告書

目次

刊行の辞 i

平成 28 年度外部評価委員による評価コメント iii

［平成 28 年度経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援　実績報告書］

1.　本報告書の発行によせて 1

2.　グローバル人材育成推進事業 3

3.　iCoToBa（多言語学習センター） 17

4.　学修支援 35

4－1. e-Learning プログラム 35

4－2. インターネットポートフォリオ 40

4－3. 語学学習アドバイジング 42

5.　語学検定 45

6.　留学および支援体制 52

6－1. 学術交流協定大学の協定締結と単位認定留学 52

6－2. 留学中のリスク管理 58

7.　学術交流協定大学留学生対象プログラム 61

8.　地域における体験学習 65

8－1.　インターンシップ 65

8－2.　地域と連携した教育活動 71

9.　FD 活動 78

10.　講演会・セミナー・イベント 80

11.　入試・広報活動 88

12.　情報発信 96

13.　グローバルキャンパスへの取り組み 100

14.　資料 104

14－1.　グローバル人材育成推進室運営体制 104

14－2.　グローバル人材育成推進室会議開催一覧 105

14－3.　iCoToBa 委員会 107

14－4.　iCoToBa 委員会開催一覧 107

14－5.　平成 28 年度外国語弁論大会等での受賞者一覧 108

14－6.　iCoToBa 授業アンケート結果 110

総括 116

平成 28 年度外部評価委員による評価コメント

平成 28 年度外部評価委員による評価コメント

1. 概要

平成 29 年 3 月 14 日、本事業評価委員会を開催し、平成 28 年の本学の取組について、外部評価委員から客観的に評価していただくと共に、平成 29 年度以降のグローバル事業の全学化に伴う課題の整理を行った。

［外部評価委員］

川嶋　太津夫氏（大阪大学　高等教育・入試研究開発センター長）
安部　悟氏　　（愛知大学現代中国学部　学部長）
藤原 啓税氏　　（中部経済連合会　常務理事 事務局長）
石田　訓夫氏　　（元外務省外交史料館　館長、本学卒業生）
服部　俊之氏　　（愛知県立旭丘高等学校　教頭）

2. 外部評価報告

川嶋　太津夫氏　　（大阪大学　高等教育・入試研究開発センター長）

平成 24 年度に採択された「グローバル人材育成推進事業」は5年間の補助金支援期間が平成 28 年度をもって終了する。申請組織である外国学部を中心として、可能な限り全学にもその活動と成果を波及するべきさまざまな努力がなされてきた。本事業は以下の4つの目的を達成することを目指した。

A. 留学前→留学中→留学後の各段階で必要な能力を育てる体系的なプログラムを実施する。
B.外国語学部学生の 60%以上が単位認定を伴った留学をする。
C.各専攻言語および第 2 外国語の 2 言語において、一定以上の語学力を身につける。
（各言語の目標値は、本報告書 p.7、表 2-2 を参照）
D. グローバル人材として必要な 8 項目に関する能力養成と、5 つの態度・資質の醸成を目指す。

そのすべての目的が達成されたとはい言い難いが、補助金事業終了後の平成 29 年度からは、グローバル人材育成推進事業の成果を継承し、「グローバル実践教育プログラム」として全学的な取り組みとして展開することになっており、このことが、本事業の最大の成果と言えよう。ただし、全学に展開することになれば、対象学生数や関係する教職員も大幅に増え、これまでの外国語学部単独での取り組みに比して、様々な課題が生じてくることが推測される。全学組織である「グローバル実践教育推進室」が、今後事業推進の中核になるが、学長のリーダーシップに加えて、5年間の貴重な経験を有する外国語学部教職員の積極的な支援を望みたい。

活動範囲が多岐に渡るため、すべてについて評価を行うことは難しいが、2、3触れたい。

まず注目すべき業績は、外国語能力（とりわけ英語）の伸長である。表 5−2（本報告書 p.46）は、同一コーホートのデータではないが、学年が上がるにつれて、TOEIC のスコアーが上昇している。また、表 5−3（同 p.46）によれば、各学科で設定した目標値を達成した学生数も増えている。他の言語検定結果についても、設定された目標値に確実に近づいており、本事業の成果が最も顕著に現れている。

次に特筆すべきは、このようにして培った語学力を活用して、海外インターンや地域での活動が学生の積極的な参加によって数多く実施されたことである。教室での学習が、実社会で生かせる体験を得ることによって、大学での学習のレリバンスが理解でき、それがさらなる学習への動機付けになっている。このような好循環を通じて、目標としているグローバル人材に必須の8つの能力・知識、5つの態度・資質という学習成果獲得に繋がるであろう。

最後に、課題として大学内外への広報の充実をあげたい。本プログラムを構成する iCoToBa 科目の履修状況を見ると、必ずしも学生への広報が浸透していない。また、今後、さらに優秀な高校生を惹きつけるためには、オープン・キャンパスの受験動向を分析するなど、データに基づく、広報活動の充実が不可欠である。

安部　悟氏　（愛知大学現代中国学部　学部長）

平成 24 年度に始まった「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業は本年度が最終年度となる。ただこれは文部科学省の助成期間が終了することを意味しており、これまで行ってきた各種取り組みについては、今後も継続的に行うことが求められている。今回の評価ではこのことを踏まえ、この 5 年間（実質 4 年半）の実績及び今後の対応について、この間の経緯をよく知る者の立場からいくつかの点についてコメントしたい。

まずグローバル人材プログラムについてだが、発行条件が厳しいためか修了証の発行数がまだ少ないのは残念だが、この取り組みにより育成するグローバル人材のイメージを明確にし、さらに様々な形で学生に周知したことの意義は極めて大きい。これはまさにグローバル人材育成の根幹をなす取り組みであるといえよう。今後は修了証や受講証明書の意義を学生だけでなく、対外的にも積極的にアピールしていく必要があろう。

次に iCoToBa についてだが、今回の事業の中で特筆すべきは、この学習施設の開設とその活用であろう。外国人教員による授業提供ももちろんだが、アドバイザーによる留学や語学学習についての個別指導やサポート、さらには学生を主体とした各種イベントの開催など、異文化交流の場として中心的な役割を果たしている。外国部学部以外の学生の利用も増えてきており、学内的にもまた対外的にもその存在が益々重要視されるだろう。

もう一つ今回の事業で大きな成果を上げた取り組みは留学及び支援体制の拡充であろう。事業開始当初から単に協定校の数を増やすだけでなく、既存の留学プログラムの拡充に着手し、派遣学生が当初の 1.5 倍となっていることは注目に値する。今後外国語学部以外の学生にも定着していけば、さらに学生数の増加が見込めよう。また、卒業時の外国語力スタンダードを満たす学生数については、目標を設定することにより学生の語学学習に対するモチベーションが確

実に上がってきていること、さらには入学者にもその効果が表れていることは大いに評価されるべきである。

さらに、県大のグローバル事業の独自性を表す取り組みとして、学生の地域における体験学習を積極的に取り入れており、このような地域に根ざしたグローバル人材育成の在り方は、他大学にとって大いに参考とすべき取り組みであると言えよう。

最後に、これまでの各種取り組みをいかに次年度以降に継続していくのかという点についてであるが、グローバル人材育成教育の対象を従来の外国語学部から今後は全学を対象としたものへと発展させ、そのための新たな組織を立ち上げて取り組むことになったことは、まさに今回の事業に採択されたことがもたらした大きな成果であり、これまでの各種取り組みが今後一層深化し、さらに発展していくことを期待したい。

藤原 啓税氏 （中部経済連合会 常務理事 事務局長）

平成 28 年度をもって「グローバル人材育成推進事業」の助成期間が終了した。5 年間の活動期間中、iCoToBa を核に、様々な活動に取り組まれ、着実な成果を挙げられた関係各位のご尽力に深く敬意を表する。本事業の成果は、先輩の実績等、後輩に与える影響も大きく、長い目での PDCA 活動の継続をお願いしたい。

1. 詳細コメント

中部経済連合会では、産業界を取り巻く様々な環境変化に対応し、これからも中部圏が発展を続けていくためには、若者の基礎的な能力（基礎学力、社会人基礎力）の向上と、「個」の磨き上げが必要であり、特に、「個」の磨き上げにおいては、探求心や創造力を高める取り組みや、現地現物の観点に立つ様々な実体験等が重要であると考えている。その観点から、平成 28 年度の活動の中でも、次の 3 点を高く評価し、本会としても支援したい。

①メキシコでのインターンシップ

学生にとって、語学のみならず本物のビジネスに触れる非常に良い経験になったのではないか。教育的効果が高く、受入企業にもメリットのある大変有意義な取り組みである。

②伊勢志摩サミット・国際会議におけるボランティア

低年次の学生の参加が目立つなど、積極的に外国人との交流にチャレンジする姿勢を高く評価する。中部圏においては、国際的なイベント・会議が多く計画されており、関係者と事前連携を図り、可能であれば企画段階から参画するなど、より主体的な関与を深めることも検討してはどうかと思われる（通訳・交通案内等から企画提案の参加へ）。

③平成 29 年度からのグローバル事業の全学部への展開

助成終了に伴うiCoToBaの外国人教員やe-learningコンテンツの減少は残念であるが、本事業を一過性のものとせず、これまでの成果を全学に波及させる効果が大いに期待できる。ネイティヴとの交流や留学等、異文化に飛び込み刺激を受ける経験は、早ければ早いほど効果的である。

2. 総括

中部圏、そしてわが国の将来を考えた際、待ったなしの課題である少子高齢化の進展、地域の創生等への対応には、国境を越えた対流・交流活動の活発化が急務である。

①大学のヴィジョン・存在意義を再確認し、地域のグローバル化に対応できる人材に加え、更には、世界に飛び立つ人材の育成に引き続き邁進していただきたい。

②優れた外国語教育環境に加え、優秀な女子学生を多く擁す大学の特色を活かし、グローバルに活躍する女性リーダーの積極的な輩出を期待したい。

③そのためには、積極性、主体性、思考力の育成や、基礎的な経済・法律等、社会科学の素養教育が必要と思われる。加えて、社会との接点を増加させるとともに、失敗を許容し成功に繋げる、ユニークな発想を讃える、といった環境づくりも求められるのではないか。

石田　訓夫氏（元外務省外交史料館　館長、本学卒業生）

愛知県立大学のグローバル人材育成推進事業は、平成28年度に事業の締め括りを迎えた。同年度においても、学術交流協定締結校の着実な増加とともに、協定大学への単位認定留学生の顕著な増加がみられ、留学は外国語学部学生の修学における益々身近な目標となった。最終年度においては、ことに留学後のフォローアップと、成果を社会に活かしていくための出口戦略の強化が取り組みの焦点となった。この点において、留学の成果は、各種外国語スピーチ・コンテストでの受賞、あるいは伊勢志摩サミット、および名古屋で開催された国際会議の企画運営への多数のボランティア参加というかたちで学生の積極性に結びついた。そして、留学後にインターンシップ就業体験のかたちで、学生が実践的に地元企業のグローバル化を支援する事例も前年度に続き増加している。これらの活動の様子は地方紙で度々取り上げられて注目されるようになっており、愛知県立大学で地域のグローバル化を担う若手の人材育成が進んでいる様子が期待をもって地域社会に知られるようになったと評価できる。なかでも地元から海外に進出した日系企業で就業体験を積んで活躍するというケースは、学びと仕事の関心が国境を超えて繋がった好事例であろう。

５年間の事業実施期間を経て、iCoToBa（多言語学習センター）の利用は、外国語学部学生の間に定着し、他学部学生にも広まっている。今後も引き続きiCoToBaを中心に、学生の裾野を広げて語学力の底上げを図る地道な活動は手が抜けない。この5年間にグローバル人材育成プログラム関連科目の充実がはかられて、留学先協定校が拡充し、ま

た帰国後の地域体験学習が多様化する等、グローバル化の環境は着実に整備されてきた。事業実施期間を経て、愛知県立大学のグローバル人材育成のプロセスが確立されたのは、何よりも教職員の熱意と努力の積み重ねが結実したものといえる。他方で、学生の間にもこれに応えるようにプログラムの重要性への認識が浸透している。本事業を総括するにあたり、次の発展へ向けた好循環が生まれていることは特筆に値する。

平成 29 年度からは、全学的なグローバル化を目的として 5 学部共通の実践教育プログラムがスタートする。iCoToBa は全学の語学教育センターに改組されて、外国語学部学生の利用に加えて、他学部のグローバル人材育成を言語学習面から支援する役割も担う。新たな全学的チャレンジが始まるが、互いに切磋琢磨し合うことによって、5 年間をかけた本事業の成果をもとに愛知県立大学のグローバル化がさらに発展することを期待したい。

服部　俊之氏 （愛知県立旭丘高等学校　教頭）

平成 24 年度に文部科学省より採択されたグローバル人材育成事業は、5年目の本年度で終了する。5年間の取組の成果は、iCoToBa を中核としたさまざまな取組による「グローバル人材プログラム」修了者数の増加、複数言語における外国語能力の数値の向上、協定大学の増加などによる留学意欲の向上などに数値として確実に表れている。これもひとえに吉池孝一室長を中心としたグローバル人材育成推進室の方々や関係者の皆様の、長期展望を見据えたグローバル人材育成構想とそのための努力の成果であると強く感じ、ここに敬意を表したい。そのうえで、これまでの取組と来年度以降の取組に関して、高等学校でのグローバル人材育成に関する文部科学省指定のスーパーグローバルハイスクール（SGH）校の立場として、また県立高等学校の立場としての要望を交え、感じたことを書かせていただく。

まず、今後も増加が期待される「グローバル人材プログラム」修了者に関して、修了証明書が学外でどのように活用されるのかに興味を持った。現代社会におけるグローバル人材に対するニーズは今後もますます増加するものと考えられ、当然ながら「グローバル人材プログラム」修了者には期待が持たれる。しかしながら、学外での認知度はいかがなものであろうか。在学中は手厚いプログラムが設定され、素晴らしい成果が収められているのだから、育て上げた優秀な人材を企業や官公庁などに積極的に売り込むためにも学外へのPRを期待したい。

次に、本事業の中核をなす iCoToBa について、昨年度までも語学授業・自律学習支援・留学に関する個別指導、留学体験報告会など多彩な取組で高評価を得ているが、特に評価されるべきは、異文化理解や異文化交流に関するイベントの多くが学生を主体として企画運営を行っている点である。イマドキの大学生や高校生は、進学指導において、これでもかというほどの手厚い指導を受けているがために、自分が何かを行おうとするときには、すでにお膳立てができているのが「当たり前」という勘違いをしている者が少なくない（特に、高校では顕著である）。学生にとって魅力的で、有意義な取組であるからこそ、学生からの評価が高いからこその証明であろう。

最後に高校としての立場から、入試に関連してグローバル人材枠などの設定、出張ガイダンスや出前授業、大学訪問受入等を積極的に行っていただいていることはありがたい限りである。しかしながら、これは他大学でも行われていることで、それ自体が魅力的で特別な取組とは言いがたい。特に、1回限りの講演や模擬授業は、大学に眼を向けさせるには良い取組であるが、強く大学に興味を持たせることはできないのではないだろうか。更なるつながりを持たせるためには、イマージョン合宿を拡大したり、継続的に高校へ講師を派遣し、大学での単位の先取りを行うなど、より強力な高校生へのアプローチを考えるべきではないだろうか。グローバル人材の育成は高校でも必須となってきている現在、「大学に入学してから」「大学だけで」では真のグローバル人材育成とは言えないのではないだろうか。

助成終了後は、これまでの取組を正規科目化する、全学プログラムとするなど、これまでの成果をより発展させる計画が立てられているが、グローバル人材育成は、もはや特殊なものではなくなっている現在、もっともな方向性であると評価できる。高校生でのグローバル教育に携わる立場として、より高度な、大学ならではのグローバル人材育成を行っている愛知県立大学は、自信を持ってお勧めできるだけの高評価を与えられる存在である。今後ともより一層の努力により魅力ある大学づくりを目指していただきたい。

平成 28 年度
経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援
実績報告

1. 本報告書の発行によせて

愛知県立大学グローバル人材育成推進室長（外国語学部長）
吉池 孝一

平成 24 年度に文部科学省に採択された愛知県立大学「グローバル人材育成推進事業」は、本学の第二次中期計画（平成 25 年度～平成 30 年度）の外国語学部の人材育成方針「21 世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成」の達成を目指したタイプ B 特色型の事業であり、外国語学部を中心におこなわれるものである。本事業は、平成 25 年 1 月 25 日にキックオフセミナーを開催しスタートをきった。その後、グローバル人材育成推進室（学長直属の全学組織。本事業全体の推進を担う）および iCoToBa 委員会（外国語学部の組織。iCoToBa〈多言語学習センター〉の運営を担う）は、さまざまな試行をかさねながら本事業を育てあげてきた。そして本年度をもって文部科学省からの助成は終了となる。終了にあたって、この 5 年間の活動の財産をどのように次年度以降に引き継ぎ、発展させていくか、ということが課題となっていた。この点について、平成 27 年度の中頃より案をつくり、その実現にむけ検討をかさねてきた。その結果はつぎのとおりである。

1. 平成 29 年度より全学部に対応するグローバル事業を実施する。
2. iCoToBa 委員会（外国語学部の組織）は平成 28 年度末をもって廃止とし、
   平成 29 年度より新たに「グローバル推進委員会」（外国語学部の組織）を設置する。

上記 1 の内容はつぎのとおりである。平成 28 年度までに培った外国語学部におけるグローバル人材育成の経験を全学に応用し、愛知県立大学全体のグローバル化を図るというものである。外国語学部はこの 5 年間、副専攻に相当する「グローバル人材育成プログラム」および「複言語能力（検定試験の到達目標レベルを満たす）の養成」を中心としてグローバル人材を育成してきた。平成 29 年度以降はこれを全学に展開し、5 学部共通のプログラム（「グローバル実践教育プログラム」）により人材を育成することになる。このプログラム修了に必要なカリキュラム上の単位は学部ごとに異なる。外国語学部 26 単位、日本文化学部 22 単位、教育福祉学部 22 単位、看護学部 22 単位、情報科学部 19 単位となっている。また、外国語修了要件も学部により異なる。外国語学部は 2 言語（専攻外国語と第 2 外国語）、日本文化学部・社会福祉学部・情報科学部・看護学部は 1 言語について修了要件を満たす必要がある。平成 29 年度以降は、5 学部の学生がこのプログラムの修了を目指す。

このグローバル実践教育プログラムを運営する全学組織である、「グローバル実践教育推進室」は、平成 29 年 4 月に設置される。推進室は、室長（教養教育センター長または副センター長）、副室長、5 学部から選出された室員、専任外国人教員 1 名により運営される。

iCoToBa（多言語学習センター）の運営も、平成 29 年度よりグローバル実践教育推進室が担うことになる。平成 29 年度から iCoToBa には、専任の外国人教員 1 名および職員複数名が常駐する予定である。

上記 2 の内容はつぎのとおりである。平成 24 年度以降、文部科学省に採択された愛知県立大学グローバル人材育成推進事業は、グローバル人材育成推進室（学長直属の全学組織。本事業全体の推進）と iCoToBa 委員会（外国語学部の組織。iCoToBa の運営）というふたつの組織で担ってきた。後者の iCoToBa 委員会の機能は、今後は全学の「グローバル実践教育推進室」で担うため平成 28 年度末をもって廃止とした。前者のグローバル人材育成推進室は全学組織とはいえ、これまでは外国語学部を中心に運営をおこなってきた。平成 29 年度以降この組織は、全学の「グローバル実践教育推進室」に衣替えとなり、全学で運営することになる。そこで、平成 29 年度以降外国語学部では、学部のなかにグローバル関係の事業を所掌する委員会を新たに設置することとした。その委員会の名称は「グローバル推進委員会」（外国語学部の組織）である。この委員会が所掌する事業はつぎのとおりである。

①全学のグローバル事業への対応
②全学のグローバル事業への代表委員の選出
③旧「グローバル人材プログラム」に取り組む学生への対応
④学生がおこなうグローバル人材の育成に関わる活動の援助
⑤グローバル人材育成に関するもので委員会が必要と認めた事業の遂行

以上、最終年度に特有な課題にたいする取組について述べた。本年度におこなったさまざまな事業の詳細については、本報告書の該当箇所を参照していただきたい。

2. グローバル人材育成推進事業

1. 概要

平成 24 年度に文部科学省に採択された愛知県立大学「グローバル人材育成推進事業」（現「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」）は、本学の第二次中期計画（平成 25 年度～30 年度）の外国語学部の人材育成方針「21 世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成」の達成をめざしたものである。

本事業は、外国語学部学生の 60%以上が単位認定留学するという目標を設定した上で、「留学前→留学中→留学後」のプロセスを、グローバル人材を育てる一貫した発展的教育課程としてとらえている。これらの各段階で必要な能力を育てる体系的なプログラムとして、「グローバル人材プログラム」を整備し、平成 25 年 4 月から実施している。

iCoToBa（多言語学習センター）は、グローバル人材育成の中核となる外国語学習と異文化理解学習、および本学の異文化交流の場として、平成 25 年 4 月に開設された。iCoToBa では、「グローバル人材プログラム」の中心となる科目群のほか、TOEIC 等各種検定講座の開講や、留学コーディネータによるカウンセリングなど、幅広い活動を行っている。iCoToBa の詳しい内容は、第 3 章（pp.17-34）に述べる。平成 28 年度末までは、「グローバル人材プログラム」の中心となる科目群を開講するが、助成終了までに、外国語学部の正課科目への移行が全て完了する。

本学のグローバル人材育成推進事業は、以下の 4 点を主たる目的に取り組んでいる。

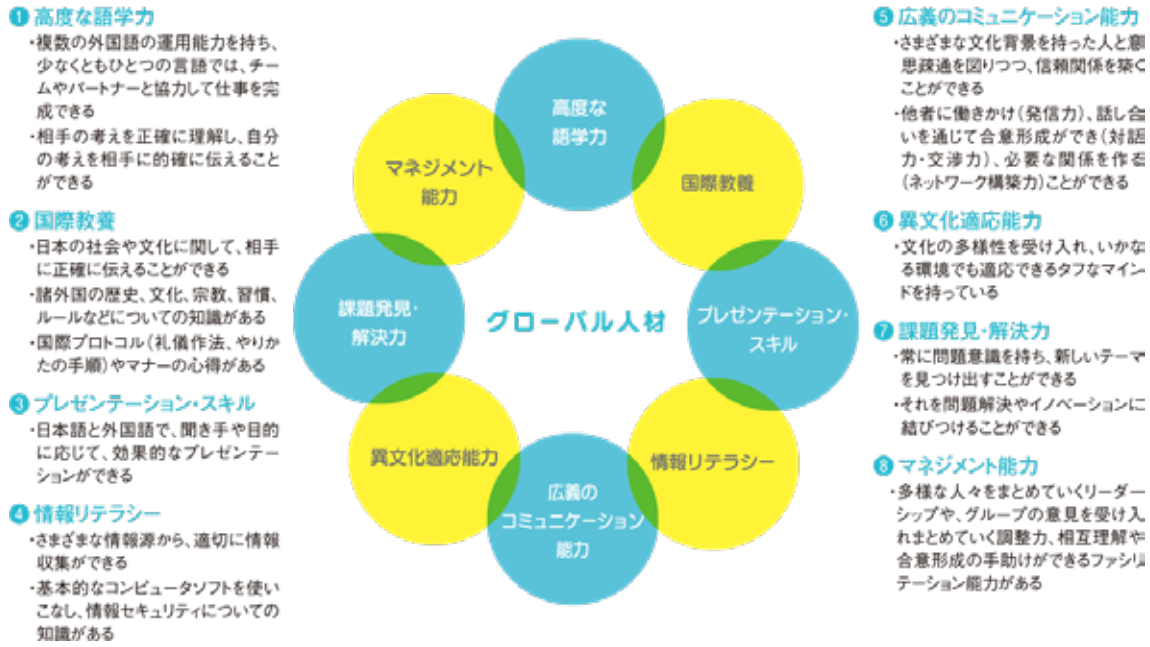
A. 留学前→留学中→留学後の各段階で必要な能力を育てる体系的なプログラムを実施する。
B. 外国語学部学生の 60%以上が単位認定を伴った留学をする。
C. 各専攻言語および第 2 外国語の 2 言語において、一定以上の語学力を身につける。（各言語の目標値は、p.7、表 2-2 を参照）
D. グローバル人材として必要な 8 項目に関する能力養成と、5 つの態度・資質の醸成を目指す。

［8 つの能力・知識］
①高度な語学力、②国際教養、③プレゼンテーション・スキル、④情報リテラシー、⑤広義のコミュニケーション・スキル、⑥異文化適応能力、⑦課題発見・解決力、⑧マネジメント能力（p4、図 2-1 を参照）

［5 つの態度・資質］
①グローバルかつローカルな視点、②主体性、③積極性とチャレンジ精神、④協調性、⑤責任感・倫理観

以下、2 章では、本学のグローバル人材育成事業のうち、その中核をなす外国語学部「グローバル人材プログラム」を中心に説明する。

［図 2-1　グローバル人材育成推進事業で養成する 8 つの能力］



2. 平成 28 年度の目標

平成 28 年度の目標は、以下のとおりである。

上の図 2-1 に示したグローバル人材に必要となる能力養成を目指し、平成 25 年度より開始された「グローバル人材プログラム」を引きつづき実施する。また、本プログラムで指定した科目の単位を取得し、専攻外国語および第 2 外国語科目の基準を満たした学生を「グローバル人材プログラム」修了者として認める。

加えて、きめ細やかなガイダンスの実施により、外国語学部の学生に「グローバル人材プログラム」を周知し、教務体制を維持する。

平成 28 年度の文部科学省による本事業助成終了に向け、「グローバル人材プログラム」の iCoToBa 科目を正課科目に位置付け、平成 29 年度以降の学部プログラムとして再編成する。

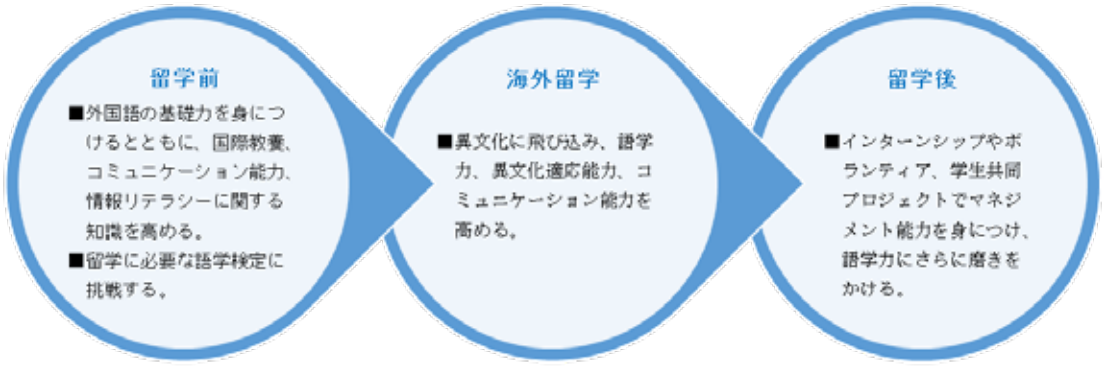
3. 平成 28 年度の実績

①グローバル人材プログラムの実施

上記の目標を達成すべく、グローバル人材育成推進室は、「グローバル人材プログラム」を外国語学部で前年度に引きつづき実施した。

本プログラムは、学部の専門の学修に加えて、海外留学を組み込み、留学前、留学中、留学後の各段階で、グローバル社会に必要とされる能力を養成する体系的な授業科目を提供し、語学力と共に主体的に行動する力を身につけることを目標としている(図 2-2 参照)。

［図 2-2　グローバル人材プログラムにおける学びの 3 段階］



また、本プログラムは、専攻外国語に加えて、他の一つ以上の外国語能力を身につける「複数言語運用能力養成」を目指している。複数の外国語を学ぶことにより、外国語の運用能力のみならず、多様性を受け入れる柔軟な心や複眼的思考を育むことが可能となる。

「グローバル人材プログラム」で定めた科目は下表の通りである。

［表 2-1　グローバル人材プログラム科目一覧※］

科目群名称	科目		対象学年	単位	必修単位
A.国際教養	愛知の歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	日本の歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	アジアの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	ヨーロッパの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	北アメリカの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	ラテンアメリカの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	国際関係(グローバル)	教養教育	1～4	2	
B. プレゼンテーション・スキル	基礎演習 I	各学科・専攻	1	2	2
	日本紹介	iCoToBa	留学前	-	必修
C.情報リテラシー	情報リテラシーA(キャリア・スキル)	教養教育	1・2	2	2
	情報リテラシーB(キャリア・スキル)	教養教育	1～4	2	

	高度情報社会の理解(キャリア・スキル)	教養教育	1～4	2	
	キャリアのための統計入門(キャリア・スキル)	教養教育	1～4	2	
D. 広義のコミュニケーション力	多文化社会とコミュニケーション(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	キャリア実践(キャリア・形成)	教養教育	1～3	2	
	地域に学ぶ(特別開講科目)	教養教育	1～4	2	
	人文地理学入門(旧カリのみ)	旧カリ	1～4	2	
	特別講義B「企業トップに聞く」(旧カリのみ)	旧カリ	1～4	2	
E. 異文化適応能力	英語連続セミナー(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	Japan Seen from Outside (グローバル)(新カリのみ)	教養教育	1～4	2	
	日本と異文化の交流(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	文化人類学(旧カリのみ)	旧カリ	1～4	2	
	研究各論(多文化共生論)	国際関係	2	4	
	研究各論(異文化コミュニケーション)	国際関係	2	2	
	研究各論(地域社会論)	国際関係	3・4	2	
	比較文化セミナー	iCoToBa	留学前	–	必修
F. 課題発見・解決力	インターンシップ(キャリア形成支援)	教養教育	2・3	2	2
	リサーチ・発信プロジェクト①	iCoToBa	留学前	–	必修
	卒業論文	各学科・専攻	4	8	8
G. マネジメント能力	人生設計とキャリア(キャリア形成支援)	教養教育	1・2	2	2
	研究各論(NPO 論)	国際関係	2・3	2	
	学生共同プロジェクト	iCoToBa	留学後	–	必修
H. 留学先履修科目	リサーチ・発信プロジェクト②	iCoToBa	留学中	–	必修
	海外協定大学修得科目	各学科・専攻		2	2
I. 講習会等	情報探索講座(初級)	図書館	1	–	必修
	情報探索講座(上級・外語編)	図書館	2・3	–	必修
	留学体験発表会	iCoToBa	留学後	–	必修
					26

※平成 26 年度からの新カリキュラムを反映したものである

「グローバル人材プログラム」の修了要件は、以下の 4 点である。

1. 卒業時に、専攻外国語と第 2 外国語(全学共通外国語科目で履修した言語)に関して以下(p.7、表 2-2)の到達目標レベルを満たしていること。
2. 「グローバル人材プログラム」指定科目(pp.5-6、表 2-1)から、26 単位を履修すること。

3.「グローバル人材プログラム」が指定する iCoToBa 開講科目（pp.5-6、表 2-1）を受講し、クラス修了試験に合格すること。
4.「グローバル人材プログラム」指定講習会に出席し、指定の課題を提出すること。

［表 2-2 グローバル人材プログラムで定めた外国語達成目標］

	専攻外国語	第 2 外国語
英語	TOEIC 800 点以上	TOEIC 730 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験準 1 級以上	実用フランス語技能検定 3 級以上
スペイン語	DELE　B1 以上	DELE　A1 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 2 級以上	ドイツ語技能検定試験 4 級以上
中国語	中国語検定試験 2 級以上	中国語検定試験 3 級以上
ポルトガル語	—	外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE 以上または、中級以上に相当する科目でA評価を4単位以上
ロシア語	—	ロシア語能力検定試験 4 級以上または、中級以上に相当する科目でA評価を4単位以上
韓国朝鮮語	—	ハングル能力検定試験 3 級以上または、韓国語能力試験 3 級以上
日本語※	—	日本語能力検定試験 N1 合格

※外国人留学生のみ

②「グローバル人材プログラム」ガイダンスの実施と教務体制

外国語学部の学生に「グローバル人材プログラム」を周知するために、きめ細やかなガイダンスを実施した。平成 28 年度に実施したガイダンスは以下のとおりである。

a)　平成 28 年度新入生対象　グローバル人材プログラムガイダンス（4 月 6 日実施）
b)　グローバル人材プログラムガイダンス・履修相談（4 月 7 日実施）

これら a、b に加え、各学科・専攻で新入生対象に iCoToBa ガイダンスを実施した。これについては第 3 章（p.20）で触れる。

a）平成 28 年度　新入生対象グローバル人材プログラムガイダンス

平成 28 年 4 月 6 日に外国語学部新入生を対象に実施した。グローバル人材プログラムの概要および、iCoToBa の紹介、留学制度等について説明した。

［新入生対象グローバル人材プログラムガイダンスの様子］

b) グローバル人材プログラムガイダンス・履修相談（4 月 7 日実施）

全学で新年度の履修相談がおこなわれた 4 月 7 日（13:00～17:00）に、iCoToBa Activity Space でグローバル人材プログラムのガイダンスと履修相談を実施した。参加者は 20 名余りであったが、グローバル人材プログラムの履修方法、iCoToBa の授業のとり方、留学制度についてなど具体的な質問があった。昨年度に続き、グローバル人材育成推進室の各学科・専攻の室員が対応した。

［グローバル人材プログラムガイダンス・履修相談の様子］

③「グローバル人材プログラム」指定科目履修状況

グローバル人材プログラムは、全学共通科目（教養科目）、学部専門科目、iCoToBa 開講科目、その他講習会等からなる。このうち、平成 28 年度に iCoToBa で開講したグローバル人材プログラム科目の受講者は、前期のべ 214 名、後期は、のべ 158 名、計 372 名であった。内訳を表 2-3（前期）、表 2-4（後期）に示す。

表内の「※1」はグローバル人材プログラムの「日本紹介」、「※2」は「比較文化セミナー」、「※3」は「リサーチ・発信プロジェクト（留学前）」の指定科目であることを示す。

［表 2-3　平成 28 年度前期　iCoToBa 開講グローバル人材プログラム指定科目］

CEFR によるレベル（言語） 科目名称	各言語科目名称	受講者数
B1-C1/中級～上級（英語）※1 英語で日本 PR プロジェクト 1	J-Ambassador 1	15
B2-C1/中上級～上級（英語）※2 グローバル食品産業：何を食べていますか？	The Global Food Industry: What are we eating?	4
A2-B1/初中級～中級（英語）※2 比較文化セミナー：英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World	7
B1-C1/中級～上級（英語）※2 映画で会話力を上昇！	Talking Better with Movies	11
B2-C1/中上級～上級（英語）※2 漫画とアメコミの文化的想像力を比べたら？	Advanced Course: The Cultural Imagination of Manga and Comics	7
B1-C1/中級～上級（英語）※3 グローバルリーダー	Global Leader	12
A2-B1/初中級～中級（英語）※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！1	Research and Presentation Project 1	5
A2-B1/初中級～中級（英語）※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！2	Research and Presentation Project 2	15
A2-B1/初中級～中級（フランス語）※1 ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	19
A2-B1/初中級～中級（フランス語）※2 フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	15
A2-B1/初中級～中級（フランス語）※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	25
B1-B2/中級～中上級（スペイン語）※2 比較文化研究（比較文化セミナー）	Estudios Culturales Comparativos	13
B1/中級（スペイン語）※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	12
A2-B2/初中級～中上級（ドイツ語）※1 日本紹介	Japanbotschafter	3
B1 以上/中級以上（ドイツ語）※2 比較文化セミナー	Deutsche Kultur Auslandsstudiumsbetreuung	2
A2-B2/初中級～中上級（ドイツ語）※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt 1	5

A2/初中級（中国語）※1 中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	4
A2/初中級（中国語）※2 中国と日本の比較文化	中日文化比较	4
B1/中級（中国語）※3 リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与报告　1	3
A2-C1/初中級～上級/（多言語） 学生共同プロジェクト（イマージョン合宿）	Group Work Project (Immersion Program)	15
B2-C1/中上級～上級（多言語） 地域ものづくり学生共同プロジェクト	Local Business Student Collaborative Project	18

［表 2-4　平成 28 年度後期　iCoToBa 開講グローバル人材プログラム指定科目］

CEFR によるレベル（言語） 科目名称	各言語科目名称	受講者数
B1-C1/中級～上級（英語）※1 英語で日本 PR プロジェクト-日本の魅力を発信しよう！	J-Ambassador	3
A2-B2/初中級～中上級（英語）※1 上級コース:「日本人は社会を変える意識がない」と言われたけれど、本当にそうですか？1, 2	Advanced Course: Politics, Social Change, and the Japanese	14
B1-B2/中級～中上級（英語）※1 日本コンテンツ文化英訳プロジェクト	Japan Contents Culture Translation Project	8
B1-C1/中級～上級（英語）※2 グローバル食品産業：何を食べていますか？	The Global Food Industry: What are we eating?	5
B1-C1/中級～上級（英語）※2 世界ニュースと私	Global News and You	6
A2-B1/初中級～中級（英語）※2 比較文化セミナー：英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World	12
A2-B2/初中級～中上級（英語）※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！	Research and Presentation Project	6
B1-C1/中級～上級（英語）※3 グローバルリーダー	Global Leader	11
A2-B1/初中級～中級（フランス語）※1 ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	4
A2-B1/初中級～中級（フランス語）※2 フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	7

A2-B2/初中級～中上級（フランス語）※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	6
B1-B2/中級～中上級（スペイン語）※2 比較文化研究	Estudios Culturales Comparativos con estudiantes hispanos	12
B1-B2/中級～中上級（スペイン語）※3 リサーチ・発信プロジェクト	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	2
A2-B2/初中級～中上級（ドイツ語）※1 日本紹介	Japanbotschafter	6
B1-C1/中級～上級（ドイツ語）※2 ドイツの文化：留学ケア	Deutsche Kultur – Auslandsstudiumsnachbetreuung	1
A2/初中級（中国語）※1 中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	8
A2/初中級（中国語）※2 中国と日本の比較文化	中日文化比较	8
B1/中級（中国語）※3 リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与发表1	6
B2-C1/中上級～上級（多言語） 地域ものづくり学生共同プロジェクト	Local Business Student Collaborative Project	33

④グローバル人材プログラム関連証明書の発行

本プログラムにおける上記の修了要件を満たした者には、卒業時に「グローバル人材プログラム修了証」を発行することとしている。平成 28 年度については、平成 29 年 3 月に卒業予定の 9 名（英米：2、フランス：1、スペイン：3、国際関係：3）が修了する。

また、キャリア支援の一環として、就職活動支援として、一定の条件を満たした学生に「グローバル人材プログラム修了見込証明書」と「グローバル人材プログラム受講証明書」を発行している。平成 28 年度は、修了見込証明書を 13 名に、受講証明書を 4 名に発行した。

それぞれの発行条件は以下のとおりである。

［修了見込証明書の発行条件］

1. グローバル人材プログラム指定 iCoToBa 科目の 3 科目以上に合格していること
2. 卒業論文以外の必修単位（18 単位）のうち 14 単位以上を取得済みであること
3. 語学検定試験において、専攻外国語、第 2 外国語ともに到達目標レベルを満たしていること

［受講証明書の発行条件］

1. グローバル人材プログラム指定 iCoToBa 科目の 3 科目以上に合格していること

2. 卒業論文以外の必修単位(18 単位)のうち 14 単位以上を取得済みであること

⑤助成終了に伴う正規科目化とこれに伴う調整

外国語学部では、平成 27 年度に「グローバル人材プログラム」の指定科目のうち、iCoToBa 開講科目である「日本紹介」「比較文化セミナー」「リサーチ発信プロジェクト①」の 3 科目を、外国語学部の正課科目として新たに定め(設置年次:2 年以上)、平成 28 年度入学生から正課科目を受講できるよう準備を進めてきた。これらの科目は、平成 29 年度から iCoToBa では開講されないため、平成 27 年度以前に入学した学生については、読み替え科目を指定し、以下のように履修指導を行うことにした。

[表 2-5 平成 29 年度以降グローバル人材プログラム iCoToBa 開講科目の読み替え方法]

科目名	担当	読み替え科目
日本紹介	iCoToBa	「共通各論(グローバル:日本紹介)」※1
比較文化セミナー	iCoToBa	「共通各論(グローバル:比較文化セミナー)」※1
リサーチ・発信プロジェクト①	iCoToBa	平成 29 年度開講される演習 または iCoToBa 外国語科目
学生共同プロジェクト 留学体験発表会	iCoToBa	「研究各論(異文化コミュニケーション)」※2
リサーチ・発信プロジェクト②	iCoToBa	「海外協定大学修得科目」2 単位

※1 平成 27 年度以前入学生は、これらの科目の単位は修得できない

※2 設置単位 4 単位を修得済みの場合は、科目に合格しても、単位は修得できない。ただし、平成 28 年度開講分までの修得単位は、科目群「E. 異文化適応能力」の必要単位に参入できる。

⑥平成 29 年度からの全学プログラム「グローバル実践教育プログラム」の整備

文部科学省の助成終了後は、本学のグローバル人材育成推進事業は、学術研究分野と教育分野の 2 本柱で進められる。教育分野については、「グローバル実践教育事業作業部会(グローバル実践 WG)」が平成 29 年度の全学プログラム開講に向けて準備を進めることになった。グローバル実践 WG は、①地域で活躍するグローバル人材の育成、②全学の英語力向上、③大学のグローバル化の推進、の 3 点を目標に立て、愛知県の地域特性と本学の各学部の専門性を考慮し、地域のグローバル化に伴う課題に取り組み解決できる人材の育成を目指したプログラムを設計した(pp.13-15、表 2-6)。本事業の外国語学部「グローバル人材プログラム」が定めた8つの能力別に科目を設定すると共に、他学部開放科目を指定し、複数の学部学生が共に学べるようにした。このことにより、専門性の異なる学生が、それぞれの知識を基に問題解決に取り組める教室活動も可能となるだろう。

［表 2-6　平成 29 年度開講・グローバル実践教育プログラム科目一覧］

科目群	開講科目	設置単位	注2	必修単位				
				外語	日文	教福	看護	情報
A・国際教養	愛知の歴史と文化（教養教育・グローバル）	2		2	2	2	2	2
	日本の歴史と文化（教養教育・グローバル）	2						
	アジアの歴史と文化（教養教育・グローバル）	2						
	ヨーロッパの歴史と文化（教養教育・グローバル）	2		2				
	北アメリカの歴史と文化（教養教育・グローバル）	2						
	ラテンアメリカの歴史と文化（教養教育・グローバル）	2						
	国際関係（教養教育・グローバル）	2						
B・プレゼンテーションスキル	国文学基礎研究（上代）（国語国文学科・学科基礎科目）	4			2			
	国文学基礎研究（中古）（国語国文学科・学科基礎科目）	4						
	国文学基礎研究（中世）（国語国文学科・学科基礎科目）	4						
	国文学基礎研究（近世）（国語国文学科・学科基礎科目）	4						
	国文学基礎研究（近代）（国語国文学科・学科基礎科目）	4						
	国語学基礎研究（国語国文学科・学科基礎科目）	4						
	漢文学基礎研究（国語国文学科・学科基礎科目）	4						
	歴史文化学基礎演習（歴史文化学科・学科基礎科目）	2						
	社会文化学基礎演習（歴史文化学科・学科基礎科目）	2						
	教育福祉学基礎演習（教育福祉学部・学部共通科目）	2				2		
	看護英語（看護学部・専門基礎科学 ）	1					2	
	英語文化特論（看護学部・専門基礎科学）	1						
	卒業研究Ⅱ（情報科学部・卒業研究）	3						3
	共通各論（グローバル:日本紹介）（外国語学部・専門発展科目）	2		2				
C・情報リテラシー	情報リテラシー（教養教育・キャリア・スキル）	2		2	2	2	2	
	メディア情報基礎（教養教育・キャリア・スキル）	2						
	高度情報社会の理解（教養教育・キャリア・スキル）	2						2
	キャリアのための統計入門（教養教育・キャリア・スキル）	2						
D・広義のコミュニケーション力	コミュニケーション論（教養教育・人間への洞察）	2		2	2	2	2	2
	多文化社会とコミュニケーション（教養教育・グローバル）	2						
	キャリア実践（教養教育・キャリア形成支援）	2						
	日本語表現法（教養教育・キャリア・スキル）	2						
E・異文化適用能力	英語連続セミナー（教養教育・グローバル）	2		2	※a	2	2	※b
	Japan Seen from Outside （教養教育・グローバル）	2						
	日本と異文化の交流（教養教育・グローバル）	2						
	看護・英語海外研修（看護学部・専門基礎科学）	1						
	共通各論（グローバル:比較文化セミナー）（外国語学部・専門発展科目）	2		2				
	海外協定大学修得科目（外国語学部）	20		2				
	海外協定大学修得科目（情報科学部）	8						※b
	海外研修（文学・コミュニケーション）（国語国文学科・海外協定修得科目）	8			※a			
	海外研修（海外文化事情）（歴史文化学科・海外協定修得科目）	8						

F・課題発見・解決力	座学＋フィールドワーク＋PBL	情報科学セミナー（情報科学部・卒業研究）	2						※c
		臨床検査医学（看護学部・専門基礎科学）	1					2	
		臨床検査医学演習（看護学部・専門基礎科学）	1						
		地域に学ぶ（教養教育・特別開講科目）	2		2	2	2		※c
		情報科学のものづくり（教養教育・科学技術と人間）	2						
		教育臨床（教育発達学科・展開科目）★	2	○					
		社会調査法（社会福祉学科・基幹科目）★	4	○					
		研究各論（異文化コミュニケーション）（国際関係学科、フランス語圏専攻、ドイツ語圏専攻・専門発展科目）※2	4	○		2			
		共通各論（グローバル：リサーチ・発信プロジェクト）（外国語学部・専門発展科目）※1	2	○	2				
		国文学実習（国語国文学科・学科基幹科目）	1						
		国語学実習（国語国文学科・学科基幹科目）	1						
		資料調査法（歴史文化学科・学科基幹科目）	4						
	座学（知識）	看護学習法入門（看護学部・専門基礎科学）	1					4	
		国際看護学（看護学部・広域看護学）	1						
		日本文化史Ⅰ（日本文化学部・学部共通科目）★	2	○		4	4		4
		日本文化史Ⅱ（日本文化学部・学部共通科目）★	2	○					
		日本のことば・日本の文学Ⅰ（日本文化学部・学部共通科目）★	2	○	4				
		日本のことば・日本の文学Ⅱ（日本文化学部・学部共通科目）★	2	○					
		人間関係論（看護学部・専門基礎科学）★	1	○					
		国際保健学（看護学部・広域看護学）★	1	○					
		生涯教育（教育福祉学部・学部共通科目）	2	○					
		教育制度論（教育発達学科：基幹科目）※4	2	○					
		多文化社会論（社会福祉学科・基幹科目）	2	○					
		地域社会学 Ⅰ（社会福祉学科・基幹科目）	2	○					
		地域社会学 Ⅱ（社会福祉学科・基幹科目）	2	○					
		地域社会学（歴史文化学科・学科基幹科目）	4	○					
		ヒューマンインターフェース論（情報科学部・基幹科目）	2	○					
		知識情報処理論（情報科学部・基幹科目）★	2	○					
		オペレーションズ・リサーチ（情報科学部・展開科目）★	2	○					
		研究各論（多文化共生論）（国際関係学科、フランス語圏専攻、ドイツ語圏専攻、スペイン語圏専攻・専門発展科目）※2	4	○					
		研究各論（地域社会論）（国際関係学科、フランス語圏専攻、ドイツ語圏専攻・専門発展科目）※2	2	○					
		研究各論（スペイン・ラテンアメリカ文化）（スペイン語圏専攻・専門発展科目）	4	○					
		共通各論（日本の文化）（外国語学部・学部専門科目）※3	4						
G・マネジメント能力		インターンシップ(教養教育・キャリア形成支援)	2		※d	2	2	※e	2
		人生設計とキャリア（教養教育・キャリア形成支援）	2						
		サービスラーニング（教育発達学科・展開科目）	1						
		教育現場学習（教育発達学科・展開科目）※4	2						
		研究各論（NPO論）（国際関係学科、フランス語圏専攻、ドイツ語圏専攻、スペイン語圏専攻・専門発展科目）※2	2		※d				
		看護管理学概論（看護学部・総合看護学）	1					※e	
		看護管理方法論（看護学部・総合看護学）	1						

H・外国語能力	World News（教養教育・外国語）	1			4	4	4	
	Issues of Our Times（教養教育・外国語）	1						
	Introducing Japan（教養教育・外国語）	1						
	Expressing Your Ideas（教養教育・外国語）	1						
	ドイツ語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	ドイツ語Ⅱ（教養教育・外国語）	4						
	フランス語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	フランス語Ⅱ（教養教育・外国語）	4						
	スペイン語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	スペイン語Ⅱ（教養教育・外国語）	4						
	ポルトガル語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	ポルトガル語Ⅱ（教養教育・外国語）	4						
	ロシア語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	ロシア語Ⅱ（教養教育・外国語）	4						
	中国語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	中国語Ⅱ（教養教育・外国語）	4						
	韓国朝鮮語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	日本語Ⅰ（教養教育・外国語）	4						
	日本語Ⅱ（教養教育・外国語）	4						
合計				26	22	22	22	19

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

平成 25 年度に始まった「グローバル人材プログラム」も 4 年目に入り、本プログラム指定の iCoToBa 科目の時間割編成や manaba を利用した履修登録などにおいて、ノウハウが蓄積されてきた結果、新学期に向けた準備作業がスムーズにおこなわれている。

平成 28 年度卒業する学生のうち、すでに「グローバル人材プログラム修了見込証明書」を発行された者が 10 名おり、「グローバル人材プログラム」修了者の増加が見込まれる。

平成 28 年度に iCoToBa で開講したグローバル人材プログラム科目の履修者は、のべ 372 名であった。加えて、人材プログラムで義務付けられている情報検索講座（初級編）の合格者が 54 名（前期 41 名、後期 13 名）、情報検索講座（上級編）合格者が 33 名（前期 24 名、後期 9 名）であることから考えると、一定数の学生が、グローバル人材プログラムの修了を目指していることうかがえる。次年度以降も、旧カリキュラムでの本プログラムの修了を目指す者と新カリキュラムでの修了を目指す者が着実に増加していくものと期待される。本年度の修了見込が 10 名と、決して多くはないが、専攻言語の能力向上は明らかなことから、来年度以降も iCoToBa 等で複数言語能力の学習支援を続けていくことが必要である。

②改善すべきこと

本年度は、前期新学期に本プログラムのガイダンスおよび履修相談を実施し、熱心に取り組んでいる学生へのきめ細かい指導はできたが、本プログラムに取り組んでいる学生のすそ野が十分に広がっているとはいえない。学生からの履修上の相談に対応できる教員がグローバル人材育成推進室の各学科・専攻の室員しかいないことも、その原因の一つといえる。今後、修了者数を増やしていくためにも、さらなる周知徹底を図る。

5. 事業全体での評価（総括）

平成 28 年度に実施したガイダンスでは、学生の視点に立ち、本事業に関連する部署（iCoToBa 委員会、国際交流室）とも連携をとり、一元化した情報提供を行うことができた。

本事業は平成 28 年度で文部科学省からの事業助成が終了するため、全学のグローバル実践教育作業部会を立ち上げ、新プログラムを整備した。あわせて、事業助成終了後の外国語学部「グローバル人材プログラム」（旧カリキュラム）の実施体制を確立するため、「グローバル推進委員会」を立ち上げ、規程を作成し、現在の「グローバル人材育成推進室」からの引継ぎ事項を確認した。平成 29 年度以降は、グローバル実践教育推進室が iCoToBa での開講科目や教育サービス等を運営する。来年度は、全学の教育ニーズも探りながら運営を進める予定である。

3. iCoToBa（多言語学習センター）

1. 概要

iCoToBa（多言語学習センター）は、本事業採択に伴い、本学の外国語学習支援と異文化理解および異文化交流推進を目的に開設された学習施設である。

iCoToBa では、英語 2 名、フランス語、スペイン語、中国語各 1 名の外国人専任教員と、ドイツ語の非常勤講師によるバラエティ豊かな語学授業が提供されている。また、留学アドバイザー（非常勤）と語学学習アドバイザー（専任）による個別指導も行っており、学生の外国語能力養成と留学計画を含めた計画的な学修ができるようサポートしている。

iCoToBa は、以下の役割を担っている。

a） 語学授業の提供

英語 45 時間（90 分×30 コマ）、フランス語、スペイン語、中国語は、各 15 時間（90 分×10 コマ）、ドイツ語 4.5 時間（90 分×3 コマ）の語学授業を開講している。語学授業は、専攻外国語と第 2 外国語の授業や外国語学部学生の必修科目の時間帯を調査し、できるだけ学生が履修しやすい時間帯に設定するように工夫されている。

b） 語学学習アドバイジングと自律学習支援

iCoToBa では、専任の語学学習アドバイザーが、TOEFL や IELTS など、英語圏の大学への留学に必要な試験準備の指導に加え、留学準備に関する個別相談にのっている。また、e-Learningを用いた語学学習に学生が自主的に取り組めるよう、e-Learningガイダンスを立案・実施している。英語以外の e-Learning については、各学科・専攻の iCoToBa 委員が中心となり、使用方法や勉強方法について説明会を開催している。

これに加え、学生が自由に外国人教員と外国語での自由会話や学習相談ができる「iContact」という時間を設定している。平成 27 年度からは、教養教育センターとの協働により、教養教育センター所属外国人教員 4 名も担当し、週あたり 17 時間開設している。

c） 留学アドバイザーによる個別指導および留学体験報告会の実施

非常勤の留学アドバイザーが、国際交流室との協働のもと、個別に留学準備のための相談に応じている。加えて、iCoToBa では留学体験をした学生の体験談を聞くイベントなど、学生に対する留学への動機づけを目指したイベントを計画・実施している。

d） 異文化理解、異文化交流を促進させるイベントの開催

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。これは、本学の学生にとって、異文化を理解し実際に外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、教員が企画運営をするのではなく、

企画段階から学生も参加することで、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。

e) 学生活動のサポート

d の活動を契機に、学生自身が「ともに創りだす楽しさ」を発見することも多い。これを成長の機会ととらえ、iCoToBa では、学生自身が企画を作成し実施することも推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa Supporters Club（ISC）が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。

f) 情報発信

Web サイトやインターネットポートフォリオを活用し、外国語学習や留学に関する情報提供を行っている。また、学生の自主的な活動のサポートとしてインターネットポートフォリオ内にコミュニティを立ち上げ、運営している。

加えて、iCoToBa で取り組んでいる語学授業や教育手法について研究会での実践報告や教材開発も行っている。

2. 平成 28 年度の目標

iCoToBa 開講の外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目をすべて開講する。PBL 手法に基づく外国語教育を拡充し、語学学習支援と異文化交流行事を充実させる。また、平成 29 年度のグローバル事業の全学化を見据え、外国語学部以外の学生を対象とした語学講座やイベントを開講する。1 日あたりの iCoToBa 利用者数の目標値を 60 名とする。

3. 平成 28 年度の実績

① iCoToBa ガイダンスの実施

平成 28 年度は、昨年度と同様 iCoToBa 主催の新入生対象ガイダンスを 2 種類実施した。iCoToBa の雰囲気に触れることを目的とした「iCoToBa Welcome Week」と、外国語学習の動機づけと主体的な学びを促すことを主眼においた「iCoToBa 新入生ガイダンス」である。

a) iCoToBa Welcome Week

本年度の iCoToBa Welcome Week は、4 月 8 日（金曜日）から 4 月 14 日（木曜日）にかけて開催された。Welcome Week 期間中は、①各言語の授業説明会と体験授業、②異文化理解イベント、③自由会話を楽しむ時間を毎日設定し、多くの学生が参加した。昨年度同様、学生が集中し混乱するのを避け、より多くの学生が参加できるよう言語ごとにスケジュール調整した。

英語のガイダンスでは教員とコーヒーを片手に iCoToBa で何ができるか紹介する時間を設けたほか、TOEIC 対策授業の説明会を行った。フランス語、スペイン語ではお茶や昼食をとりながら教員からiCoToBa授業について説明し、学生がiCoToBa活用法をイメージできる時間を設けた。中国語のガイダンスでは、iCoToBa 教員による中国茶のデモンストレーションを行い、学生の語学学習に対する関心を高めた。

Welcome Week 最終日には、世界のパンケーキ試食会を開催した。1 年生を中心に 103 名の学生が参加し、多くの学生に iCoToBa を利用する機会を提供した。学生ボランティアおよび留学生の積極的な参加がイベントを盛り上げた。

期間中、語学学習アドバイザーによるカウンセリングも実施し、のべ 36 名の学生に対応した。相談内容は検定試験対策に関することが多かった。

Welcome Week 期間中に iCoToBa を利用した学生数はのべ 453 名（1 日平均 90 名)であり、学年では 1 年生が最も多く全体の 69%（311 名）であった。Welcome Week の開催により、新入生に iCoToBa の施設や授業内容について十分に周知できた。

［iCoToBa Welcome Week の様子］

［図 3-1 iCoToBa Welcome Week スケジュール］

2016 iCoToBa Welcome Week Schedule

	4 月 8 日（金）	4 月 11 日（月）	4 月 12 日（火）	4 月 13 日（水）	4 月 14 日（木）
1 限			Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (9:50~10:20)		
2 限	顧先生：中国茶会と中国語 1 年生対象 (10:30~11:15)	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (10:30~11:00)	Sergio 先生： スペイン語圏の文化と言語 (11:30~12:00)	顧先生：中国茶会と中国語 2・3 年生対象 (10:30~11:15) Sergio 先生:スペイン語圏文化 (11:00~11:30)	TOEIC 説明会@A.S. (10:30~11:00)
ランチタイム	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time (12:10~12:40)		顧先生：中国語とランチ (12:00~12:50) Sergio 先生：1 年生対象 スペイン語とランチ (12:15~12:45)	Sergio 先生：2・3 年生対象 スペイン語圏の文化と言語 (12:15~12:45) Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (12:30~13:00)	Sergio 先生：1 年生対象 スペイン語とランチ (12:15~12:45)
3 限	TOEIC 説明会@A.S. (13:00~13:30)	顧先生：中国茶会と中国語 個別相談（中国語） (13:30~14:15)	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time (13:30~14:00) Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (12:50~13:20)	顧先生：中国茶会と中国語 1 年生対象 (12:50~13:35)	顧先生：個別相談(中国語) Sergio 先生： スペイン語圏文化 (13:00~13:30) Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (12:50~13:20)
4 限	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (14:30~15:00)	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (14:30~15:00)	Morgan 先生(フランス語) 説明会+ティタイム@A.S. (14:30~15:00)	Fern 先生と Brett 先生(英語) Coffee Time(14:30~15:00)	
5 限					要申込み！ 世界のパンケーキ試食会 先着 60 名！ 申込み先：iCoToBa

b) iCoToBa 新入生ガイダンス

このガイダンスは、外国語学習の目標や方法について考え、話し合うことで、新入生が学びの主体であることを意識させるために、iCoToBa 委員、iCoToBa 教員、グローバル人材育成推進室室員の協力により、90 分間のガイダンスを 2 回実施した。

それぞれのガイダンスの目的は下記のとおりである。

iCoToBa ガイダンスⅠ：iCoToBa の説明、グローバル人材プログラムの説明・履修方法、外国語学習の動機づけ
iCoToBa ガイダンスⅡ：e-Learning、manaba の使い方の理解

［表 3-1　平成 28 年度 iCoToBa 新入生ガイダンス日程］

学科・専攻	1 回目	2 回目
英米学科	4 月 8 日（金）	4 月 13、20、27 日（水）
フランス語圏専攻	4 月 6 日（水）	4 月 13 日（水）
スペイン語圏専攻	4 月 6 日（水）	4 月 8 日（金）
ドイツ語圏専攻	4 月 8 日（金）	4 月 13 日（水）
中国学科	4 月 12 日（火）	4 月 19、26 日（火）
国際関係学科	4 月 8 日（金）	4 月 14 日（木）

［iCoToBa 新入生ガイダンスの様子］

以上の 2 種類のガイダンスに加え、グローバル事業関連ガイダンスや行事についてまとめたプリント「グローバル人材プログラム& iCoToBa at a glance」を作成・配布した。

［図 3-2 グローバル人材プログラム＆iCoToBa at a glance］

② iCoToBa 開講科目

iCoToBa では、外国語学部の専攻外国語である英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の語学授業を開講している。レベル別（ヨーロッパ共通参照枠：CEFR A1~C1）・目的別（4 技能、留学準備、グローバル人材プログラム指定科目）に設定し、正課の授業で身につけた言語知識をもとに、実際的な運用能力を身につけることと、学習言語が話されている地域の文化や社会について、学習言語で学び、ディスカッションを通して理解を深める授業設計をしている。

以下は、平成 28 年度に iCoToBa で開講した科目および受講者の一覧である。なお、各表左端の列「指定」の「○」は、外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目であることを示している。

本年度の iCoToBa 開講科目の受講者は、のべ数で前期 779 名、後期 636 名、サマープログラム 58 名、スプリングプログラム 42 名であった。

［表 3-2　平成 28 年度前期 iCoToBa 開講科目］

指定	科目名称	各言語科目名称	対象レベル	受講者数
	サバイバル英語 1	Survival English 1	A2-B1	35
	サバイバル英語 2	Survival English 2	A2-B1	19
	トピックトーク	Topic Talk	A2-B2	17
○	英語で日本 PR プロジェクト	J-Ambassador	B1-C1	15
○	グローバル食品産業:何を食べていますか？	The Global Food Industry: What are we eating?	B2-C1	4
○	グローバルリーダー	Global Leader	B1-C1	12
	TED から学ぶ	TED Talks	B1-C1	12
	発音練習 1	Pronunciation Profiles 1	A2-B1	24
	発音練習 2	Pronunciation Profiles 2	A2-B1	15
	映画で英語学習	Study English with Movies	A2-B2	15
○	比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures:The English-Speaking World	A2-B1	7
	会話を上手に	Get Good at Speaking	B1 or higher	13
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！1	Research and Presentation Project 1	A2-B2	5
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！2	Research and Presentation Project 2	A2-B2	15
	実際に使える英語表現・イディオム	Real-Life Expressions and Idioms	A2-B1	9
	英語で自分の海外旅行計画を立てよう！	Plan a Trip in English	A2-B2	21
○	映画で会話力を上昇！	Talking Better with Movies	B1-C1	11
○	漫画とアメコミの文化的想像力を比べたら？	Advanced Course: The Cultural Imagination of Manga and Comics	B2-C1	7
	検定対策 TOEIC 対策 1	TOEIC Intensive 1	A1-C1 全学部	19
	検定対策 TOEIC 対策 2	TOEIC Intensive 2	A1-C1 全学部	13
	検定対策 TOEIC 対策 3	TOEIC Intensive 3	A1-C1 全学部	3

	検定対策 TOEIC 対策 4	TOEIC Intensive 4	A1-C1 全学部	4
	検定対策演習 1 （早朝特訓）	TOEIC Early Bird 1	A2-C1 全学部	13
	検定対策演習 2 （早朝特訓）	TOEIC Early Bird 2	A2-C1 全学部	7
	検定対策　TOEFL	Strategic TOEFL	A2-C1	14
	検定対策　IELTS	Successful IELTS	A2-C1	3
	検定対策ボキャブラリー	Vocabulary for Exams	A1-B2 外語以外	3
	検定対策　ライティング	Writing for Exams	A2-C1	6
	検定対策　リスニング	Listening for Exams	A2-C1	8
	検定対策スピーキング	Speaking for Exams: integrated	A2-C1	9
	発音サロン　1	Le français tout de suite 1	A1	30
	発音サロン　2	Le français tout de suite 2	A1	17
	めざせ仏検 3 級・準 2 級	Cours de préparation au DAPF - 3 kyu / jun 2 kyu	A2-B1	5
	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B2-C1	5
	フランス語で話そう!	Petite discussion en français	B2-C1 3、4 年生	4
	フランス語クラブ初・中級	Atelier de français I	A1-A2	27
	フランス語クラブ中・上級	Atelier de français II	B1-C1	6
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	A2-B1	19
○	フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	A2-B1	15
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et Présentation	A2-B1	25
	スペイン語圏世界とグローバリティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad	B1-B2	3
	DELE A1 対策	Preparación para el examen DELE A1	A1 他学科/専攻	7
○	比較文化研究（スペイン語圏の学生と合同授業）	Estudios Culturales Comparativos con estudiantes hispanos	B1-B2	13
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación	B1-B2	12

	第 2 外国語としてのスペイン語	Español como Segunda Lengua Extranjera A1	A1 他学科/専攻	6
	読解と討論 1	Lectura y Conversación A2	A2	5
	DELE B1 対策＋α	Preparación para el Examen DELE B1	B1	1
	読解と討論 2	Lectura y Conversación A2	A2	10
	初級スペイン語 1	Español Básico Nivel A1	スペイン語圏 専攻 1 年	24
	初級スペイン語 2	Español Básico Nivel A1	スペイン語圏 専攻 1 年	21
	ドイツ日常語と実践会話 1	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1	18
○	リサーチ発信プロジェクト	Forschungs- und Präsentationsprojekt	A2-B2	5
○	比較文化セミナー	Deutsche Kultur Auslandsstudiumsbetreuung	B1-	2
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2	3
○	中国と日本の比較文化	中日文化比较	A2	4
	実践中国語（聴解と会話）	生活汉语（听力与会话）	B1	3
○	リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与发表	A2	3
	複文トレーニング	复句强化练习	A2	5
	発音特訓講座A	发音特训讲座 A	A1	10
	中検 2 級対策	中检 2 级应试对策	B1	3
	発音特訓講座 B	发音特训讲座 B	A1	13
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2	4
	慣用句でリアルフレーズ	常用惯用语	B2	4
	発音特訓講座C	发音特训讲座C	A1	10
	発音特訓講座D	发音特训讲座D	A1	10
	発音特訓講座E	发音特训讲座E	A1	10

	発音特訓講座F	发音特训讲座F	A1	9
○	リサーチ・発信プロジェクト②	Research and Presentation Project 2	A2-B2	5
○	留学体験発表会	Presentation of Study Abroad Experience	A2-C1	12
○	学生共同プロジェクト (Immersion Program)	Group Work Project (Immersion Program)	A2-C1	15
○	地域ものづくり学生共同プロジェクト	Local Business Student Collaborative Project	B2-C1	18

［表 3-3　平成 28 年度後期 iCoToBa 開講科目］

指定	科目名称	各言語科目名称	対象レベル	受講者数
	サバイバル英語	Survival English	A2-B1	15
	ワードパワー！	Word Power!	A2-B2	11
	1 分間スピーチを練習しよう！	One-minute Speech	A2-B2	8
○	英語で日本PRプロジェクト	J-Ambassador	B1-C1	3
○	グローバル食品産業:何を食べていますか？	The Global Food Industry: What are we eating?	B1-C1	5
○	グローバルリーダー	Global Leader	B1-C1	11
	TED から学ぶ	TED Talks	B2-C1	7
	英会話:基本へ立ち返る（全学部生対象）	English: Back to Basics	A1-B1	25
○	比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World	A2-B1	12
	英語で自分の海外旅行計画を立てよう！	Plan a Trip in English	A2-B2	16
○	上級コース:「日本人は社会を変える意識がない」と言われたけれど、本当にそうですか？2	Advanced Course: Politics, Social Change, and the Japanese　2	A2-B2	3
○	プロジェクトワークを行って発表しよう！2	Research and Presentation Project 2	A2-B2	6

	会話を上手に！1	Get Good at Speaking 1	B1 or higher 全学部	9
	会話を上手に！2	Get Good at Speaking 2	B1 or higher 全学部	14
○	日本コンテンツ文化英訳プロジェクト	Japan Contents Culture Translation Project	B1-B2 全学部	8
○	世界ニュースと私	Global News and You	B1-C1	6
○	上級コース:「日本人は社会を変える意識がない」と言われたけれど、本当にそうですか？1	Advanced Course: Politics, Social Change,and the Japanese 1	B2-C1	11
	検定対策 TOEIC 対策 1	TOEIC Intensive 1	A2-C1 外語以外	10
	検定対策 TOEIC 対策 2	TOEIC Intensive 2	A2-C1	3
	検定対策 TOEIC 対策 3	TOEIC Intensive 3	A2-C1	20
	検定対策 TOEIC 対策 4	TOEIC Intensive 4	A2-C1	6
	早朝特訓 目指せスコア 800	TOEIC Early Bird 1	A2-C1 全学部	18
	早朝特訓 目指せスコア 900	TOEIC Early Bird 2	A2-C1 全学部	13
	早朝特訓 新形式テスト対応	TOEIC Early Bird 3	A2-C1 全学部	22
	検定対策 スピーキング	Speaking for Exams: Integrated	A2-C1	7
	検定対策 ライティング	Writing for Exams	A2-C1	15
	検定対策 リスニング	Listening for Exams	A2-C1 全学部	3
	発音サロン 1	Le français tout de suite 1	A1	11
	発音サロン 2	Le français tout de suite 2	A1	6
	めざせ仏検 3 級・準 2 級	Cours de préparation au DAPF - 3 kyu / jun 2 kyu	A2-B1	2
	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B2-C1	11
	フランス語で話そう!	Petite discussion en français	B1-B2 3、4 年生	5

	フランス語クラブ初・中級	Atelier de français I	A1-A2	6
	フランス語クラブ中・上級	Atelier de français II	B1-C1	3
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	A2-B1	4
○	フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	A2-B1	7
○	リサーチ・発信プロジェクト	Recherche et Présentation	A2-B1	6
	スペイン語圏世界とグローバリティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad	B1-B2	8
	第 2 外国語としてのスペイン語 A1	Español como Segunda Lengua Extranjera A1	A 他学科/専攻	2
○	比較文化研究（スペイン語圏の学生と合同授業）	Estudios Culturales Comparativos con estudiantes hispanos	B1-B2	12
○	リサーチ発信プロジェクト	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación	B1-B2	2
	DELE A1 対策	Preparación para el examen DELE A1	A1、他学科/専攻 2−4 年生対象	9
	読解と発言力 1	Lectura y Conversación A2	A2	7
	DELE B1 対策＋α	Preparación para el Examen DELE B1	B1	2
	読解と発言力 2	Lectura y Conversación A2	A2	2
	初級スペイン語 Ⅰ-1	Español Básico Nivel A1	A1 スペイン語圏専攻 1 年	8
	初級スペイン語 Ⅰ-2	Español Básico Nivel A1	A1 スペイン語圏専攻 1 年	5
	ドイツ日常語と実践会話	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1	6
○	ミュンスターアフターケア	Münsternachbereitung	A2-B1	4
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2	6
○	ドイツの文化：留学ケア	Deutsche Kultur: nach dem Auslandsstudium	B1-C1	1

	発音と初級会話	发音与初级会话	A1	33
	実践中国語 A（作文）	生活汉语 A（作文）	A2	1
	発音と朗読 a	发音与朗读	A2	5
○	日中比較文化	中日文化比较	A2	8
	発音と朗読 b	发音与朗读	A2	3
	中検 3 級対策	中检 3 级应试辅导	A2	13
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2	8
	実践中国語 B（聴解と会話）	生活汉语 B（听力与会话）	B1	1
	複文トレーニング	复句强化练习	B1	4
	成語、慣用句でリアルフレーズ	常用惯用语	B2	4
○	リサーチ・発信プロジェクト	实践调查与发表	B1	6
○	地域ものづくり 学生共同プロジェクト	Local Business Student Collaborative Project	B2-C1	33
○	リサーチ・発信プロジェクト②	Research and Presentation Project	A2-B2	85
○	留学体験発表会	Presentation of Study Abroad Experience	A2-C1	10

［表 3-4　平成 28 年度 iCoToBa サマープログラム開講科目］

指定	科目名称	各言語科目名称	対象レベル	受講者数
	日本を世界に紹介しよう: 日本文化プレゼンコンテストの準備講座	Introducing Japan to the World: Speech Contest Preparation Seminar	A2 以上	9
	英語で遊ぼう　～こどもと英語で楽しく遊ぶコツ	Enjoying English with Kids: Games and Tips	A1	6
	英語の力を復帰しよう　～英語でゲーム・会話の時間	Get back in the groove – English game and conversation afternoon	A2 以上	5

	英語プレゼンテーション ワークショップ	English Presentation Skills Workshop in iCoToBa	A2-B2	14
	検定試験対策講座 TOEIC（新 TOEIC 受験対策）	TOEIC New	A2-C1	8
	検定試験対策講座 TOEFL	TOEFL: integrated speaking	A2-C1	4
	検定試験対策講座 IELTS	IELTS: listening & writing	A2-C1	6
	思い出しフランス語 I	Le français dans la tête I	A2-B1	3
	夏休みスペイン語力向上講座	¿Cómo te lo pasas en tus primeras vacaciones?	A1 1 年生	3

［表 3-5 平成 28 年度 iCoToBa スプリングプログラム開講科目］

指定	科目名称	各言語科目名称	対象レベル	受講者数
	検定試験対策講座 IELTS/TOEFL	English for Exams	A2-C1	11
	検定試験 TOEIC IP	TOEIC IP	A2-C1	21
	英会話カフェ	Conversation Café	A1 以上	2
	思い出しフランス語 II	Le français dans la tête II	B2 以上	2
	Via Lactea, México, Perú 冬休み短期講座	Español Práctico	A2-B1/初中級-中級	2
	中検 3 級試験対策	中检 3 级考试辅导	A2-B2	4

③異文化交流イベントの実施

iCoToBa では、本学の学生の異文化理解および異文化交流を促進するために定期的にイベントを開催している。平成 28 年度は 17 回開催し、のべ 707 名が参加した。平成 28 年度に実施したイベントは、以下のとおりである。

［表 3-6 平成 28 年度 iCoToBa イベント］

実施日	時間	イベント名	参加者数
4 月 14 日	16:10~17:40	World Pancakes	103
4 月 27 日	13:30~16:30	留学生歓迎会　春	89

6 月　3 日 10 日 17 日 24 日	12:10~12:40	Spielmeister　ドイツ語学習ゲーム大会	6 7 10 14
6 月 15 日	12:00~12:50	ASEAN カフェ　#1	23
6 月 22 日	12:10~14:00	Australian Cooking	38
6 月 29 日	12:10~14:20	ドイツ留学交流会	45
6 月 29 日	13:30~15:30	卓球大会	35
7 月 6 日	13:30~15:10	中国語映画鑑賞会 沉睡魔咒(マレフィセント)	14
7 月 13 日	13:30~16:00	留学生送別会　夏	66
10 月 19 日	13:30~16:00	留学生歓迎会　秋	85
11 月 25 日	12:05~14:05	ASEAN カフェ　#2	33
12 月 14 日	14:30~17:00	餃子パーティー	25
12 月 19 日	12:00~14:20	Egg Nog and Christmas Cookies	37
12 月 21 日	13:30~15:30	中国語映画鑑賞会 疯狂动物城(ズートピア)	6
1 月 11 日	13:00~15:00	お茶会	26
1 月 18 日	13:30~16:00	留学生送別会　冬	19
2 月 1 日	12:10~12:50	ASEAN カフェ　#3	25

［7 月 13 日留学生送別会］

［12 月 19 日 Egg Nog and Christmas Cookies］

［1 月 11 日　お茶会］

［1 月 18 日　留学生送別会］

④留学報告会の実施

iCoToBa では、留学を終えた学生が、自身の留学体験をふりかえり、今後留学を計画している学生に充実した情報を提供するために、定期的に留学体験発表会を開催している。平成 28 年度は 22 回開催し、のべ 238 名が参加した。一覧を表 3-7 に示す。

［表 3-7　平成 28 年度開催の留学報告会］

	留学先（学校名）	国・地域	参加者数
4 月 21 日	Finis Terrae 大学	チリ	8
4 月 28 日	Tubingen 大学	ドイツ	20
5 月 12 日	四川師範大学	中国	28
5 月 19 日	Alicante 大学	スペイン	11
5 月 26 日	トビタテ！留学 Japan	ミャンマー	31
6 月 2 日	Swinburne 大学短期語学研修	オーストラリア	1
6 月 9 日	Memorial University of Newfoundland	カナダ	17
6 月 16 日	Otterbein 大学	米国	16
6 月 23 日	サンチアゴ巡礼（教員）	スペイン	12
7 月 7 日	Southeast Missouri State University	米国	4
10 月 6 日	プエブラ栄誉州立自治大学	メキシコ	20
10 月 20 日	Santiago de Compostela 大学	スペイン	14
10 月 27 日	Newcastle 大学	英国	12
11 月 10 日	Siberia 連邦大学	ロシア	11
11 月 17 日	A Coruna 大学	スペイン	6
11 月 24 日	Leipzig 大学	ドイツ	5
12 月 1 日	Alicante 大学	スペイン	4
12 月 8 日	Pompeu Fabra 大学	スペイン	6

12月15日	Toulouse大学	フランス	3
12月19日	東呉大学	台湾	4
1月12日	Zaragoza大学	スペイン	1
1月19日	上海外国語大学	中国	4

⑤ iCoToBa利用者数の推移（平成28年4月～12月）

iCoToBa開設以降、利用者数は順調に増加している。4月～12月の外国語学部利用者数の推移を見ると、平成25年5,340人、26年6,125人、27年は7,764人28年は5,456人である。本年度は若干利用者数が減少している。ただ、個別に見た場合、特に中国学科の利用者数が昨年度696人からほぼ倍増している。これはiCoToBa外国人教員が授業と連動したセッションを iCoToBa で行った結果である。また、外国語学部以外の学生については、平成25年、26年はほぼ変動がなかったが（平成25年451人、26年478人27年719人）、本年度は540人である。ここでも個別に見ると、昨年度47人だった1年生の利用者が、102人へと倍増している。昨年度から全学部の学生に開放したiCoToBaの科目数が増えたことが要因と思われる。また、大学院生の利用者数が 38 人から 62 人に増加していることもiCoToBaが多言語学習センターとして広く認知されていると評価できよう。

［表3-8 平成28年度iCoToBa利用者一覧（外国語学部）］

平成28年4月~12月（人数はのべ数）

入学年度	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	計
2016	327	265	582	288	799	276	2,537
2015	129	299	730	195	305	98	1,756
2014	68	94	140	116	98	111	627
2013	116	10	83	62	31	82	384
2012以前	13	29	33	10	10	57	152
計	653	697	1,568	671	1,243	624	5,456

［表3-9 平成28年度iCoToBa利用者一覧（外国語学部以外）］

平成28年4月~12月（人数はのべ数）

入学年度	日本文化		教育福祉		看護	情報	大学院	※交換留学生	計
	国語国文	歴史文化	教育発達	社会福祉					
2016	33	12	51	1	0	5	56	104	262
2015	0	4	3	7	0	2	6	160	182

2014	7	17	8	2	0	54	0	0	88
2013	0	0	0	0	0	3	0	0	3
2012 以前	0	0	0	0	0	5	0	0	5
計	40	33	62	10	0	69	62	264	540

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す

⑥教材開発・授業実践報告

iCoToBa では、グローバル人材育成推進事業で目標としている能力養成を目指し、教育実践に基づく教材開発に取り組んでいる。平成 28 年度は、これらの成果として、2 冊の教材と 4 冊の授業実践に関する報告書を作成した。

［教材開発］

a) Words and Phrases（英語）
b) Mag' iCoToBa #3（フランス語）

［授業実践報告書］

c) Short Essay Writing Activity Book（英語）
d) 地域ものづくり学生共同プロジェクト成果報告書（多言語）
e) ASEAN Café（多言語）
f) Heart of Japan:All about Aichi（英語）

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

本年度は、iCoToBa で開催した異文化交流イベントの大部分を iCoToBa Supporters Club (ISC)の学生が担当し、学生による自主的な活動が促進されたといえる。来年度からのグローバル事業の全学化にむけ、他学部生を対象とした講座やイベントも開催した。これらは、まだ数値としては効果が現れていないが、学生出版会サークルが iCoToBa を取り上げた記事を特集したり、2016 年 12 月、2017 年 1 月に放映された大学紹介番組「ダイガクモン」（ひまわりネットワーク）で iCoToBa がとりあげられるなど、確実に大学内での存在感が高まっている。本年度は iCoToBa の語学講座や iContact を活用する他学部生も増えており、今後の拡がりが期待できる。

②改善すべきこと

平成 28 年度は、iCoToBa の外国人専任教員が 1 名減となり、開講授業数やイベント数が減少したため、iCoToBa の利用者数、受講者数、イベント参加者数全てが前年度を下回る結果となった。1 日あたりの利用者数も 43 名と、目標を達成できなかった。これは、交換留学生

の利用が平成 28 年度は減少していたことがその一因ではないかと考えられる（平成 27 年度延べ 572 名→平成 28 年度延べ 264 名）。来年度は、iCoToBa の専属教員が 1 名になることもあり、iCoToBa 全体の求心力を上げるためには、留学生の利用を促す必要がある。次年度にむけて、ISC の学生メンバーとの打ち合わせを始めているが、今後さらに多くの学生が運営にかかわっていける仕組みを早急に整える必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

本事業において、iCoToBa での取り組みは中核をなすものであり、事業期間内に、アクティブラーニングや PBL 型、また CLIL を取り入れた授業など、さまざまな外国語教育のノウハウを蓄積することができた。この成果は、平成 29 年度より正課に移行される PBL 型のグローバル人材プログラム指定科目（「共通各論（グローバル：日本紹介）」、「共通各論（グローバル：比較文化セミナー）」、「共通各論（グローバル：リサーチ発信プロジェクト）」）に受け継がれる。また、地域と連携した教育プログラムや留学生と外国語で議論する授業の導入など、あらたなプログラムも生まれた。

数値として表すことはできないが、iCoToBa で学ぶ学生が、学科・専攻や学年を越えて交流し、まさしく iCoToBa がさまざまな異文化が出会う場所になっている。

次年度以降は、iCoToBa の運営は、グローバル実践教育推進室が担当する。語学講座の規模は大幅に縮小されるが、留学前の準備講座や英語の検定講座、アカデミックイングリッシュの講座は維持しつつ、本学の学部の専門性（教育、看護、介護など）が活かせる「地域コミュニティ言語講座」の開講を計画している。来年度は定期的に学生との話し合いをもちつつ、学生と共に魅力的な iCoToBa を創っていく。

4. 学修支援

本事業では、学生の主体的な自律学習と効果的な語学能力養成をめざし、学修支援を行っている。第 4 章では、本事業で導入した 2 つのシステム（e-Learning とインターネットポートフォリオ）、および、語学学習アドバイジングについて述べる。

4－1. e-Learning プログラム

1. 概要

平成 28 年度もこれまでと同様、学生の自立学習支援の一環として、6 種類の e-Learning コンテンツを採用している。

a) ALC NetAcademy 2 （アルク）
b) Rosetta Stone （ロゼッタストーン）
c) WORKOUT フランス語検定（スパーズ）
d) AVE Aula Virtual de Español (Instituto Cervantes)
e) WORKOUT ドイツ語検定（スパーズ）
f) 中国語検定過去問 WEB（高電社）

ロゼッタストーンの ID は外国語学部学生専用だが、その他のプログラムは、外国語学部生以外の、第 2 外国語の授業を履修する他学部の学生も利用可能である。なお、ALC NetAcademy 2 については、希望する職員全員に ID を配布しており、職員研修の一環としても活用されている。

2. 平成 28 年度の目標

学科・専攻における e-Learning ガイダンスを実施し、学生の学習動機付けを高める。また、学科・専攻および教養教育科目での活用を続ける。助成終了後の e-Learning の採用について、これまでの実績を基に、運用方法を決定する。

3. 平成 28 年度の実績

①利用状況

平成 28 年度の利用状況を表 4-1 に示す。

Rosetta Stone は平成 26 年度より配布可能 ID 数が半減したため、また、ALC NetAcademy 2 と WORKOUT については、平成 27 年度に実際に使っていない ID を整理したため、利用者数が減少している。

［表 4-1　e-Learning 利用状況の推移］

コンテンツ名	配布 ID 数			
	H. 25 年度	H. 26 年度	H. 27 年度	H. 28 年度
ALC NetAcademy 2	2,856	3,911	3,310	3,191
Rosetta Stone	794	363	374	359
WORKOUT フランス語検定	689	851	305	647
WORKOUT ドイツ語検定				
AVE Aula Virtual de Español	325	216	319	225
中国語検定過去問 WEB	503	445	597	283

②ガイダンスおよび学生サポート

新学期に開催される学科・専攻別新入生ガイダンスでIDの配布とe-Learningに関する説明、使い方に関するリーフレットを配布した。その後、第2回iCoToBaガイダンス（第3章参照）で、パソコン操作も含めた講習を実施し、新入生全員が講習を受けた。また、本年度は自由参加のALC NetAcademy 2とロゼッタストーンのガイダンスを、4月～5月に5回実施した。これに加え、マンツーマンで質問できるe-Learningランチタイムセッションを週3回設け、個別対応体制も整えた。第2外国語のIDについては、5月末までに授業内でIDとマニュアルを配布し、周知を徹底した。

③各言語プログラムに関する利用状況

［英語：ALC NetAcademy 2・ロゼッタストーン］

ロゼッタストーンの利用率について述べると、前述のとおり、英米学科では希望者のみの学習となっているが、アメリカ英語レベル 1 では、かなりの数の履修者があった。しかし、すべてをやり終える者は 20%未満である。一方、少数ではあるがレベル 5 まで達成した学習者もいた。

ALC NetAcademy 2 の利用率では、昨年度同様に授業（リーディング）の課題とした国際関係学科 1 年生は 80%以上の高い利用率となった。また、外国語学部以外では、教養教育外国語科目（英語）の授業において導入したクラスもあり、利用率は 20%近くとなった。

利用率をあげるため、今後の課題としては、授業の一環として e-Learning を取り入れるべきかどうか検討する必要がある。また、休学して留学している学生の方が逆に時間ができたり、やる気が出たりするせいか、利用希望を申し出てきた留学中の学生が複数名いた。これらの学生へのアカウント配布も今後検討する必要があるかもしれない。

［フランス語：WORKOUT フランス語検定］

利用率はあまり高くないが、本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、内容をさらに精査し、より良いものに仕上げ、今後の合格率上昇を図るべきであろう。平成 28 年度の秋季試験（受験料補助による団体受験）の一次試験の合格率は、準 1 級が 41.4%、2 級が 80%、準 2 級が 100%、3 級が 36%。（参考：全国の合格率は、準 1 級が 25.6%、2 級が 35.6%、準 2 級が 61.6%、3 級が 53.6%）であった。

［スペイン語：AVE Aula Virtual de Español スペイン語オンラインコース］

平成 28 年 5 月から 6 月にかけて、スペイン語圏専攻 1 年生、全学共通外国語科目「スペイン語 II」履修者に対し、計 5 回ガイダンスを実施した。1、2 年生の語学の授業によってはAVEを課題として指示しているクラスもある。とくに、長期休業期間に既習事項の復習や、聴き取り能力を伸ばすには本オンラインコースは効果的である。秋の DELE 対策としても使用されてきた。

［ドイツ語：WORKOUTドイツ語検定］

2 年生以上の学生にプログラムの周知が進んでいる一方で、実際に上位級プログラムの学習を終えた学生からは、「問題数が少ない」との指摘もある。利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能なコンテンツであるが、改訂には至っていない。また、独検の受検者数確保の観点から、就職活動の時期変更により 4 年生の受検者が減少しているという実情も考慮し、学習と受検のバランスをとる必要がある。

平成 28 年度春季の学内独検受検者の合格率は、2 級が 37.5%、4 級が 25%であった。

［中国語：中国語検定過去問 WEB］

無料受験の結果を含めての合格状況は、専攻の学生については、2 年生の 3 級は約 82%の合格者（2017 年 2 月調査時点、前年度 96%、前前年度 77%）、4 年生以上の 2 級以上の合格者は約 42%（2017 年 2 月調査時点、前年度 56%、前前年度 36%）で、無料受験が徹底されなかった分、ポイントを下げる結果となった。他学科の 3 級合格者については、まだ芳しくはないが、前回よりは増えていた（3 名）。3 級の合格者がでてきたことは前年と比べ、進歩があり、喜ばしいことである。今回は、試験結果についても分析してみたい。2 級の不合格者の結果をみると、1 年の留学を終えて受験した学生は、合格圏にいる。しかし、留学した学生の中でもしっかりと対策をしなかったのか、1 点足りず不合格という学生もみられることは残念である。対策を怠ったという理由しかない。留学していない学生については、リスニングよりも筆記試験に難がある。または、そもそもの基礎的能力が欠如してしまっている学生も見受けられた。しっかりと土台を固めていかなければ、さらなる上のレベルを目指せないことは確かである。中級段階を抜けるためには、3 級レベルの中国語文法をしっかり押さえて、さらなる文法事項をおさ

えること、そして、語彙量、慣用句、イディオムを抑えていかなければならない。2 級合格者は留学経験者ならびに留学しなくても国内での学習を着実にしてきた学生である。不合格者については、2 年次終了後進歩がなかったか、リスニング、筆記ともに伸び悩んでの結果と思われる。実際には、1 年次終了までに 3 級の合格、3 年次の前期（6 月）までに 2 級が合格できることが理想であると考える。実際の学習のピークや就職活動のことを考えれば、これが妥当な線であろう。また、留学帰りの 4 年次の中には準 1 級の合格者がいること、また 1 年の 11 月段階での 3 級合格、2 年の 11 月での 2 級合格がいることは、本当にうれしいことである。全員がこれを目指すことをするのはなかなか難しいが、意識の高い学生がこのように結果をだせることはいいことである。これらはモチベーションをもって、より高い志で学習を進めた成果であり、彼らの努力の結果そのものである。また、学生のほうからも、過去問 Web を学校や自宅でやっている旨の話も聞く。今後も e-Learning 学習の利用を推進していけば、よりよい結果が見込めると考えられる。しかし、iCoToBa 事業での中国語 e-Learning も今年度で終了である。来年度からも学生たちに何らかの方法でレベル向上、レベル維持の方法を考えていかなければならない。学生に声をかけながら、しっかりと彼らの学習にかかわっていければと思う。

［e-Learning と専攻授業との関連づけ］

e-Learning の段階的な学習を単位取得の要件とすることに関しては、上記の国際関係学科（ロゼッタストーン/アルク・英語）、ならびにドイツ語圏専攻（ロゼッタストーン・ドイツ語）の例が挙げられる。たとえばドイツ語圏専攻ではこの 3 年間、1 年生の専攻語学科目の後期の単位取得要件として、ロゼッタストーンの学習を義務づけている。1 年生の夏季にドイツ語圏留学を体験した学生にとっては、後期からのプログラム利用は帰国後のフォロー的側面をもつ。いずれにせよ、後期の授業を受ける 1 年生にあっては、留学経験の有無にかかわらず、ドイツ語学習をらせん状に補完する手段としてロゼッタストーンが活用されている。

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

正課の専攻言語科目や教養外国語科目などでの活用が定着している。アルクの利用率について、外国語学部以外では、教養教育外国語科目（英語）の授業においてアルクが導入されたクラスもあり、利用率は、平成 26 年度 9.7%、平成 27 年度 15.1%、平成 28 年度 20%と着実に増加している。平成 29 年度より全学対応の新グローバル事業がおこなわれることを考え合わせるならば注目に値する。また、在学生の利用だけでなく、グローバル推薦入試合格者の入学前の英語学習や、留学中の学生の自習用教材としても用いられている。

②改善すべきこと

本年度で助成が終了するため、ひとつの e-Learning 教材を除き、本年度で利用を終了する。

学生が外国語を学ぶ動機は、各種検定試験対策、留学準備を始めとして多岐にわたるため、既存の専攻の文法・講読科目、会話やコミュニケーションを重視した授業との相互作用に対して、授業担当者・管理者には準専門的、分析的な視点が求められる。大学での専門的知見とこれらのe-Learningの相互作用を分析的に把握した上で、プログラムを取捨選択していくことが不可欠となろう。本事業でe-Learningを導入し、その利点とともにe-Learningを活用した教育において留意しなければならない点も明らかになった。すでにインターネット上には、さまざまな外国語学習素材があり、学生の自律学習をうながすためにも、ニーズやレベルに合わせた活用方法を学生に伝えていく必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

本事業での e-Learning の導入は、iCoToBa 委員会での議論や、学部 FD での実践報告など、教室外での学生の語学学習支援について取り組む契機となった。言語によっては、e-Learning 教材そのものがまだ開発途中であり、本学の教員が語学教材の開発から携わったものもあった。

次年度からは、これまでの実績をひきつぎ、教養教育センターが中心となり、全学に英語の e-Learning 教材を導入する。これまでの経験を基に、学生の利用率の向上と、1、2 年次の TOEIC のテスト結果を定点観測することで、効果的な利用方法を検討する。

4－2. インターネットポートフォリオ

1. 概要

本事業は平成 25 年 2 月よりポートフォリオシステム「manaba folio（以下、manaba）」を導入し、学生の自主的な学びを促すツールとして活用している。本学における manaba の活用事例は以下のとおりである。活用事例については基本的に前年度から大きな変更はない。

［学修記録］
a）外国語学部「グローバル人材プログラム」の履修記録
b）学習成果の記録
［ピア学習の促進］
c）授業での課題・報告へのピアフィードバック
d）インターネット上で議論を深める
［教材提示・留学・国際交流情報の提供］
e）配付プリント、音声・映像教材の提供
f）iCoToBa、国際交流室の情報発信
［コミュニティの形成］
g）学生の組織化の促進
［教職員の情報共有］
h）グローバル人材育成推進室会議および iCoToBa 委員会の会議資料等の共有

2. 平成 28 年度の目標

前年度にひきつづき、上記 a～h の利用を滞りなく継続させる。助成終了後の利用方法と事務体制等を検討する。

3. 平成 28 年度の実績

① iCoToBa ガイダンスによるオリエンテーション

新入生を対象に、ポートフォリオの効果や利点についてガイダンスを実施した。実施内容については、第 3 章を参照いただきたい。

②留学支援ツールとしての活用

留学中の学生が受講する「リサーチ・発信プロジェクト②」で manaba を活用して指導を行っている。また、国際交流室が留学予定の学生に対して、事務連絡や事前準備などの情報提供に活用している。manaba コミュニティ「留学について話そう！」は、2017 年 1 月現在 637 名

（2015 年度、503 名）が参加しており、留学を希望する学生と留学中の学生がコミュニケーションできるネットワークとして機能している。

③ manaba のコミュニティの活用

外国語学習や留学などのテーマでコミュニティが利用されている。平成 29 年 1 月現在、「みんな集まれ iCoToBa 広場」の参加者数は、448 名（2015 年度 305 名）である。このほかにも卒業論文や免許・資格取得をめざしたコミュニティなども運用されており、コミュニケーションツールとしての活用が定着している。

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

外国語学部の一定数の教員が正課で manaba を積極的に利用している（レポート出題をしているコース月あたり 30～40）。また、manaba を活用している科目の中には、学生の自主学習時間が長いという結果もあり、学生の自律学習の促進には、一定の効果が出ている（ログイン学生数・月あたり延べ 800～1000 名）。

このほか、留学関係や免許・資格取得、キャリア支援のコミュニティが多く、学生が自主的な学習や情報共有に活用していると言えよう。

②改善すべきこと

教員の manaba 活用方法について、情報共有は十分に行われていない。次年度は大学予算で manaba の利用が継続され、全学導入への検討を行う予定である。どのような活用方法が有用か、早急に検討する必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

本学での manaba の利用により、授業における教員と学生の双方向コミュニケーションの促進と、学科・専攻や学年を越えた情報ネットワークを構築することができた。

次年度からは、manaba の管理運用は教育支援センターが担当する。スムーズな移行のために、これまでの蓄積を活かし、管理体制を構築していく。

4－3. 語学学習アドバイジング

1. 概要

外国語学習のサポートを目的として、語学学習アドバイザー教員が iCoToBa に常駐し、アドバイジング業務を担っている。主な業務は次の 3 つである。①海外留学準備としての外国語学習および留学後のフォローアップ、②TOEIC、IELTS、TOEFL などの検定試験対策に関するアドバイジング、③アルク NetAcademy2 およびロゼッタストーンによる e-Learning の促進。これらの業務遂行として、前期、後期それぞれの週 10 コマ、夏、春の長期休暇中の合計 50 コマの語学検定対策を中心とした授業に加えて、カウンセリングによる学生対応を実施するため、学期中における週 6 回のアドバイジングアワーおよび夏と春の長期休暇中の個別カウンセリングおよびセッションを設定している。

2. 平成 28 年度の目標

次の 3 点に関わるアドバイジングにより、学生の語学学習に対する意欲づけおよび語学力向上を図る。

まず、TOEIC 受験前に短期間で英語力を伸ばしたい学生からの相談に対応する。
グローバル人材プログラム修了要件の一つに TOEIC などの検定試験のスコアがあり、学生の外国語学習の意欲づけとなっている。就職活動時に語学力の証明として TOEIC スコアを提出することもあるため、学生にとっては TOEIC の目標スコア達成は重要課題である。

次に、留学に必要な語学力を伸ばすためのアドバイジングである。英語圏留学に際して、学部留学希望者は英語力の証明として TOEFL または IELTS のスコア提示が留学先より求められる。語学留学ではなく、大学学部留学を実現させたいという強い希望をもった学生対象にカウンセリングを実施する。必要に応じて個別セッションを実施する。

最後に、e-Learning の活用の推進である。iCoToBa の Self Study Space に設置されている 14 台のパソコンを用い、効果的な利用方法を学生に紹介する。アルク NetAcademy 2 やロゼッタストーンの普及に努める。また英語のエッセイライティングに際して、インターネットを活用した添削方法を紹介し、学生の自立学習を促す。

3. 平成 28 年度の実績

個別面談を中心としたアドバイジングおよび個人セッションにより、ライティングを中心に学生の弱点に焦点を置いた対応ができた。平成 28 年 4 月～1 月のアドバイスは、396 件（前年度：358 件）と、アドバイスを活用する学生が大幅に増加した。

留学希望の学生の学習歴やニーズを把握した上でのアドバイスを心がけた。具体的なアドバイス内容としては、TOEFL や IELTS の受験に役立つ問題集の紹介やスピーキングとライ

ティングの学習方法に加え、それぞれのテストの問題構成や採点方法についても解説している。その際、学生からはライティングの添削指導に関する要望が多く見られた。しかしながら、学生に必要なことは添削指導ではなく、クリティカルシンキングを学ぶことであると判断した。英語力以上に、大学生としての一般教養や社会問題に関する知識を身につけることが、エッセイの質を向上させるには必要である。従って、プレライティングとしてブレインストーミングや関連した記事のリーディングを推奨した。また、学生のスピーキング力向上のため、ネイティブ教員とのセッションのコーディネートを行った。会話練習が効率よく進むように、話題の提供や会話の運びに関して、事前に指導にあたった。

語学力は自身の不断の努力によって身につくと考えた場合、学生の自立学習は不可欠である。その能力養成のために、アドバイジングアワーの中で、e-Learning を積極的に活用するように働きかけた。

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

検定対策講座を受講した学生は、スコアに大きな改善がみられた。11 月から 12 月にかけて、昨年度同様に TOEIC 直前対策（TOEIC last minutes）として、授業とは別に、短期集中型の問題演習講座を開講し、学生に学習の機会を提供し、好評であった。のべ 176 名の学生が参加した。学期中の検定対策講座を受講することにより、スコアが 150～180 点上昇したという報告があった。

留学準備として TOEFL や IELTS を受験する学生に対しては、授業外の時間をフル活用し、個人セッションにあたった。昨年度に比べ、IELTS スコア 6.5 をクリアする学生が増え、複数の学生からスコア 7.0 を達成したとの報告を受けた。

②改善すべきこと

iCoToBa では e-Learning を自立学習の手段と位置づけ、検定試験対策および多言語習得のためのプログラムが用意されているが、利用実績が十分に伸びていない。利用方法や効果を定期的かつ継続的に学生に知らせたが、意識向上につながりづらい。

外国語学習をサポートするための方法として、外国人教員と自由に会話することで、外国語によるコミュニケーション能力の強化ができるよう iContact の時間を設定している。しかしながら、積極的かつ継続的な学生の参加がみられなかった。外国人教員から学生に対する働きかけが十分にされなかったことが原因の一つと思われる。今後、英語学習に興味を持ち iContact に参加した学生のモチベーションを維持できるような働きかけを教員間で考えていきたい。

5. 事業全体での評価（総括）

iCoToBa の開設以来、語学学習アドバイザーによるカウンセリングや検定対策の授業の効果が学生の間で認知されてきた。年を追うごとに、アドバイジング希望者や講座の受講者が増加した。外国語学習全般に対する意欲喚起や学習方法に関するカウンセリングを積極的かつ意図的に進めてきた結果である。

語学学習の枠を超え、個々の学生の卒業後の進路も視野に入れたアドバイジングを計画的かつ柔軟に対応したことで、多くの学生の留学実現や TOEIC スコアの目標達成を支援できた。

5. 語学検定

1. 概要

本学の「グローバル人材育成推進事業」の目標の一つとして、複数言語の習得をあげ、その指標として語学検定を用いている。それぞれの目標は、p.7 の「表 2-2 グローバル人材プログラムで定めた外国語達成目標」を参照いただきたい。

語学力評価の方法として、英語は TOEIC を実施し、年に 1 回学内試験を実施している。他言語（ロシア語、ポルトガル語、韓国朝鮮語、日本語を除く）は、専攻言語とする学生には 4 年次（言語により 3 年次）、第 2 外国語とする者には、2 年次または 3 年次に実施している。これらの試験実施は、本事業予算を用いており、継続的な定点測定を可能にしている。

2. 平成 28 年度の目標

本事業の「卒業時の外国語力スタンダードを満たす学生数」の平成 28 年度の目標値は、228 人と設定している。その内訳は、英米学科・国際関係学科 94 人、ヨーロッパ学科 101 人、中国学科 33 人である。

3. 平成 28 年度の実績

本報告書執筆段階では、DELE の試験結果が出ていないため、本年度の DELE 結果は反映されていないが、外国語学部学生全員に対して、語学検定合格に関する調査を行なった結果は反映している。

①複数言語能力スタンダード達成者数

複数言語能力スタンダードを満たす学生数の推移を表 5-1 に示す。

［表 5-1 複数言語能力スタンダード達成者数］（調査結果を含む）

	英米・国際	ヨーロッパ	中国	合計
平成 25 年度卒業者	2	3	1	6
平成 26 年度卒業者	0	8	3	11
平成 27 年度卒業者	7	8	0	15
平成 28 年度卒業者	15	29	5	49
参考）平成 28 年度在学生	28	17	4	49

複数言語能力スタンダードについては、達成者が大幅に増加している。

②各言語の結果

a) TOEIC

平成 28 年度の学科・専攻、入学年度(学年)別の TOEIC 平均点と、目標得点達成人数をそれぞれ表 5-2、表 5-3 に示す。

［表 5-2　平成 28 年度 TOEIC 平均点］　　*学内団体受験結果のみ

学科／学年	1 年	2 年	3 年	4 年
英米	620.6 (647.7)	697.8 (707.4)	753.9 (714.8)	810.6 (753.1)
国際関係	594.9 (594.7)	667.7 (634.3)	665.6 (629.4)	749 (689.1)
フランス	551.0 (545.9)	555.0 (577.3)	660 (560.0)	661.4 (609.0)
スペイン	583.3 (537.8)	585.6 (564.5)	579.0 (620.0)	662.1 (633.2)
ドイツ	532.1 (475.7.)	518.3 (519.2)	535.3 (591.6)	681.4 (648.5)
中国	496.2 (474.5)	512.0 (549.7)	519.0 (523.8)	567.4 (557.5)

(　　)内は平成 27 年度の平均点

［表 5-3　平成 28 年度 TOEIC 目標得点を達成した学生数］

*学外受験結果を含む

学科／学年	1 年	2 年	3 年	4 年
英米・国際 TOEIC800 点	11 (15)	26 (27)	40 (29)	102 (68)
ヨーロッパ・中国 TOEIC730 点	9 (6)	10 (13)	20 (13)	93 (39)

(　　)内は平成 27 年度達成者数

英語を専攻言語とする英米学科・国際関係学科においては、4 年次で TOEIC800 点に達成した学生が 102 人となり、昨年度の 68 人から大幅に増加した。また、英語を非専攻言語とするヨーロッパ学科・中国学科においても、目標を達成した学生が 39 人から 93 人と大幅に増加している。一見して、平成 28 年度の英米学科・国際関係学科「卒業時の外国語力スタンダードを満たす学生数」の目標値 94 人を達成したかに見える。しかし、留学等の関係により、こ

の全員が卒業見込ではなく、卒業見込者に限定すると、両学科を合わせて 60 人にとどまっているのが現状である。

とはいえ、英米学科では、学内団体受験の平均点が 4 年次では 800 点を超え、中央値にいたっては 830 点となっている。この英米学科の学生が 1 年次（H25 年）に受験した当時の平均点は 760.2 点で、このときの 800 点以上取得者は、同学科・同学年の受験者の 47%を占めていた。その後の数値としては、H26 年度の平均点が 784.8 点、800 点以上は同学科・同学年の受験者の 49%を占め、H27 年度は、多くの学生が 3 年次で留学するためか、平均点が 753.1 点、800 点以上が同学科・同学年の受験者の 46%とやや下降傾向にあったものの、今年度は 800 点以上取得者が同学科・同学年受験者の 64%を占めており、4 年間で確実に上昇している。以上の数値から、本事業により、語学力が高い、もしくは語学学習に熱心な学生が本学に入学し、年次を重ねる中で、着実に英語力を伸ばしてきたといえる。

b） 実用フランス語技能検定

平成 28 年度の実用フランス語技能検定の目標級達成人数は表 5-4 のとおりである。前年度と比べると、4 年次在籍者全体の達成率は低下したが、卒業見込み者に限ればかなり改善されている。

［表 5-4 平成 28 年度実用フランス語技能検定目標級を達成した学生数］※自己申告含む

	在籍数	準 1 級	2 級	準 2 級	3 級	達成率
平成 28 年度卒業者（新カリのみ）	49	11	(3)	14 (2)	(1)	22.4% 【14%】
2011-2013 年度入学	91	22	7 (5)	23 (2)	(1)	24.1% 【29.5%】
2014 年度入学	50		2 (2)	27		
2015 年度入学	44			10 (9)	(4)	
2016 年度入学	49					
合計	234	22	9 (7)	60 (11)	(5)	

【 】内は平成 27 年度実績

c) DELE（外国語としてのスペイン語検定試験）

本稿執筆時点で、DELE（外国語としてのスペイン語検定試験）は平成 28 年度の結果がまだ出ていない。平成 27 年度の目標レベル達成人数は表 5-5 のとおりである。

［表 5-5　平成 27 年度 DELE 目標レベルを達成した学生数］

<table>
<tr><th></th><th>レベル</th><th>達成者数</th><th>達成率</th></tr>
<tr><td>2010-2012 年度入学</td><td rowspan="2">B2</td><td>19</td><td rowspan="4">53.3%</td></tr>
<tr><td>2013 年度入学</td><td>8</td></tr>
<tr><td>2010-2012 年度入学</td><td rowspan="2">B1</td><td>20</td></tr>
<tr><td>2013 年度入学</td><td>8</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2014 年度入学
（スペイン語圏専攻 2 年生(受験当時)）</td><td>B1</td><td>1</td><td rowspan="2">26.0%</td></tr>
<tr><td>A2</td><td>12</td></tr>
<tr><td>2014 年度入学スペイン語Ⅱ受講者
（スペイン語圏専攻以外）</td><td>A1</td><td>8</td><td>12.9%</td></tr>
</table>

スペイン語圏専攻 4 年生の目標レベルは B1 合格であるが、合格者 55 名のうち B2 合格者が 27 名に増えた。4 年生の達成率としては 26.2%に相当する。在籍者数の数が同じではないので参考データとしてのみ言及するが、一昨年度(26 年度)の実績報告書によると B2 合格率は 7.5%であった。

スペイン語については、2014 年(平成 26 年)に行われた DELE のレベル見直しに伴い、目標レベルを B2 から B1 に変更したという事情がある。すなわち現行の B2 の試験は 2 年前よりも難易度が上がっている。それにも関わらず B2 合格達成率は 2 年前よりも上がっている。

続いて、スペイン語圏専攻 2 年生(受験当時)の目標レベルは A2 合格で、達成率は低いように見えるが、データ収集時期に問題があり、未回答者の大半は留学のため休学中で、在籍数 50 名のうち半数以下の 21 名からしか情報収集ができなかった。B1 合格者が 1 名出ているが、そのデータはこの学年の達成率として計算している。

最後に、第二外国語としてスペイン語を受講している学生については前年の達成率 14.1%より若干数字が下がっている。

d）ドイツ語技能検定

次にドイツ語技能検定の平成 28 年度の結果を示す。

［表 5-6　平成 28 年度ドイツ語検定試験結果］　　※自己申告含む

	在籍学生数	2 級以上取得者	達成率
平成 28 年度卒業者 （新カリのみ）	42	20 (4)	47.6% 【42.0%】
旧カリ生	2	0	
2011-2013 年度入学	90	25 (8)	27.7% 【42.6%】
2014 年度入学	51	10 (8)	
2015 年度入学	49	1(1)	
2016 年度入学	50	0	

【　】内は平成 27 年度実績

対象となる卒業者 42 名のうち、ドイツ語検定試験 2 級以上保持者は 20 名で、達成率は 47.6%である。目標の 67%には及ばないが、前年度 42.0%と比較すると、着実に目標に近づいている。

e) 中国語検定

中国語検定の結果は以下の通りである。

［表 5-7　平成 28 年度中国語検定試験結果］　　※自己申告含む

	在籍学生数	2級以上取得者	3級取得者	達成率
平成 28 年度卒業者 （新カリのみ）	58	18 (6)	27	31% 【28.0%】
2009-2013 年度入学	94	30 (9)	39	31.9% 【34.3%】
2014 年度入学	52	7 (2)	40	13.5% 【3.7%】
2015 年度入学	51	1 (1)	42	82% 【88.5%】
2016 年度入学	55		1	

【　】内は平成 27 年度実績　　達成目標　2 年生：中検 3 級　3 年生以上：中検 2 級

第 1 列の 2 段目の 4 年生（2009～2013 年度入学）と 1 段目「卒業者」は一致しない。「卒業者」には、休学せずに入学してから 4 年間で卒業する学生もいるし、例えば 1 年間休学して

留学し、入学してから 5 年間で卒業する学生も含まれる。「4 年生」には、休学せずに入学してから 4 年目で今年度卒業する学生と，3 年時に例えば 1 年間休学して留学し、卒業のためにはあと 1 年間の在学期間が必要で今年度は卒業できない学生も含まれる。3 段目は 3 年生（2014 年入学）で長期の留学経験を持つ者も一部含まれている。4 段目は中国語を第一外国語とする 2 年生（2015 年入学）、つまり中国学科の 2 年生の成績である。この学年は 3 級を受けることになっている。2 年生における 3 級の保持率は 82%であり、昨年度に比べややダウンしているが、ここ数年上昇傾向にあったので、高止まりしているとみることもできる。本学が調査書で挙げた目標の 7 割を大幅に上回っており、評価すべきであろう。また 2 年生でも 2 級を取得した者が存在する。2 級合格率は、卒業者については 31%であり、4 年生では 31.9%である。前年度とほぼ横ばいである。高水準を維持し続けることができるよう学生における検定資格取得に対する意識をさらに高める必要があろう。

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

本事業の課題となっている複数言語における外国語能力については、目標値に及ばないものの、大幅な数値の改善がみられた。個別の言語については、年度毎に達成率が着実に伸びている。とくに最終年度である本年は、初年度より本事業にとりくんできた“グローバル世代”であり著しい伸びをみせた。

②改善すべきこと

複数言語（専攻言語と専攻以外の外国語）を駆使して活躍することのできる人材を育成するため、本年度以降も、さまざまな観点から取組をおこなう必要がある。英語を専攻言語とする英米学科および国際関係学科では教養教育科目の効果的な利用により英語以外の外国語力をのばさなければならない。英語以外を専攻言語とするヨーロッパ学科と中国学科にあっては、教養教育科目の効果的な利用とともに、正課の専門科目の講義で英語による教材を使用するなどの工夫が求められる。

5. 事業全体での評価（総括）

事業開始時より、複数言語（専攻言語と専攻言語以外の外国語）において、それぞれ検定試験の目標値を設け、複言語について目標を達成する学生数の増加を図ってきた。昨年度まで、2つの目標値を達成した学生数は微増という状況であったが、それにくらべ本年度は大幅な増加をみた。しかしながら当初の目標数には到達せず、なお課題がのこされている。

個別の言語をみると様相を異にする。専攻言語の数値は着実に改善され現在に至っている。またヨーロッパ学科の学生にとって、英語は専攻以外の外国語となるわけであるが、これも着実に改善がなされ現在にいたっている。

この事業をとおして、複数言語（専攻言語と専攻以外の外国語）を駆使して活躍することのできる人材を育成するという目標が外国語学部の中に定着したことが大きな財産であった。

6. 留学および支援体制

6－1. 学術交流協定大学の協定締結と単位認定留学

1. 概要

本学では、外国語学部学生の 60%に学士課程教育の一環として単位認定を伴う留学を経験させ、グローバル社会に通用する資質を備えた人材として輩出することを主要目標として本事業を進めてきた。公立大学である本学の学生にとって、海外留学は経済的な負担が大きいため、本学ではこれまで海外大学と学術交流協定を締結し、相互授業料不徴収での学生交換及び奨学金給付による学生派遣を目指してきた。また、留学先大学での修得単位互換制度を整備し、留学を視野に入れた 4 年間の学修計画とその履修指導、留学前の入念なカウンセリングや留学後の履修指導・キャリア支援等、多方面から学生の留学を支援してきた。その仕組みを実質的に機能させていくために、限られた人数の教職員の協働による組織的な国際教育交流業務の遂行と、留学と履修情報の収集、整理および分析に基づいた良質な留学支援体制の構築とマネジメントをおこなっている。

2. 平成 28 年度の目標

協定大学と交換プログラムの運営などについて協議をしながら、受け入れ、送り出しの実績を重ね連携を深めていく。平成 24 年度後半以来、一部の専攻言語による短期集中型のショートプログラムの拡充が進んでおり、特に英語による留学を希望する学生に対してはそのニーズを順次満たしてきた。しかしながら、年々留学需要の増える状況の中で、協定に基づく授業料不徴収あるいは奨学金給付を伴っての短期留学の機会は、英語圏において未だ十分とはいえない状態にあり、引き続き北米圏をはじめとする英語圏大学との協定拡充を目指す。

3. 平成 28 年度の実績

①新たに学術交流協定を締結した大学

平成 28 年 11 月 30 日現在での学術交流協定を締結した海外大学・機関は、27 年度同時期より更に 6 大学・機関増えて、16 か国・地域の 53 大学・機関（1 民間留学機関含む）となった。以上に加えて更にアジア太平洋大学交流機構（UMAP）との間で、コンソーシアム形式の学生交換等からなるプログラム協定を締結し、本学を含む同地域加盟大学間での学生の留学機会を拡充した。現在、英語圏大学（協定校含む）との間で学生交換を含む新規協定の締結や既存の協定内容の拡充を継続協議中である。

[新規協定締結大学]
・リューネブルク・ロイファナ大学(ドイツ)
・テイラーズ大学(マレーシア)
・西オーストラリア大学(豪州)
・CEU サンパブロ大学(スペイン)
・ウーロンゴン大学
・UMAP
・Study Abroad Foundation (SAF)

[協議中の大学]
・米国州立大学(数校)

[協定大学との現行プログラムの拡充]
・静宣大学(台湾)
・ニューヨーク州立大学フレドニア校(米国)
・ディーキン大学(豪州)
・スインバーン工科大学(豪州)

②単位認定留学者

平成 28 年度の協定大学への単位認定留学は、1 年未満交換留学生 59 名、1 年未満派遣留学 32 名、ショートビジットは 100 名の合計 191 名で、前年度を 30 名上回った。交換学生数が平成 27 年度の 33 名から 59 名に躍進したのと共に、表 6-1、6-2 に示したようにショートビジット参加学生数が 83 名から 100 名に増えた。

[表 6-1 平成 28 年度 短期派遣留学実績]

	留学先	人数	合計
夏期	セントラルランカシャー大学(イギリス)	7	42
	ミュンスター大学(ドイツ)	15	
	ポートランド州立大学(米国)	7	
	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学(スペイン)	5	
	アリゾナ州立大学(米国)	4	
	スタンダール・グルノーブル第 3 大学他 1 校(フランス)	4	
春期	ニューヨーク州立大学フレドニア校(米国)	16	58
	ラス・アメリカス大学(メキシコ)	8	
	スインバーン工科大学スインバーンカレッジ(オーストラリア)	4	
	ディーキン大学(オーストラリア)	4	

	アリゾナ州立大学（米国）	1	
	華東師範大学（中国）	10	
	ミュンスター大学（ドイツ）	9	
	オーストラリア・カソリック大学（オーストラリア）	4	
	アシュランド大学（米国）	2	
合計			100

［表 6-2　平成 27 度短期派遣留学実績］

	留学先	人数	合計
夏期	セントラルランカシャー大学（イギリス）	5	37
	ミュンスター大学（ドイツ）	10	
	ポートランド州立大学（米国）	7	
	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学（スペイン）	5	
	アリゾナ州立大学（米国）	5	
	スタンダール・グルノーブル第 3 大学（フランス）	5	
春期	ニューヨーク州立大学フレドニア校（米国）	8	46
	ラス・アメリカス大学（メキシコ）	9	
	スインバーン工科大学スインバーンカレッジ（オーストラリア）	1	
	ディーキン大学（オーストラリア）	5	
	アリゾナ州立大学（米国）	2	
	ミュンスター大学（ドイツ）	7	
	華東師範大学（中国）	14	
合計			83

③日本留学支援機構（JASSO）からの奨学金受給者

本年度の日本留学支援機構（JASSO）奨学金受給者は、前年度の 98 名から 146 名に増加した。内訳を、表 6-3 に示す。

［表 6-3　平成 28 年度日本留学支援機構（JASSO）奨学金受給者］

種別	人数
1 年未満交換留学	49
1 年未満派遣留学	18
ショートビジット	79
合計	146

④国際交流室による留学支援

a.留学説明会

春秋の年 3 回、全学学生を対象に開催している。第 1 回は新入生を中心とする留学意欲の喚起を目的とするもので、6 月 15 日に開催し、180 名が参加した。第 2 回は 2017 年度春期留学の説明会で、7 月 13 日に行い 32 名が参加した。第 3 回は、2017 年度秋期留学の説明会で 11 月 9 日に開き、第 1 回と同規模の参加者があった。以上の他、春夏のショートプログラムの説明会と上記短期プログラム参加者渡航の前に事前オリエンテーションを定期的に開催している。

b.留学相談

前年度より専任教職員 3 名の間で予約面談の時間帯とその他の時間帯を明確にし、個々の面談希望学生に十分な時間を確保した上で良質の留学アドバイジングを心掛けており、平成 28 年度もひきつづき実施した。複数回訪れる学生も多く、継続的なカウンセリング形式で取り組んでいる。国際交流室では、所属の教員と職員協働の相談体制を取り、相談可能内容（英語圏留学、奨学金等）を明示し、学生の利用の便宜を図っている。

c.閲覧資料

協定大学のカタログ・パンフレット類（適宜更新）、各国大学案内、語学能力測定試験（IELTS / TOEFL、HSK 等）対策テキスト、各種留学雑誌など多岐に渡る留学情報を提供している。各国代表国際教育交流窓口とのネットワークを活用し、最新の情報を提示できるようにしている。

d.その他

限られたスタッフで日々の留学生支援業務を効率的に行うために、危機管理ハンドブック等国際交流室作成の資料を順次整備し、学生の情報収集の一助として活用している。また、グローバル人材の育成との関連で、海外留学が就職活動やキャリア面でいかに有用性があるかを説明する共同セミナーを、キャリア支援室と協力して開催した。多言語での情報発信のために、既に前年度に着手していた国際交流室ホームページの英語版も整備した。

⑤留学説明会

本年度は、22 回の留学説明会を開催した。表 6-4 に示す。

［表 6-4　平成 28 年度開催留学説明会］

実施日	留学先	国名	参加者数
4 月 20 日	2016 年夏ショートプログラム説明会		106
4 月 21 日	セントラルランカシャー大学	イギリス	17

4 月 25 日	ミュンスター大学	ドイツ	17
4 月 20 日	ポートランド州立大学	米国	24
4 月 27 日	アリゾナ州立大学	米国	15
5 月 12 日	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学	スペイン	6
5 月 13 日	フランス	フランス	5
6 月 15 日	留学説明会（1 年生向け）		180
7 月 13 日	2017 年春出発　留学説明会		32
7 月 27 日	トビタテ留学 JAPAN 説明会		78
10 月　19 日	SAF　留学説明会		54
11 月 9 日	留学フェア		179
11 月 16 日	2017 年春ショートプログラム説明会		72
11 月 17 日	ディーキン大学、スインバーン工科大学	オーストラリア	11
11 月 18 日	ミュンスター大学付属語学学校	ドイツ	17
11 月 21 日	ラス・アメリカス大学	メキシコ	9
11 月 22 日	ニューヨーク州立大学フレドニア校	米国	14
11 月 23 日	華東師範大学	中国	14
11 月 24 日	アシュランド大学	米国	10
11 月 25 日	ミュンスター大学	ドイツ	12
11 月 28 日	フランス	フランス	0
11 月 30 日	アリゾナ州立大学	米国	4

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

本事業の一環として拡充してきたショートプログラムに参加した学生が、上級学年で、より長期の留学や多言語圏への短期研修に向かうケースが年々増えている。ショートプログラムが複数留学への動機づけとして機能していると言えよう。

また、1 年生及び 2 年生の全員に対する留学アドバイジングを実施し、留学説明会の参加者数や就学に関する相談件数が各々増加し、留学意欲が着実に高まっている。TOEFL 等留学要件を満たすべく語学運用能力の向上に早めに取り組み、渡航前に高得点を獲得する学生が多くなってきている。

②改善すべきこと

協定大学の締結とその結果の単位認定留学のスペイン、メキシコなどへの地域的な偏りは解消し始め、学生の希望が多い留学先として、イギリスやカナダのみならず、アメリカ、オーストラリアなどへの渡航機会も増やし、英語圏留学を多様化していくことが必要となる。

本学は全学の国際化を重点に置いているものの、留学参加者については外国語学部に偏っており、他学部からも参加学生数が増えるように意識的に取り組んでいくのが今後の課題である。

次年度以降は、引き続き、北米圏、オセアニア圏等英語圏大学との学生交換を視野においての協定締結および既存プログラムの拡充を引き続き優先的に取り組む。この一環として、北米、欧州およびアジア太平洋地区で開催される国際教育会議の複数の年次大会に教職員を派遣し、協定大学を含む海外大学との間で交流可能性や時期についての具体的な協議を継続する。NAFSA 等ブース出展も活用しながら、現地での協議や連携強化のツールとして役立てる。上記会議には事務職員を職員研修として参加させ、本学人材の国際化を図る。近年実施を開始した台湾やマレーシア等近隣の国・地域への学生交換の開始を契機として、留学先の選択肢を引き続き増やしていく。

5. 事業全体での評価（総括）

事業採択後、本学は設定目標に向けた留学生派遣を拡大させるために、双方向の交流を視野に、新たな学術交流協定の締結と留学生受入れ拡充が可能な交換留学生専用プログラムを整備した。また、事業初年度から、学外研究で人脈のある海外大学や、各国の大学国際教育交流担当教員・専門職員が集う国際教育会議年次大会（NAFSA, APAIE 他）へそれぞれ教職員を派遣し、キャンパス視察・協議や広報・マーケティング活動を活発に行った。その結果、2017 年 1 月現在の協定大学・機関数は 52 大学を数え、事業当初の 2 倍以上に拡大した。これに伴い、年間の派遣留学者数も当初の 200 人規模から 300 人規模に伸長した。

特に、留学先として需要の高いスペイン・ポルトガル語圏、英語圏、独・仏語圏、中国語圏の協定大学拡充を着実に進めて留学枠を確保しながら、給付奨学金との連動により、留学支援を強化してきた。具体的には、日本学生支援機構海外留学支援制度による事業特別枠と一般プログラム枠のダブル採択により給付奨学金を充実させ、公立大学として、本来であれば経済的な事情で留学を断念したであろう優秀な学生の希望をある程度叶えることができた。

一方、このように実質的な留学枠拡充に繋がった学術交流協定の交渉・締結に際しては、相手先として既に日本の姉妹校を多く持ち「参入が難しい」有力大学よりもむしろ、新設大学やまだ知られていない英語圏大学で、学生交流を希望する機関を中心に協議を進めたことが戦略として功を奏した。

６－２. 留学中のリスク管理

1. 概要

多くの学生を海外に留学させるにあたり、留学中のリスク管理がますます重要となってきている。平成 25 年度から意識的に進めている、学生の留学に対する危機管理意識の醸成、留学中のサポートの充実、学内危機管理体制の構築・強化により、留学リスク管理の更なる強化に努めている。その目的のために、学生への留学前危機管理セミナーの実施（年 2 回）、留学中の不慮の事故等への対応体制および学内における危機管理要綱およびマニュアルの整備を継続している。また、全学的なリスク管理の一環として、海外情報をいち早く収集するために平成 27 年度から会員大学として登録している JCSOS（海外留学生安全対策協議会）の安全対策面及び法的側面のサポートを受けている。その一環として今年度も JCSOS から送られてくる危機管理情報を manaba を活用し対象国留学中の学生へ配信している。あわせて、平成 27 年度より本学より海外留学のために派遣する学生全員に学研災付帯の海外留学保険（略称：付帯留学）への加入を義務付け、不測の事態に対応している。

2. 平成 28 年度の目標

平成 28 年度の目標は、昨年度と同様、以下のように定めている。

a) 留学に対する危機意識の醸成を目的に、学生への危機管理ガイダンスを開催する。
b) 留学中の不慮の事故や病気、ケガなどに対するサポートの充実を図る。
c) 留学中の不慮の事故等に備えて、関連の要綱および対応マニュアルを整備し、学内のリスク管理体制を構築する。さらに担当教職員を対象に、リスクに対する説明会を開催し、学内で情報共有を図る。

3. 平成 28 年度の実績

①危機管理ガイダンスの開催

留学中の危機管理、危険情報および緊急時の対応等にかかわる情報を提供し、学生の危機管理意識を高めるため、危機管理ガイダンスを 2 回実施した。当日は、外国語学部学生を中心に、学研災付帯海外留学保険について代理店担当者が説明を行うと共に、同資料、本学留学・海外旅行届、海外留学安全ハンドブックを配布し、周知した。

［学生対象危機管理ガイダンス］

第 1 回：平成 28 年 6 月 8 日（水） 参加者 174 名 （H27 参加者 131 名）
第 2 回：平成 28 年 12 月 14 日（水） 参加者 46 名

②留学中サポートの充実

平成25年度より、日本アイラック社の「アイラック安心サポートデスク」に加入し、留学中の学生が事故や病気、ケガ等、不慮の事態に遭遇した際に、迅速かつ適切なサポートを行えるよう環境を整備した。なお、日本アイラックへの加入は平成 26 年度で終了し、平成 27 年度からJCSOS に加入している。

③危機管理の重要性:フランステロのケースから

留学する学生の増加とともに、危機管理の重要性はますます増している。平成26年度には、インドネシア・ガジャマダ大学(以下、UGM)での夏期短期プログラムに参加した学生が、留学期間中に乙種法定伝染病であるアメーバー赤痢に感染し入院するという事態が起こり、本ケースを教訓として、必要以上に恐れず、適切な支援体制構築の必要性が課題となった。今後の対応策としては、1)危機管理ガイダンスの徹底、2)病気、事故、事件等への対応が一目で分かるプリントの作成、配布、電子データでスマートフォンへの保存、manaba(e ポートフォリオ)へのアップ、3)パスポート番号、保険加入番号、緊急時の国内連絡先および保護者に関する情報の関係教職員による把握、4)日英両語の通じるサポーターの連絡先の確保が挙げられる。

こうした教訓を受けて、今年度は早速上記を順次行ってきた。例えば、11 月に起きたフランス同時多発テロの際には、全員の安否確認をスピーディーに行い、教訓の一部を早速実行に移すことが出来た。

今年度は暮れの 12 月 9 日にドイツのベルリンで年末年始の休暇シーズンに広場にトラックが飛び込み死傷者を出した事件に対しては、ドイツの協定大学へ多くの留学生を送り出している本学は全学に注意喚起した。

今年度は、上記のような出来事は特になく幸いであったが、国内他大学では極めて不運な事件も相次いで発生しており、今年度はこれまで蓄積してきた対応を踏まえた業務の遂行を一層心掛けるべく教職員一同気を引き締めている。

④危機管理ハンドブックの活用

27 年度に作成した危機管理ハンドブックを今年度も提携会社作成の資料と共に、危機管理セミナー参加者や希望者に配布した。

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

学生への危機管理ガイダンスを開催することにより、学生の危機管理意識が向上し、さらに留学中のサポート体制の構築により、学生が安心して留学に臨めるようになった。前述した海外留学保険への加入意識もより早期の段階で学生に浸透してきている。

②改善すべきこと

実質的な危機管理のために近年導入した様々なツールを実際に運用していくことが、次年度以降、ますます望まれる。これまで想定通りには進まなかった留学生の連絡先の確認とその迅速な実施も今年度は改善したものの、今後は本学オンライン学生支援システムの UNIPA 等の活用により、連絡確認の精度を更に向上させるべく検討を続ける必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

前述のとおり、平成 27 年度に、乙種法定伝染病であるアメーバー赤痢に感染し入院するという事態が起こったが、担当教員および大学のサポートにより事なきを得た。それ以外、事業期間全体において大きな事故はなかったことは幸いである。平成 29 年度以降、グローバル事業は、大学の全学新グローバル事業に引き継がれ、リスク管理が行われることになるが、留学者は外国語学部の学生が多数を占めることに変わりはなく、外国語学部内部のリスク管理の手を緩めず、検討を継続していかなければならない。2 年ほど前より、夏および春のショートプログラムに参加する学生数が増大している。ショートプログラム特有の問題があり、またそれに対する特有の対応の仕方があるはずである。派遣学生のグループ分けやグループ責任者と教員との連絡の徹底など検討事項は少なくない。

本事業でのさまざまな取り組みにより、留学中の学生の情報収集や、リスク対策は格段に改善された。しかしながら、この数年で世界情勢が大きく変わり、特に 2016 年度は、世界各地でテロ活動や国家間の衝突が頻発し、学生の安全に対して細心の注意を払う必要がでてきている。現在の世界情勢の動向を鑑みると、危機管理の重要性が今後ますます高まっていくことは確実である。事業終了後も引き続き「危機管理ガイダンスの強化」のために、国内外大学等の先進事例等の紹介など、具体的なケースを基にした研修を実施するなど、より強固な体制づくりを目指す。

7. 学術交流協定大学留学生対象プログラム

1. 概要

学生の留学促進、特に単位認定を伴った留学ができる環境を整備するためには、海外学術交流協定大学を拡充することが不可欠である。そこで、本事業採択後から、プログラムの整備に取り組み、交換留学生を対象とする日本語および異文化理解の科目群を整備し、平成26 年度より開講している。これらの科目群は、教育支援センターが設置する「学術交流協定大学留学生対象科目小委員会」で教務内容を審議し、履修指導やクラスコーディネートについては、国際交流室が担当している。

2. 平成 28 年度の目標

交換留学生対象プログラム科目の開講と、プログラム運営上の課題を明らかにし、改善を図る。プレイスメントテストの整備と運営方法を確立する。

3. 平成 28 年度の実績

①平成 28 年度学術交流協定大学留学生対象科目

交換留学生対象の科目は、主として日本語能力を養成することを目的とした科目群と、主として異文化理解を目的とした科目群の 2 種類に分けられる。レベルは、前期は中級、中上級、上級の 3 レベルに対応、後期は初中級から上級の 4 レベルに対応した編成である。また、教養教育科目が、主として大学での学修に必要な日本語能力の養成を目的としているのに対して、交換留学生対象の科目は、日本語の基礎力の強化とともに、学生間のコミュニケーションを中心とした相互理解を目指したものや、リサーチを基にした日本文化理解など、プロジェクト型の教室活動を多く取り入れている点に特徴がある。

語学レベルの目安は、初中級が日本語能力試験（JLPT）N5 合格、中級が N4 合格、中上級が N3 合格、上級が N2 合格以上である。開講科目を表 7-1 に示す。

［表 7-1　平成 28 年度開講学術交流協定大学留学生科目］

区分	授業科目	開講時期	レベル	授業目的
日本語	総合日本語Ⅰ（4 コマ）	後期	初中級	日本語の基礎を学び、4 技能についてバランスのとれた日本語運用能力を養成する
	総合日本語Ⅱ（4 コマ）	前・後期	中級	
	総合日本語Ⅲ（3 コマ）	前・後期	中上級	

科目	日本語実践 A	後期	初中～中級	場に応じた適切な言語行動について理解を深める
	日本語実践 B	前期	中～中上級	
	日本語文章表現	前・後期	中～上級	書き言葉に関する基礎的な知識について学び、まとまった文章が書けるようになる
	語彙・漢字 A	後期	初中～中級	トピックごとに、語彙と表記方法を体系的に学ぶ
	語彙・漢字 B	前期	中～中上級	
異文化理解科目	トピックディスカッション A	後期	中～上級	現代日本の課題について、データに基づきクラスで討論を行ない、理解を深める
	トピックディスカッション B	前期	中～上級	
	プロジェクトワーク A （2 コマ）	後期	中～上級	調査を計画・実施し、発表にまとめることを通して、アカデミックな日本語使用を学ぶ
	プロジェクトワーク B （2 コマ）	前期	中～上級	
	Discover Japan	後期	初中級	地域の産業施設と歴史的建造物について講義とフィールドワークを行う。講義は英語で行う
	フィールド演習 A	後期	中～上級	地域の産業施設と歴史的建造物について、講義フィールドワークを行う。講義は原則日本語で行ない、学生は日本語で発信する
	フィールド演習 B	前期	中～上級	

交換留学生は、各学期の開始前にプレイスメントテストを受験し、レベルと本人のニーズに合わせて、履修するクラスを決定している。従来は、本学で独自のプレイスメントテストを作成していたが、交換留学生数が増加したことや、結果からクラス分けをスムーズに行うため、平成 28 年後期より筑波大学が開発した J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test)を導入した。J-CAT は、インターネット上で受験できる適応型テストである。

②学術交流協定大学からの交換留学生の受け入れ

平成 28 年度は、前期 39 名、後期は 34 名の交換留学生が日本語のクラスを受講した。出身国と人数を表 7-2 に示す。

［表 7-2　交換留学生の出身国と人数］

平成 28 年前期	中国 4、韓国 5、台湾 4、イギリス 1、ドイツ 1、フランス 5、スペイン 5、メキシコ 4、ペルー2、ブラジル 2、ポルトガル 4、インドネシア 1、リトアニア 1
平成 28 年後期	中国 4、韓国 5、台湾 3、イギリス 3、ドイツ 3、フランス 5、スペイン 2、ロシア 2、メキシコ 4、ペルー1、ブラジル 2

③交換留学生と本学の学生との交流型授業の実施

留学生科目には、本学の学生と共に学ぶ機会をとりいれている。日本語実践 A では、本学の日本語教育実習生と共に学ぶように設計されている。この授業では、平成 28 年 11 月 21 日に長久手市市内一斉防災訓練において、「多文化共生のまちづくりと防災時のコミュニケーション」をテーマにブース出展をし、長久手市民と交流した。日本語実習生と留学生が共に活動を行なうことにより、外国人にとってわかりやすく、やさしい日本語で話す方法を、長久手市の住民に示す機会にもなった。

この授業の他にも、Discover Japan や iCoToBa 科目の「比較文化セミナー」等は、日本人学生も受講可能にしており、留学生科目は、本学の学生にとっても異文化理解を深める機会となっている。

［防災訓練での交流風景］

外国人へ防災情報どう伝達

長久手で一斉訓練 県立大生、共生ブース

［2016 年 11 月 29 日付中日新聞］

④留学生指導に関する情報共有

留学生指導に必要な情報共有については、日本語科目担当、日本語教員課程担当、国際交流室教職員が manaba コースを利用して授業記録を共有している。これにより、留学生の日本語の学習・生活状況の把握ができ、効果的な指導が実現できている。

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

本年度は、プレイスメントテストと履修指導における改善と、manaba による情報共有により、円滑にプログラム運営ができた。また、正課科目の他にも留学生を対象とした遠足やイベントなどを多数提供することができた。

前年度に課題としていた日本語レベルが低い学習者への対応のために、通年での「総合日本語Ⅰ」の開講を目指し働きかけた結果、平成 29 年度は、前後期共に、「総合日本語Ⅰ」が開講されることになった。

②改善すべきこと

交換留学生を対象とする科目群は、「総合日本語Ⅰ」の前後期の開講により、まずはひとつの完成形となった。

本年度は、交換留学生の iCoToBa の利用が大きく落ち込んだため、次年度は、iCoToBa の利用を促すような仕組みづくりが必要である。

5. 事業全体での評価（総括）

本事業採択を契機に、交換留学生を対象とした日本語と異文化理解の科目群が整備され、交換留学生の受け入れ人数はほぼ倍増した。交換留学生の増加は、外国語学部生が実際に学習言語でコミュニケーションをする機会を増やすことにもつながっている。本学で学んだ交換留学生が、帰国後、協定大学に留学する外国語学部の学生をサポートするなど、相互の交流が深まり、学生も安心して留学できるようになった。

8. 地域における体験学習

愛知県立大学のグローバル人材育成事業は、地域のグローバル化に対応できる人材育成を目指している。そのため、インターンシップや社会での問題解決を目指す活動などの、地域における体験学習を積極的に取り入れている。

8－1. インターンシップ

1. 概要

本学グローバル人材プログラムにおいては、インターンシップを留学後のフォローアップ・プログラムとして位置づけ、主に地元の企業や自治体、NPO や NGO などと連携したインターンシップを実施している。

本学では、これまでインターンシップを経験する学生は極めて少数であったが、「グローバル人材プログラム」の開始後、新たなインターンシップ先を開拓してきた。また、平成27年度に開始したメキシコでのインターンシップを継続して実施した。

2. 平成 28 年度の目標

本年度の目標は以下の 2 点である。

① インターンシップを履修する学生数の増加を目指す。

②海外協定大学と連携した海外インターンシップをひきつづき実施する。

3. 平成 28 年度の実績

①国内インターンシップ

教養教育科目「インターンシップ」は、1 日 6 時間、5 日間（総計 30 時間以上）の就業体験を行い、毎日日誌を書くことを単位認定条件としている。

本年度は、12 月末までに 63 名が完了し、単位取得見込みである（平成 27 年度 47 名）。

インターンシップ先は以下のとおりである。昨年度と比べ、地方自治体、一般企業ともに業種に広がりが出てきている。

［表 8-1　平成 28 年度インターンシップ先一覧］

地方自治体	愛知県庁、岐阜県庁、三重県庁、名古屋市、豊田市、岐阜市、下呂市、多治見市、瀬戸市、静岡県磐田市
一般企業	株式会社ジェイエスティ、CKD 株式会社、中部日本放送 CBC、三井

	住友海上火災保険株式会社、共同通信名古屋支社、岡谷鋼機、碧海信用金庫、岡崎信用金庫、OKB 大垣共立銀行、中央工機、大和リゾート、四季リゾーツ、ガリレオ、As know as、白馬ハイランドホテル、レオパレス 21(豊田)、レオパレス 21、鈴与商事、サンアイ自動車
その他	旅行商品開発プロジェクト（日本航空・JTB)、 福井県インターンシップ協会、内閣官房内閣人事局、 名古屋国際センター、NPO 法人 G-net

②メキシコでのインターンシップ

1. 経緯

メキシコに進出する日系企業（自動車部品メーカー）からの要請を受け、本学と企業の間で「覚書」を締結し、平成27年3月より毎年ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻の学生をインターン生としてメキシコに派遣している（期間は原則として6ヶ月～1年）。これまでの実績は以下の通りである（第一期生の体験報告については、資料1（pp.67-69）を参照）。

・第一期（平成 27 年 3 月～28 年 2 月）3 名（ただし 1 名は健康上の理由により半年で帰国）
・第二期（平成 28 年 3 月～29 年 3 月）2 名（うち 1 名は 10 ヶ月間のメキシコ留学に引き続く形で、平成 28 年 6 月～7 月に実施）。
・第三期（平成 29 年 2 月～30 年 2 月）3 名（うち 1 名は 29 年 8 月帰国予定）

2. 第二期および第三期（平成 28 年度）の派遣先

（1）株式会社日本クライメイトシステムズ（本社：東広島市）の現地法人 J Clima Sistemas México, S.A.de C.V（工場：グアナファト州サラマンカ市）
（2）宮川化成工業株式会社（本社：大阪市）の現地法人 Miyagawa Kasei Mexico, S.A. de C.V.（ハリスコ州グアダラハラ市）
（3）豊田通商メキシコ Toyota Tsusho Mexico, S.A. de C.V. シラオ事務所（グアナファト州シラオ市）

3. インターンシップの基本的考え方

実施にあたっては、以下の点で企業側と認識を共有することが前提となっている。

（1）企業と大学が協働して将来の産業人材を育成することを目的とする「教育的プログラム」であり、学生を労働力として提供するものではないこと。
（2）そのため、学生は企業側の期待に沿うような即戦力（既に高度なスペイン語能力を有している）とは限らず、現場経験を通じて育てていただくこと。大学側は 2 年生以上の中から一定レベル（DELE スペイン語能力試験 B1 レベル）以上の語学力を持つ者を推薦する。

(3)費用は可能な限り企業側にご負担いただくこと。その理由は、学生にとって留学以上に魅力的なプログラムにすると共に、仕事に対する責任を自覚させるためである。
(4)実施にあたっては、学生の安全や心身の健康面に十分配慮すること。
(5)派遣期間は、原則として6ヶ月または1年とし、1年の場合は、6ヶ月目に2週間程度の一時帰国の機会が与えられること(健康管理および指導教員による指導のため)。
(6)学期や学生の帰国後の就職活動を考慮し、出発時期は「8月上旬～9月下旬の間」または「2月上旬～2月末の間」が望ましいこと。

4. 研修内容

上記(1)および(2)においては、主として製造部門に配属され、品質管理、調達、人事、現地社員の教育等の業務において通訳の研鑽を積む。(3)においては、総務部付の営業補佐業務を経験する。

インターン生は、指導担当社員(日本人)と相談しながら毎月の目標を設定し、毎月の活動記録(月次報告)を書いて月末に提出する。その際、担当社員からの評価(フィードバック)を受けて翌月の新たな目標設定を行う。この報告書は大学側にも送付され、専攻主任およびキャリア支援担当教員が確認している(報告様式は、以下の「資料2」を参照)。

5. 現状および成果

メキシコでは近年、自動車産業をはじめ日本企業の進出がめざましく、企業通訳の供給が追いつかない状況で、人材養成が急務となっている。企業側からの強い要望もあり、本学においてメキシコでのインターンシップ参加志望者を募り、学内での書類選考および企業側の面接によって派遣者を選抜している。

自動車部品会社という専門性の高い現場での企業通訳は容易ではない。また、現地従業員と日本人社員の間に入って、労働慣行をめぐる「文化摩擦」を回避することにも貢献が期待される。これまで派遣された学生たちは、相当な苦労をしつつも日本人社員の指導を受けて徐々に経験を蓄積し、自動車業界で通用する実践的な通訳能力を高めている。人間的にも大きく成長し、「グローバル人材」に相応しい姿勢と能力を持つ人材に育っていることから、本インターンシップは企業と大学の協働による人材育成方法として、大きな成果をあげている。

資料1

メキシコ・インターンシップ参加学生による帰国報告会
(本学グローバル人材育成推進室 Web サイト掲載記事より抜粋)

4月20日(水)の昼休み時間、iCoToBaでメキシコ・インターンシップ帰国報告会を開催しました。メキシコに進出している日系企業(自動車産業)で半年～1 年におよぶ海外インター

ンシップを終えて帰国した3名の学生(スペイン語圏専攻4年生の鳥居愛さん、中川京さん、川端麻衣さん)が、その貴重な体験を熱く語りました。
通訳・翻訳のレベルを向上させようとメモを取りつづけたノートには、自動車関係の部品名、製造現場や社内会議で使われる専門用語や独特の表現(日本語・スペイン語)がびっしり。その分量は大学ノート数冊分におよび、日々格闘してきたことをうかがい知ることができました。

近年メキシコに進出する日本企業は急増しており、来年には 1,000 社を超える見通しで、これは 10 年前の約 6 倍です。そのような状況下、メキシコではスペイン語を使える日本人が求められていますが、産業で使われる専門用語を理解して使いこなすのは容易なことではなく、実地研修が不可欠です。本学は昨年から産学連携による人材育成の一環として、メキシコに進出する日系企業 2 社(自動車関連産業)と覚書を締結し、長期インターンシップ(半年～1年)として学生をメキシコに派遣しています。上記3名はその第一期生で、様々な困難に直面しながらも大きく成長して帰ってきました。3 人のお話を一部抜粋して以下に掲載します。

鳥居愛さん(株式会社日本クライメイトシステムズ・グアダラハラ事業所およびサラマンカ工場で 1 年間研修)

車には全く興味がなかったが、新工場を立ち上げるということに関心があり、また海外で働いてみたい、実践的なスペイン語を身につけたいといった理由でチャレンジした。前半はグアダラハラ事業所の品質管理部門でカーエアコンなどについて研修の毎日、後半はグアナファト州サラマンカの新工場で製造部門専属通訳をした。通訳の内容は、ラインリーダーの面接、教育、採用、業者との打ち合わせ、社員間の打ち合わせ、技術部門の教育、契約書、議事録、メールの翻訳など多岐にわたる。最初のうちは自動車部品の名前すらわからず、仕事らしい仕事も任されず、社員の人たちは良くしてくれるのだが、自分は何のためにここに居るのだろうと悩んだが、しばらくして「チャンスも仕事も待っていてはやってこない、自分でつかみとれ！」と考えるようになった。それからは主体的に仕事を探して動きまわり、仕事が楽しくなった。メキシコで学んだことは、「主体的に動く！」「仕事を楽しむ！」という姿勢。インターンシップに参加して本当によかった。

中川京さん(YKM＝Y-TEC KEYLEX MEXICO 社で 1 年間研修)

メキシコ留学から帰国し、就職活動が始まろうとしていたとき「結局自分は何がしたいんだろう？」と考えるようになり、海外インターンシップに挑戦することにした。YKM 社(従業員 1,000 人、うち日本人 60 人)で、主に人事部と購買部での通訳を担当した。実際には、日本人社員が滞在しているホテル、住居でのトラブル解決の通訳もあれば、社内会議通訳、材料・機材の調達、メキシコ人従業員の家族を工場に招待する「ファミリーデイ」の企画や社内での日本語教室の実施等「何でもあり」の毎日である。私のインターンシップは、「試して、絶

望して、そして勉強した」1 年だった。「912, 7 分の 4 工程完了。バリの修正が必要」などと言われても、最初は何のことか全くわからず訳せない。社内会議で通訳を務めてもスムーズに進まない時があり、つらくて何回も心が折れそうになった。しかし、あきらめないで努力して、乗り越えて、やりきったという感覚が今ある。このインターンシップにより、私はモノづくりの仕事を支える仕事がしたいと真剣に考えるようになった。

川端麻衣さん（YKM＝Y-TEC KEYLEX MEXICO 社で半年間研修）

品質管理部に配属され、不良品報告書の翻訳、機材点検、商談、品質会議、出張者の御付、朝会、面接など、様々な通訳場面を経験させてもらった。不良品削減のキャンペーンや、現地の直接工に配布するルールカードづくりなど、通訳以外の仕事も任された。工場での通訳機会が多く、「ブッシュ破損、SW チリ、クラッシュカン、セッペン、カエリ、6S、ブローホール・・・」等々、専門用語もどんどん学び、おかげで最後には設計図面も読めるようになった。毎日楽しいばかりでなく、緊張の連続でつらいこともたくさんあった。通訳がうまくできず、トイレに駆け込んで一人で泣いたこともある。逆に上手くいって感謝されたときは本当に嬉しい。インターンシップで通訳なんてできるだろうかと不安に思う人もいると思うが、その人のやる気は誰かが絶対見ていてくれる。後輩の皆さんにもぜひ勧めたい。

資料2　　メキシコ・インターンシップ研修報告書様式

年　　月分の活動報告

氏名：

1. 今月の設定目標
2. 今月中に行った主な研修のうち、特に記録しておくべき内容について簡潔にまとめて書いてください（全体で 600～1000 字。指導社員（上司）または担当者からの事前説明や資料の有無も含め書いてください）。
3. 上記以外の日常業務を含め、今月の設定目標に対する全体的な自己評価・課題・要望
4. 健康状態（連続 3 日以上、または月に複数回欠勤した場合は詳しく書くこと）
5. 次の月の目標（指導担当社員と面談して決めること）

指導担当の方へ：　恐れ入りますが、インターン生が上記を記入した後に面談をしていただき、以下にご記入の上、本人にお渡しください。

コメント（全体的な評価、今後の課題など、本人へのフィードバックとして、簡単にご記入ください）

インターン生に通常時間外での勤務（土日出勤や超過勤務）を命じた日がありましたら、以下にその日時、研修（業務）の内容、指導担当社員様についてご記載をお願いいたします。	
(記入日) 年　　月　　日	記入者ご署名

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

平成 25 年度より、インターンシップの改革を続けてきており、インターンシップの履修学生は着実に伸びている。

国内インターンシップについては、平成 25 年度 20 名（このほかに、グローバル学内インターンシップ 15 名）、平成 26 年度 45 名、平成 27 年度 47 名と着実な伸びを示しており、本年度は 12 月末までに 63 名が完了し単位取得見込みとなっている。

また、海外インターンシップも第 3 期を迎え、安定して実施できるようになってきている。インターンシップの報告会には多くの学生が参加し、関心の高さも窺える。

②改善すべきこと

教養教育科目の「インターンシップ」は、4 月に履修手続きをする通年科目である。そのため、留学を終え、復学するまでの 2~3 か月間に、インターンシップに参加する学生の動向が把握できていない。留学帰国後のインターンシップの単位認定ができるようになれば、ギャップ期間をより有効に活用する学生が増えるのではないかと考えられる。

5. 事業全体での評価（総括）

外国語学部「グローバル人材プログラム」でインターンシップを義務づけたことにより、インターンシップに取り組む学生が大幅に増加した。また、インターンシップ先も地方自治体、一般企業、NPO、NGO と種類を増やし、さまざまな業種・職種を体験できるようになった。

海外インターンシップは現在のところメキシコに限られている。今後、どのような海外企業・団体が本学のインターンシップに適しているかを十分に吟味しつつ、新たなインターンシップ先を開拓したい。

8－2. 地域と連携した教育活動

1. 概要

平成 28 年度は、地域と連携して、地域におけるグローバル化にかかわる課題解決を目指した教育プログラムを多数実施した。

平成 27 年度に開始した、取材型インターンシップを取り入れたプログラム「地域ものづくり学生共同プロジェクト」を継続して行うのと共に、国際的なイベントでのボランティア活動、iCoToBa での地域の観光広報情報誌の作成プログラムなど、ものづくりと MICE の分野での教育活動を充実させることができた。

2. 平成 28 年度の目標

前年度にひきつづき「地域ものづくり学生共同プロジェクト」を実施し、プログラムを改善する。また、地域での国際的なイベントでのボランティアの活動機会を学生に提供する。

3. 平成 28 年度の実績

①地域ものづくり学生共同プロジェクト

「地域ものづくり学生共同プロジェクト」は、「グローバル人材プログラム」指定科目として、平成 27 年度前期から毎学期開講している。本授業の目的は、留学を経験した学生がチームでプロジェクトに取り組み、自身の語学力と異文化経験を活かしながら、課題解決力やマネジメント能力を養成することである。授業担当は、坂本ファーン（iCoToBa 教員）と宮谷敦美（国際関係学科教員）である。前期は 18 名、後期は 33 名が受講した。

このプロジェクトでは、学生が地域でものづくりに取り組む企業に直接インタビューに赴き、インタビューで得たニーズをヒントに、さらに業界研究を進め、多言語による広報記事を作成する。プロジェクト実施にあたり、必要なスキルとして扱っているものは、⑴業界研究のしかた、⑵インタビュー計画の設計方法、⑶効果的に質問するスキル、⑷記事タイトルと構成の分析、⑸わかりやすいスライド作成とプレゼンテーションのしかたである。これらのスキルをプロジェクトと並行して学びながら、異なる言語を学ぶ学生 5～7名がチームをつくり、記事作成とプレゼンテーションに取り組む。コース終了時の成果発表会は、前期は 7 月 31 日に三井物産中部支社で、後期は 1 月 28 日に名古屋テレビ塔で開催された。成果発表会には、企業関係者および本学教職員が参加し、さまざまなアイデアと改善のためのディスカッションを行った。

毎回のプロジェクト終了時にアンケートを実施し、学生自身の学びのふりかえりと、次期の授業改善に向けて情報を得ている。学生からの意見を基に平成 28 年度は、このプロジェクトの経験者が、それぞれのチームにアドバイスを与えたり、成果発表会の運営を任せるなど、学生が自身の学びを還元するという機会も作った。

［企業取材の様子］

［成果発表会での発表場面］

また、このプロジェクトは「地域のグローバル化を支える人材育成」として注目され、新聞（2017年1月29日中日新聞）およびテレビニュース（2017年1月28日メ～テレニュース）として取り上げられた。学生が作成した記事は、実際に企業のPR活動等に使われており、学生がプロジェクトに取り組む動機づけにもつながっている。また、これまでにプロジェクトを受講した学生が、プロジェクト終了後に地域での取り組みに参加する自主的な活動も生まれている（例：安城市・田んぼアートへの出展、常滑市・酒蔵開きでのボランティア活動）。

地場企業の海外進出を後押し

県立大生、外国語で記事

企業を取材して外国語の記事にまとめた成果を発表する学生たち＝名古屋・栄の名古屋テレビ塔で

［2017年1月29日付中日新聞］

平成28年度の本プロジェクトは、取材先の各企業をはじめ、NPO法人G-net、三井物産株式会社中部支社、百五銀行、JETRO名古屋の協力により実施された。

［表8-2 2016年度のプロジェクト協力企業および作成記事の言語］

学期	企業名	記事を作成した言語
前期	葛利毛織工業株式会社（愛知県一宮市）	英語、中国語、日本語
	株式会社南山園（安城市）	英語、スペイン語、ミャンマー語、日本語
	株式会社マキノ（常滑市）	英語、ドイツ語、日本語

	ニッケン刃物株式会社(岐阜県関市)	英語、ドイツ語、日本語
後期	澤田酒造株式会社(常滑市)	英語、スペイン語、ドイツ語、日本語
	株式会社田辺真珠養殖場(志摩市)	英語、中国語、ロシア語、日本語
	東海光学株式会社(岡崎市)	英語、フランス語、中国語、日本語
	宮田毛織工業株式会社(一宮市)	英語、スペイン語、日本語
	※OKKO 真珠株式会社(伊勢市)	商品企画(英語、中国語、日本語)

［学生が作成した記事例］

平成 28 年後期には、前期に「地域ものづくり学生共同プロジェクト」を受講した学生 4 名が、商品企画という新たな種類のプロジェクトに取り組んだ。本プロジェクトは OKKO 真珠株式会社、百五銀行、三井物産株式会社中部支社の協力により実施したものである。学生は、企業取材、真珠に対する消費者アンケートの設計実施、商品企画、広報までをすべて担当した。学生が企画したデザインは実際に商品化される予定である。

②国際サミット・国際会議における学生ボランティア

本年度は、地域における 3 つの国際イベント(伊勢志摩サミット、International Association for Impact Assessment、国際メトロポリス会議 2016)で外国語学部の学生が通訳・会場スタッフとしてボランティア参加した。留学を経験した 3、4 年生だけでなく、実践の機会を求める 1、2 年生の参加も目立った。

1) 伊勢志摩サミットの「おもてなしブース」での外国語案内ボランティア

伊勢志摩サミット東海会議が運営した中部国際空港と名古屋駅の「おもてなしブース」に、外国語学部の学生、計 55 名(名古屋駅:41 名、中部国際空港:14 名)が外国語ボランティアとして参加した。学生は、英語をはじめとする外国語で、ブースへの誘導や交通案内・展示など

の説明を担当した。学生の活躍は、5 月 24 日付の中日新聞、5 月 28 日付の読売新聞に紹介された。

［名駅おもてなしブースで活動する学生］

海外メディア「おもてなしブース」

名駅、中部空港

伊勢志摩サミットを前に、取材で訪れる海外メディア関係者らに東海地方の魅力を伝える「おもてなしブース」が二十三日、JR名古屋駅＝写真上＝と中部国際空港＝同下＝に開設された。

設置したのは、愛知、三重県や名古屋市、経済団体など二十四団体でつくる伊勢志摩サミット東海会議。英語を話せる大学生ボランティアらが常駐して会場までの行き方を案内し、東海地方の伝統文化やものづくりをPRする。

名駅では茶室をイメージした空間に、レゴで作った名古屋城の模型やからくり人形、有松絞などを展示。トヨタ自動車の燃料電池車や初の国産ジェット旅客機MRJ（三菱リージョナルジェット）の模型も並び、伝統工芸から先端技術に至るものづくりを紹介。忍者姿のスタッフもいて記念写真に応じる。

中部国際空港の国際線到着口のブースでは、常滑焼や小原和紙など地元の伝統産業品、リニアモーターカーのジオラマを展示。スタッフ十五人が常駐して案内する。

名駅であった記念式典では、東海会議会長の三田敏雄・中部経済連合会長があいさつした。案内ボランティアの愛知県立大四年の後藤優里子さん（二〇）は「東海地方には世界に自慢できるものがたくさんあり、広めたい」と思いを込めた。

［2016 年 5 月 24 日付　中日新聞］　　［『伊勢志摩サミット東海会議活動報告書』学生の声］

2) International Association for Impact Assessment での「おもてなしイベント」企画

2016 年 8 年 5 月 11 日～14 日に名古屋国際会議場で開催された International Association for Impact Assessment（IAIA：国際環境アセスメント学会）において、外国語学部の学生が中心となり、海外からの参加者を対象とした「おもてなしイベント」を実施した。実施したのは、「Dine Out 企画：交流パーティー（5 月 12 日）」と「Excursion 企画：名古屋の街に飛び出そう（5 月 14 日）」の 2 種類のイベントである。この企画は、名古屋国際会議場、国際学会 IAIA、西アサヒ、愛知県酒造組合の協力を得て実施したものである。

5 月 12 日の Dine Out 企画では、名古屋市円頓寺商店街の西アサヒで、「WA―和・輪・話―」をコンセプトに立食形式での交流パーティーを開催した。パーティーでは、愛知の地酒をふるまい、学生が作成した愛知県の魅力を伝えるショートムービーの上映等を行なった。

5 月 14 日の Excursion 企画では、“Reasonable but Deep”をコンセプトに名古屋の街を散策する 3 つのコース(①名古屋城・円頓寺コース、②異文化混在、大須散策コース、③「徳川」を感じるコース)を用意し、学生ならではの視点で名古屋の街を案内した。これらのイベントは、本学の学生 23 名(外国語学部 21 名、情報科学部 2 名)が企画から運営まで全てを担当した。2 日間でのべ 70 名が参加し、学生は英語をはじめ、多言語で対応した。また、これらのイベントの広報活動も学生が担当し、Facebook ページ(Explore Deep Nagoya for IAIA participants)で、2 カ月間、定期的に英語による発信も行なった。

本企画によるイベントは、IAIA および、名古屋国際会議場からも高く評価され、IAIA 学会から感謝状が届くともに、名古屋国際会議場の Web サイトでも紹介されている。(名古屋国際会議場 NCC ニュース vol.15(2016 年 8 月) 「『MICE およびグローバル人材育成事業』から生まれた新たな試み～学生による『国際影響評価学会 IAIA16』でのユニークな“おもてなし”～」 http://www.nagoya-congress-center.jp/news/news16.html)。

［Dine Out 企画:地酒をふるまう］

［Excursion 企画:自作ガイドブックで説明する］

3) 国際メトロポリス会議 2016 における会場運営

2016年10月24日～28日に名古屋国際会議場で開催された「国際メトロポリス会議2016」に、外国語学部の学生が会場運営ボランティアとして参加した。

国際メトロポリス会議は、1996年にイタリアで第1回大会が開催され、その後毎年開催されており、2016年は、アジアで初の会議が名古屋市で開催された。

この会議に、ボランティアとして参加した学生は、英米学科14名、ヨーロッパ学科フランス語圏専攻3名、ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻5名、ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻1名、中国学科4名、国際関係学科4名の計31名である。学生ボランティアは、犬山へのエクスカーションと名古屋入国管理局視察の引率業務や、会場スタッフとして運営業務を担当した。また、学生はボランティア業務の合間に、基調講演やワークショップの傍聴や、国内外からの参加者へのインタビューを行うなど、グローバルにかかわる課題について理解を深める機会となった。

③愛知県観光局・広聴広報課との連携による英語による観光ブックレットの作成

iCoToBa の英語授業「J-Ambassador（日本紹介）」を受講した外国語学部の学生 14 名が、外国人観光客に愛知についてより深く知ってもらうための英文ブックレットを作成した。これは、愛知県政策企画局広報広聴課との連携により行われたものである。完成した冊子“Heart of Japan: All about Aichi”（全 22 ページ）は、PDF 版が本学 iCoToBa の Web サイトにアップされたほか、愛知県政策企画局広報広聴課の Web サイト「愛知県広報動画・広報誌『愛知の引力。』」ページでも紹介された。

Activities

Ebisenbei no Sato

Ph: 0569-82-0248 www.ebisato.co.jp/ (Japanese only)

Ebisenbei no Sato is a shrimp cracker factory. Enjoy observing the shrimp cracker making process, taste some free samples and buy some souvenirs for friends and family back home. You can even bake a personalized shrimp cracker.
Open: 9:00-17:00 (all year round)
Cost: entry ¥500/10min shrimp cracker baking
Transport: Meitetsu Kowa line to Kowa Station. (50 min)
Ebisenbei no Sato is 2.5km from Kowa station. Walk or take a taxi.

Arimatsu-Narumi Shiborikaikan

Ph: 052-621-0111 http://www.shibori-kaikan.com/en/ (English)

Arimatsushibori is a traditional craft using tie-dying. You can make an original handkerchief or T-shirt from as little as ¥1,000. Reservations are necessary. All cloth and tools are provided. You tie your items and they are dyed later and the finished product sent to you. Postage to foreign countries is available.
Open: 9:30-17:00 (Tie-dying ends at 16:30)
Closed: Wednesday (December –March) & New Years holidays
Cost: ¥300/adult, ¥100/child
Transport: Meitetsu Nagoya line to Arimatsu (30 min) then walk (5 min)

Laguna Ten Bosch

Ph. 0533-68-2700 www.lagunatenbosch.co.jp/laguna/english/index.html (English)

An extremely popular marine resort facility where you can enjoy a lot of recreational activities (roller coaster, 360° 3D mapping, musicals and so on), gourmet, shopping, hot springs and so on.
Open: See HP (depends on month)
Cost: ¥2150/adults (junior high school students and above), ¥1200/elementary school students, ¥700/children (aged three and over)
Transport: JR Tokaido line to Gamagori (40 min.) then free shuttle bus (15 min.)

2016年(平成28年)12月24日(土曜日)

外国人に冊子で愛知紹介

県立大 学生有志が工夫

留学生に取材■観光ルート考案

［実際に作成した冊子ページ］

［読売新聞 2016 年 12 月 24 日付］

4. 平成 28 年度の評価

①効果が現れていること

平成 28 年度は、前年度までの実績を活かし、地域と連携した教育活動を多数実施できた。愛知県というグローバル化が進んだ地域の特性と異文化資源を活かしつつ、地域産業界と大学が共に人材育成に取り組むことにより、地域社会におけるグローバル、グローカルな課題解決にもつながる教育プロジェクトとして育ちつつある。

②改善すべきこと

このような産民学による教育プロジェクトでは、学生が外国語に翻訳、通訳する労働力であるという捉え方でなく、長い目でこの地域の将来を支えていく人材育成を、大学と地域・産業界が協力しながら進めていくというビジョンを共有することが重要である。継続的な実施のために、さらに地域・産業界とのネットワークを拡げていく必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

本事業では、「地域ものづくり学生共同プロジェクト」をはじめ、愛知県の地域の特性と資源を活かし、特徴のある教育プログラムを複数開発した。これらは、連携先の課題をタスクとして設定することにより、双方にとってメリットのあるプログラムになるよう工夫し、地域貢献にも資することを目指したものである。プログラム実施にあたっては、関係企業やNPO法人、自治体などと密にコミュニケーションをとり、連携を強化することができた。

次年度からは、グローバル事業の全学移行に伴い、これらのプログラムも外国語学部以外の学生も履修、参加が可能になる。さらに複雑な調整が必要となるため、関係部署と協力し、実施体制を整えていく。

9. FD 活動

1. 概要

平成 26 年度より、グローバル事業に関連する FD 活動を開始した。平成 28 年度も引き続き、前期および後期開催の iCoToBa の全授業アンケートを実施し、授業報告で課題となる点を明らかにし、次学期への改善につなげた。また、外国語学部の FD 活動では、本事業で取り組んでいるインターネットポートフォリオシステム manaba を活用した教育実践を紹介した。

2. 平成 28 年度の目標

平成 28 年度は、前期および後期の iCoToBa の全授業でアンケートを実施し、授業の効果を検証する。また、学生のニーズに関する情報を集め、次年度の全学のグローバル事業移行後の iCoToBa 開講授業の準備を進めることを目標とする。

3. 平成 28 年度の実績

①iCoToBa 授業アンケートの実施

平成 28 年度前期、後期に開講した iCoToBa の全てのクラスで、授業アンケートを実施した。アンケートは、本学の正課授業との比較が可能になるように、教育支援センターが実施している授業アンケートとほぼ同じ項目で構成されている。アンケート項目は以下の通りである。

［質問項目］

あなた自身について:

Q1. 事前に授業概要を読むなどして授業内容を知ろうと努めましたか。
Q2. この授業における欠席回数を報告してください。
Q3. この授業に関して、授業外での学習・実践など自主的な努力をしていますか。
Q4. この授業を受講して、あなたの語学力は伸びましたか。
Q5. この授業を受講して、あなたの語学学習の方法はよくなったと思いますか。

授業および担当教員について:

Q1. 授業概要や学期開始時の授業に関する説明は、わかりやすかったですか。
Q2. 授業概要や学期開始時に説明された授業の目的は、授業で達成されていたと思いますか。
Q3. 教員の話し方、説明の仕方はわかりやすかったですか。
Q4. 教材（教科書、配布物など）は、有用でしたか。

Q5. ホワイトボードへの板書、パワーポイントなどのスライドは見やすかったですか。
Q6. 教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか。
Q7. 教員は、一方的な説明だけでなく、質問、発言、発表など学生の積極的な参加を促しましたか。
Q8. 教員の授業への意欲・熱意は感じられましたか。
Q9. この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたいという気持ちになりましたか。

評価は「14－6. iCoToBa 授業アンケート結果」をご参照いただきたい。

4. 平成 28 年度の評価

①効果が現れていること

授業アンケートの実施により、客観的な評価から授業担当教員が授業をふりかえり、改善策を考えるというサイクルが確立できている。各授業の報告は、iCoToBa 年報に掲載されている。また、現在のインターネットポートフォリオシステムの活用事例を紹介し、留学中の学生とのコミュニケーションのとり方や危機管理の方法について、広く学部教員が知るきっかけをつくることができた。

②改善すべきこと

現在実施しているアンケート項目は、教育支援センターのアンケート項目とほぼ同様の内容である。次年度以降はアンケートデータ処理のために費やすことができる時間は限られるため、アンケートの目的を定め、必要な情報のみ収集できる質問項目に絞り込む必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

iCoToBa で前後期に開講される全ての授業科目で授業評価アンケートを実施し、それを授業改善につなげる PDCA サイクルが確立できた。また、各 iCoToBa 教員が作成する授業報告は、PBL やアクティブラーニング、CLIL など貴重な授業実践の記録となっている。また、このような PDCA のサイクルに基づき、さまざまな教材や教室活動事例集が作成された。

本事業助成終了に伴い、iCoToBa での開講授業数は数を絞らざるを得ないため、次年度は英語科目と留学準備講座、地域コミュニティ言語講座に特化した講座を開講する予定である。iCoToBa での講座は補習としての位置付けであるため、学生の意見を取り入れた挑戦的な取り組みをしやすいというメリットもある。今後も学生への授業アンケートも参考にしつつ、効果的な講座運営を目指す。

10. 講演会・セミナー・イベント

1. 概要

「グローバル人材育成推進事業」の採択から、本学では、グローバル人材育成に関連するテーマで講演会・セミナーを開催し、本学の取り組みを学内外に情報発信するとともに、学生のグローバルマインドやキャリア意識の醸成を目指している。

2. 平成 28 年度の目標

本学学生のグローバルマインドやグローバルキャリア意識の醸成を目指し、セミナーやイベントを企画・開催する。次年度以降のイベント実施のための資源や方法について検討する。

3. 平成 28 年度の実績

①グローバルキャリア・グローバルマインドの醸成を目指したセミナー

グローバルキャリアを目指す学生を対象に、下記のセミナーを開催した。

［表 10－1　グローバルキャリア・グローバルマインドに関するセミナー一覧］

月　日	タ イ ト ル	参加者数
4 月 20 日	メキシコ・インターンシップ報告会	29
5 月 11 日	リサーチプロジェクトを行うためのアドバイスセッション	21
7 月 19 日	ブラジルで日本語教師をして知ったこと	14
7 月 20 日	グローバルキャリアセミナー1　キャリア×国際交流	58
1 月 18 日	グローバルキャリアセミナー2　キャリア×国際交流	25

1)「メキシコインターンシップ報告会」(4 月 20 日)
発表者:スペイン語圏専攻 4 年　鳥居愛、中川京、川端麻衣

4 月 20 日(水)の昼休み時間、iCoToBa でメキシコ・インターンシップ帰国報告会を開催した。

メキシコに進出している日系企業(自動車産業)で半年～1 年におよぶ海外インターンシップを終えて帰国した3名の学生(スペイン語圏専攻4年生の鳥居愛さん、中川京さん、川端麻衣さん)が、その貴重な体験を熱く語った。通訳・翻訳のレベルを向上させようとメモを取り

つづけたノートには、自動車関係の部品名や製造現場や社内会議で使われる専門用語や独特の表現（日本語・スペイン語）がぎっしり。その分量は大学ノート数冊分におよび、日々格闘してきたことをうかがい知ることができた。

近年メキシコに進出する日本企業は急増しており、来年には 1,000 社を超える見通しで、これは 10 年前の約 6 倍である。そのような状況下、メキシコではスペイン語を使える日本人が求められており、産業で使われる専門用語を理解して使いこなすのは容易なことではなく、実地研修が不可欠である。本学は昨年から産学連携による人材育成の一環として、メキシコに進出する日系企業 2 社（自動車関連産業）と覚書を締結し、長期インターンシップ（半年～1 年）として学生をメキシコに派遣している。上記 3 名はその第一期生で、様々な困難に直面しながらも大きく成長し、体験的に学び、瞬発力を要する通訳の仕事の難しさを理解した。

2)「リサーチプロジェクトを行うためのアドバイスセッション」（6 月 29 日）
講師：Francisco Barrera Rodriguez（中京大学　准教授）

［Barrera 氏によるセミナー風景］

In iCoToBa, we had a guest speaker from Chukyo University: Francisco Barrera Rodriguez. He prepared a talk aimed at students from our university with the intention of orientating and clarifying doubts of students who want to do research for different purposes, such as assignments for the seminars they are enrolled in, do work related to their thesis, do some research during a study –abroad program or simply because they want to elucidate a subject that has fascinated them. There were students mainly from the Spanish major nevertheless, several students from the French major attended the talk, since it was performed totally in Japanese.

One of the main points of the session was to differentiate what kind of themes could feasibly become the subject of an investigation and how to treat it academically, especially when it comes to what we might think are aspects of the culture of the host country. Students exposed their doubts and discussed them in order to have a more clear idea about their academic significance of researching things they find interesting in the host country.

3)「ブラジルで日本語教師をして知ったこと」(7 月 19 日)
講師:藤森優氏(JICA 日系社会青年ボランティア)

本学卒業生で、現在、JICA 日系社会青年ボランティアとして、ブラジル・サンパウロ州アチバイア市で日本語教師をしている藤森優氏による、ブラジルの日系社会の様子や日本語学校での教育活動について自身の体験を基に講演を開催した。日系社会における日本語学校の役割として、継承言語としての日本語教育に加え、学習者が自身のルーツである日本について理解を深め、日系コミュニティとのつながりを作る場としての役割も期待されていることなど、日系社会独特のエピソードについて語った。

[藤森氏によるセミナー風景]

また、藤森氏は、自身の経験を基に、国外でキャリアを積んでいく上で、語学力以上に、失敗や変化を怖がらずに一歩踏み出してみる勇気と、なにごとも取り組む姿勢が重要であると学生にメッセージを送った。セミナーには、ブラジルからの交換留学生も参加し、ブラジルの社会・文化、JICA の制度などについて、活発な質疑応答がなされた。

4)グローバルキャリアセミナー
セミナー1 「キャリア×国際交流」(7 月 20 日)

「留学・就活経験者が語る留学のメリットと心得」
「キャリアから見るグローバル」

セミナー2 「キャリア×国際交流」(1 月 18 日)
「留学・就活経験者が語る留学のメリットと心得」

キャリア×国際交流
『グローバルキャリアセミナー』
「グローバル化」という言葉をよく耳にしますが、そもそも「グローバル」って?このセミナーでは先輩学生の留学体験談とキャリアから見た「グローバル」をテーマとして情報提供をします。
学科、学年問わず、留学や海外に興味がある学生必見!
あなたの「憧れ」を「興味・やる気」に変えませんか?
このセミナーを活用し、学生生活・留学をより充実させましょう。
■日時:7月20日(水) 14:30-16:00
■場所:H004教室
■内容:
1. 先輩体験談(中国学科4年、ドイツ語圏専攻4年)
「留学・就活経験者が語る留学のメリットと心得」
2. キャリアから見るグローバル(キャリア支援室相談員)
「社会が求めるグローバル人材×学生の強みと弱み」
3. 質疑応答
■お問い合わせ:
国際交流室/キャリア支援室
電話:0561-76-8829
メール:ryugaku@bur.aichi-pu.ac.jp

②高大連携イベント　Immersion Program（8 月 11 日～12 日）

8 月 11 日（木）と 12 日（金）の 2 日間にわたって Immersion Program（外国語だけで生活することで、その言語能力を高めるプログラム）の合宿を開いた。5 回目となる今回は、初めて本学キャンパスで開催した。5 言語（英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）全ての言語を開講したところ、今回は、県大生の参加費が後援会から援助されることとなり、順調に参加者が集まった。英語を学ぶ高校生も例年通り参加し、にぎやかなプログラムとなった。

県大生はリーダーを含めて 55 名が参加したほか、スーパーイングリッシュスクールのハブ校や昨年の参加校を中心に、高校生が 8 名参加した。またグローバル人材育成推進室の外国人教員も全員参加して、学生リーダーをアドバイスした。それぞれの言語で 2 日間を過ごしたほか、高校生向けに媒介言語を用いない直接法による各言語の入門講座と English Café を 2 コマ設け、多言語環境を実際に体験する機会を提供した。

初日は参加者全員が 1 分間の自己紹介を行ったあと、言語ごとにわかれてアイスブレーキングの時間を設けた。そのあとスキット作りに取り組み、夜のタレントショーで発表する内容をチームごとに練習した。タレントショー後は入浴、そして自由時間は各言語での会話を楽しんだ。2 日目は英語と中国語で指示が入るラジオ体操からスタート。朝食を終えたあと、各言語で独自のプログラムを 1 時間単位で行った。クイズ大会やゲームなどリーダーの創意工夫を競い合った。2 日間という短い時間だが、参加者は、外国語でコミュニケーションをとり続けるのは案外大変だということは実感できただろう。アンケートでもプログラムの長さについては 9 割以上から適当との評価を得た。高校生参加者からは大学のキャンパスも一緒に見ることができてよかったなどと高い評価をもらったので、合宿に参加した高校生への大学広報の役割も果たせたのではないかと考えられる。

大学内での実施は、食事の準備や入浴・宿泊の手配など苦労する点も多かったが、参加者には便利であった。また前期に実施する場合、留学経験者が少ないため、リーダーを担当する学生を集める点で課題が多いことも次回以降、考慮する必要がある。

[Immersion Program の活動風景]

③第 9 回多言語競演レシテーション大会 11 月 5 日（土）

「多言語競演レシテーション大会」は、本学が独立行政法人化した 2008 年以降、高等言語教育研究所主催の行事として開催されてきたが、同研究所の閉鎖にともない、本年度は iCoToBa 委員会がその業務を引継ぎ開催された。

この催しは、学生が本学で学習中の外国語（留学生の場合は日本語）で文学作品などの一部を暗唱し、学習年数により 2 部に分かれてパフォーマンスを競い合い、聴衆による投票、および審査委員会による協議で優秀者が選ばれるものである。今年度は、第 1 部（学習 1 年目の履修者）に 8 組、第 2 部（学習 2 年目以上の履修者）に 7 組、計 15 組が参加した。

【受賞者】

第 1 部 ■ 最優秀賞　中国語：伊藤真衣、宇都宮暉、春田惠理、宮下真優
　　■ 優秀賞　ポルトガル語：山田哲史
第 2 部 ■ 最優秀賞　英語：大森美紀　■ 優秀賞　中国語：筏津衣央
■ 学長賞　スペイン語：岡本奈美佳
■ 学部長賞　ロシア語：吉田智泰、小野弘晃

［授賞式後の記念撮影］

多言語競演レシテーション大会実施要領の概要（出場希望者募集用ポスター内容に基づく）

- 暗唱者は、今年度、本学の外国語の授業（全学共通・外国語科目および外国語学部専門科目）を受講し、その言語を学習している学生とする。
- 第 1 部と第 2 部に分けて出場者を募る。第 1 部には当該言語を学習 1 年目で当該言語圏に 3 ヶ月以上滞在したことがない学生が、第 2 部には学習 2 年目以上の学生が参加できる。英語と日本語は第 2 部のみの募集とする。第 2 部についてはレシテーション、ショートドラマなどから選べる。ただし、歌唱や楽器演奏等は除く。
- 歌唱などを伴う演目の上演を希望する場合は、2013 年度から導入された『自由演目』にエントリーすること。 ※今年度はエントリーがなかったため実施せず。
- 第 1 部と第 2 部、それぞれ 1 言語 1 件を担当教員が選抜する。ただし、英語は 3〜4 件とする。規定時間内で 2 名以上が一つの作品を演じる場合、1 件として参加できる。
- 1 件につき暗唱時間は 3 分（移動、準備、片付けを含め 4 分）とする。その間、関連する写真等を投影する。

・ 聴衆には暗唱内容の和訳と背景等を書いた印刷物を配布する。
・ 暗唱度、表現力、映像・印刷物の準備度等を総合的に評価し、審査する。

④外務省 JENESYS2016 プログラム招聘 ASEAN 諸国大学生との交流会

外務省による「対日理解促進交流プログラム」は、対外発信の強化、外交基盤の拡充を目的とし、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、将来を担う人材を招へい、および派遣するプログラムである。その中でアジア大洋州を対象とする JENESYS2016（テーマ:経済）による第 6 陣（テーマ:中小企業）の訪日団（約 270 名）が、1 月 29 日から 10 日間、日本各地に招へいされた。そのうち中部地域を訪問した 50 名の一団（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、ベトナムなどの 10 カ国混成グループ）が、自治体や企業の視察訪問などをおこなう一連のプログラムの中で、大学交流として本学を訪問し、本学の学生と協働で以下のような活動を実施した。

日時:2017 年 2 月 3 日（金曜日） 10:00～15:00
来訪者:対日理解促進交流プラグラム（対象国:ASEAN（JENESYS2016））
テーマ:経済第 6 陣
訪日団 50 名（ブルネイ 5、カンボジア 6、インドネシア 6、ラオス 10、マレーシア 2、ミャンマー 4、フィリピン 4、タイ 4、東ティモール 5、ベトナム 4）、通訳コーディネータ 4 名、JICE 事務局 2 名

内容:午前「ウエルカムスピーチ＆キャンパスツアー」 午後「異文化理解ワークショップ」
参加学生数:午前の部 22 名、午後の部 32 名

午前の部:ウエルカムスピーチ＆キャンパスツアー（10:00～12:40）

本学学生が英語による大学紹介を行ったのち、4グループに分かれ、図書館、次世代ロボット研究所、通訳翻訳研究所、iCoToBa（多言語学習センター）を見学した。次世代ロボット研究所と通訳翻訳研究所の説明は、学生が行い、通訳も学生が担当した。その後、食堂で懇談を兼ねた昼食会を行なった。

午後の部:異文化理解ワークショップ（13:00~15:00）

参加学生は 10 のグループに分かれ（本学学生 2～4 名、ASEAN 諸国の大学生 5 名）、本学の学生が外国語学部「グローバル人材プログラム」で取り組んできた「地域ものづくり学生共同プロジェクト」の成果を基に、地域のものづくり企業について英語で紹介し、ASEAN 諸国の学生とディスカッションを行った。また、ASEAN 諸国の大学生は、日本訪問中に見つけた日本文化や社会について、自国でどのように紹介するか説明し、意見交換を行った。さまざまな

背景を持つ学生が英語でディスカッションすることを通して、学生が複眼的な視野を持ち、グローバルに発信するための考え方を得る機会となった。

［午前のキャンパスツアーの様子］

［午後の異文化ワークショップの様子］

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

本年度は、事業助成最終年度で、次年度の準備が中心となり、セミナーやイベントの実施回数は、前年度と比べ減ってしまった。回数は少なかったが、それぞれの内容は非常に充実していた。また本年は、多言語競演レシテーション大会を、iCoToBa 委員会の主催で開催することができた。15 組の学生が諸言語によるパフォーマンスを競い合うものであり、グローバル人材の育成に寄与するところが大きかった。ほぼすべてのイベントの実施において、外部機関との連携や本学卒業生の協力を得ている。本学を核とした高大連携と他大学との連携が着実に進んでいる表れである。また、次年度以降、イベントに関連する予算が削減される中、実施継続のための選択肢も拡げることができた。

②改善すべきこと

改善すべきことは、予算と人員が削減される中で、いかにイベントを実施していくか知恵を絞っていくことである。特に、イマージョン合宿については、iCoToBa の外国人専任教員が大幅に削られる中で、留学生も参加しやすいプログラム内容にするなど、工夫が求められる。

5. 事業全体での評価（総括）

本事業では、学生のグローバルマインドやキャリア意識の醸成を目指してさまざまなイベントを実施してきた。企画を通して、これまで個別の教員が持っていた卒業生のネットワークを共有したり、地域の外部機関との連携が進むという効果も見られた。

本学を卒業しグローバルに活躍する先輩諸氏は、学生にとって身近なロールモデルである。今後もこのようなイベントを定期的に計画し、外国語学部に限らず全学部の同窓生のネットワークを拡げ、学生の知見を拡げるきっかけづくりに取り組む。

11. 入試・広報活動

1. 概要

本学では「グローバル人材育成」に関する取り組みを広く周知すると共に、「グローバル人材候補者」になりうる高校生に、本学を志望大学として選択してもらうことや、入学前学修の動機づけを重視し、次の 3 つを主な柱として取り組んでいる。

①高校（生）に向けた入試広報活動と高大連携の強化
②全国枠の推薦入試（グローバル人材枠）制度の広報
③入学希望者、入学予定者に対する指導（動機づけ）

①に関しては、オープンキャンパスやキャンパス見学ツアー、出張模擬授業やイマージョン合宿等を行っている。高校および PTA を対象にしたキャンパス見学ツアーには、iCoToBa の施設・授業見学をコースに組み込んでいる。また、8 月開催のオープンキャンパスでは、保護者対象説明会を2回に分けて開催し、昨年度同様200名を超える参加があった。参加者数は年々増加傾向にある（全体の参加者数の対前年比は 114.9%）。

②に関しては、県内の高校のみを対象としていた推薦入試（定員 23 名）に加えて、平成 26 年度から「全国枠のセンター試験利用型推薦入試（グローバル人材枠、定員 43 名）」を導入し、全国枠推薦入試制度の広報活動に力を入れている。

③については、上記全国枠での推薦入試合格者を対象とし、2 月中旬に「入学前オリエンテーション」を実施しており、英語力の維持・向上や主体的に広い視野をもって学修に取り組む動機づけを継続して行っている。

2. 平成 28 年度の目標

①高校（生）に向けた入試広報活動と高大連携の強化

公開講座、模擬授業、ガイダンス、高校訪問等、さまざまな手段により外国語学部「グローバル人材プログラム」の存在や魅力を広く高校（生）に周知、アピールする。こうした活動を通じて、グローバルな視野を持った高校生に入学の動機づけを行い、グローバル人材に求められる基本的な能力（積極性や協調性、コミュニケーション力など）を有する入学者を増やす。外国語学部ミニオープンキャンパスやイマージョン合宿を実施し、高校に本学の取り組みを周知するとともに、高大連携を強化する。

②「大学入試センター試験を課す全国枠の推薦入試（グローバル人材枠）」制度の広報活動

各種進学セミナーや外国語学部ミニオープンキャンパスの実施を通して、「大学入試センター試験を課す全国枠の推薦入試（グローバル人材枠）」の周知のため、積極的な広報活動を行う。

③入学希望者、入学予定者に対する指導（動機づけ）

本学に興味を持つ高校生に、英語とともに、他の言語学習にも興味を持つきっかけとなるようイマージョン合宿を実施する。また全国枠推薦入試合格者に対し、入学前オリエンテーションを実施し、入学前の準備期間にさらに英語力を伸ばし、大学での学修や留学に対する動機づけにつなげさせる。

3. 平成 28 年度の実績

①高校（生）向けの広報の拡充

高校生やPTAなどによるキャンパス見学ツアーやオープンキャンパスでは、iCoToBa（多言語学習センター）をプログラムに組み込み、可能なかぎり「体験型」の案内を取り入れた。このほか、外国語学部教員による高校出張講義や高校の大学訪問を積極的に受け入れている。平成 28 年度に高等学校で行った出張ガイダンス、模擬授業（表 11-1）、iCoToBa を訪問した高等学校（表 11-2）は年々増加しており、「グローバル人材プログラム」や iCoToBa の存在は高校生が本学を選択するプロセスで大きな影響を与えていると言えよう。

［表 11-1　平成 28 年度出張ガイダンス・模擬授業実施一覧］

学校名・学年	実施日	内容	参加者	担当
愛知県立旭野高等学校 2 年生	5 月 30 日	模擬授業	40 名	英米学科 松本　三枝子
愛知県立安城南高等学校 3 年生	5 月 31 日	模擬授業	36 名	国際関係学科 藤倉　哲郎
愛知県立豊橋南高等学校 2 年生	6 月 3 日	模擬授業	37 名	英米学科 木全　滋
岐阜県立岐阜北高等学校 1 年生	6 月 10 日	模擬授業	67 名	国際関係学科 福岡　千珠
岐阜麗澤瑞浪高等学校 2 年生	6 月 21 日	模擬授業	30 名	スペイン語圏専攻 谷口　智子
愛知県立常滑高等学校 2 年生	6 月 29 日	模擬授業	42 名	英米学科 榎本　洋
名古屋市立向陽高等学校 1 年生	7 月 8 日	模擬授業	40 名	英米学科 梶原　克教

愛知県立小坂井高等学校 2年生	7月11日	模擬授業	42名	ドイツ語圏専攻 中屋　宏隆
愛知県立横須賀高等学校 2･3年生	7月11日	模擬授業	71名	国際関係学科 秋田　貴美子
名古屋市立緑高等学校 1～3年生	7月12日	模擬授業	74名	中国学科 吉池　孝一
愛知県立知立東高等学校 2年生	7月12日	模擬授業	44名	スペイン語圏専攻 小池　康弘
愛知県立小牧南高等学校 3年生	7月13日	模擬授業	50名	中国学科 川尻　文彦
三重県立松阪高等学校 2年生	7月14日	模擬授業	40名	フランス語圏専攻 天野　知恵子
愛知県立知立東高等学校 2年生	8月23日	模擬授業	42名	英米学科 袖川　裕美
三重県立津西高等学校 1年生	9月2日	模擬授業	48名	フランス語圏専攻 長沼　圭一
愛知県立津島高等学校 2年生	9月15日	模擬授業	27名	フランス語圏専攻 原　潮巳
愛知県立豊野高等学校 2年生	9月26日	模擬授業	36名	国際関係学科 矢野　順子
名古屋市立名東高等学校 2年生	9月30日	模擬授業	33名	英米学科 池田　周
愛知県立豊田南高等学校 2年生	10月17日	模擬授業	35名	スペイン語圏専攻 谷口　智子
愛知県立岡崎北高等学校 2年生	10月17日	模擬授業	27名	英米学科 小澤　正人
三重県立津東高等学校 1･2年生	10月20日	模擬授業	40名	ドイツ語圏専攻 中屋　宏隆
愛知県立豊橋東高等学校 2年生	10月25日	模擬授業	27名	中国学科 中西　千香
愛知県立豊田北高等学校 1･2年生	10月26日	模擬授業	38名	中国学科 中西　千香
愛知県立瑞陵高等学校 2年生	11月9日	模擬授業	42名	ドイツ語圏専攻 今野　元
愛知県立阿久比高等学校 2年生	11月10日	模擬授業	40名	ドイツ語圏専攻 中屋　宏隆
愛知県立東海南高等学校 2年生	11月10日	模擬授業	45名	スペイン語圏専攻 小池　康弘

愛知県立丹羽高等学校 2 年生	11 月 10 日	模擬授業	60 名	フランス語圏専攻 中田　晋司
愛知県立半田高等学校 2 年生	11 月 11 日	模擬授業	36 名	英米学科 大森　裕實
愛知県立西尾高等学校 2 年生	12 月 7 日	模擬授業	60 名	国際関係学科 亀井　伸孝

［表 11-2　平成 28 年度 iCoToBa 訪問者一覧（高等学校）］

学校名・学年	月日	訪問者数			
		生徒	教諭	PTA	合計
静岡県立袋井高等学校 2 年生	5 月 20 日	80	4	0	84
岐阜県立長良高等学校保護者	5 月 30 日	0	1	45	46
愛知県立御津高等学校 2 年生	6 月 17 日	77	4	0	81
岐阜県立加茂高等学校 2 年生	6 月 23 日	108	6	0	114
愛知県立長久手高等学校保護者	6 月 24 日	0	3	29	32
愛知県立豊田高等学校保護者	7 月 1 日	0	2	55	57
愛知県立成章高等学校 2 年生	7 月 4 日	114	3	0	117
愛知県立岡崎北高等学校保護者	7 月 6 日	0	3	100	103
三重県立津西高等学校 1 年生	9 月 2 日	48	2	0	50
愛知県立豊田西高等学校保護者	9 月 30 日	0	3	84	87
愛知県立日進高等学校 1 年生	10 月 4 日	9	2	0	11
静岡県立浜名高等学校 1 年生	10 月 19 日	41	2	0	43
愛知県立岡崎西高等学校 2 年生	10 月 25 日	37	2	0	39
計		514	37	313	864

②外国語学部レシテーション大会・外国語学部ミニオープンキャンパスの実施

外国語学部生によるレシテーション大会を平成 28 年 11 月　5　日（土）午前に企画し、同日午後、外国語学部ミニオープンキャンパス（13：00～15：10）を実施した。

今年度より、幅広い高校からの参加者を募るために HP 上で応募を募った。HP からの募集の効果もあり当日参加者 2 名を含めた、19 校から 24 名の生徒と 13 名の保護者が参加した(昨年度は 5 校から 23 名の生徒と 1 名の教員が参加)。本学の特色でもある語学少人数教育の体験授業を計画し、参加人数は 30 名以内の規模にとどめた。

プログラムは次の 3 つの内容からなる。1）留学体験報告：留学経験のある 3 名の学部生が自身の経験を紹介、2）学科・専攻説明・個別相談：iCoToBa で各学科・専攻に分かれ個別対応、3）学生活動報告：自ら課題を持ち、学外で活動している学生 9 名の取り組みをポスタープレゼンテーション形式で発表。

最後に全体を通したふりかえりとアンケート記入を行った。アンケート評価結果は表 11-3 のとおりである。

[表 11-3 外国語学部ミニオープンキャンパス評価]

内 容	評価平均
留学体験報告	4.70
学科・専攻説明・個別相談	4.87
学生活動報告	4.91
プログラム全体	4.91

（評価は 5 点満点。参加者 23 名が回答）

自由記述欄では、次のような意見が寄せられた。（抜粋）

- 学生の皆さんが発表を工夫してくださり、学部への興味が沸きました。
- たくさんの具体的な話まで聞けてよかったです。体験授業もしてみたかったです。
- 学生の方と交流ができたのがよかったです。
- 個別相談でしっかり話を聞いてくれて、先生も大学生も親切でとても楽しめました。
- 留学のことをよく知れた。
- 自分がやりたいことが見えた気がしました。
- 大学生の方がとても気さくで話しかけていただいて嬉しかったです。
- 自分の行きたいところについて聞けたので、よかったです。
- 先輩方がフレンドリーでとても楽しかったです。
- 夏のオープンキャンパスに参加できなかったので、今回とても参加できてよかったです。短い時間でも内容が濃くて、細やかなところまで県大について知ることができました。もう少し時間がとられていると良かったです。

［写真：外国語学部ミニオープンキャンパスの様子］

③「大学入試センター試験を課す全国枠の推薦入試（グローバル人材枠）」の実施

平成 26 年度から「全国枠のセンター試験利用型推薦入試（グローバル人材枠、定員 43 名）」を導入している。平成 29 年度入試は、146 名の応募があり、46 名が合格した（表 11-4）。

［表 11-4　全国枠センター試験利用型推薦入試（グローバル人材枠、定員 43 名）実施結果］

学科・専攻	外国語学部・平成 29 年度入試状況　（括弧内・昨年度数値）			
	募集定員	志願者数	最終合格者数	実質競争倍率
英米学科	12	59(54)	12 (12)	4.9 (4.5)
フランス語圏専攻	6	15(14)	6(7)	2.5 (2.0)
スペイン語圏専攻	6	21(28)	7 (7)	3.5 (3.3)
ドイツ語圏専攻	6	14 (25)	6 (6)	2.3 (4.2)
中国学科	6	17(15)	7 (7)	2.8 (2.1)
国際関係学科	7	20 (36)	8 (8)	2.9 (5.1)
合　計	43	146(167)	46(47)	3.4 (3.6)

平成 27 年度に引き続き、グローバル人材育成を見据え、全国枠推薦入試合格者に対する入学前オリエンテーションを実施した。

日時：平成 29 年 2 月 14 日（火）14 時 00 分～16 時 40 分

場所：iCoToBa（多言語学習センター）

参加者数：合格者 46 名（15 県）中、40 名（14 県）

当日は以下のような企画を行った。

第1部　在校生による学科・専攻での学修と留学体験紹介および懇談

iCoToBa サポーターズクラブメンバーによる大学・学部紹介、大学にまつわるクイズを行った。またカナダ留学中の在校生とスカイプによる中継を結び、留学先での体験、合格者からの質問に答えた。

第2部　e-Learning 演習と語学学習アドバイス

iCoToBa で提供している e-Learning 教材を実際に使って実習を行うとともに、講師から語学学習に関するアドバイスを行った。参加者には仮 ID が付与され、春休み中もシステムを利用して自主的に学習できるようにした。

第3部　ふりかえり

卒業予定の生徒から、これからの大学生活を有意義に過ごすために自分の経験談、新入生へのメッセージをもらった。オリエンテーション全体をふりかえり、愛知県立大学に入ってチャレンジしたいことをあらためてイメージし、入学までの期間にどのような取り組みをするか、また、どのような大学生活を送るかを考えた。

プログラム概要および参加者による評価（オリエンテーションの最後にアンケートを実施）の結果は表 11-5 のとおりである。

［表 11-5　入学前オリエンテーション・プログラムの評価］

プログラム内容	評価平均
先輩による大学紹介・ディスカッション	4.95
教員、先輩との懇談会	4.90
e-Learning	4.72
ふりかえり・課題設定	4.79
オリエンテーション全体	4.92

＊評価点は 5 点満点での平均値。参加者 39 名が回答。

［入学前オリエンテーションの様子］

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

入試広報の効果として、推薦入試の志願理由書の中で、イマージョンプログラムに参加したこと、「グローバル人材プログラム」や iCoToBa 訪問・授業体験を言及していることから、本学グローバル人材育成事業の取り組みが志望動機となっていることが分かる。

外国語学部の「全国枠センター試験利用型推薦入試（グローバル人材枠、定員 43 名）」に関しては、導入初年度に比べて応募者数が減ったものの、全国 29 道府県から 146 名の応募があった。本学在学生のほとんどが愛知県内出身者であるが、全国を対象にグローバル人材を目指す意思と能力を持つ生徒に推薦の枠を広げたことで、学生構成が「多様化」することは、結果として県内出身の学生にとっても大きな刺激となる。

推薦入試合格者を対象とした入学前オリエンテーションの実施の趣旨は、春休み期間を有効に利用し語学力の向上を図ること、大学合格が「ゴール」ではなく、「スタート」なのだと強く

認識させることにある。参加者は春休み中に e-Learning を活用した英語学習や、自身が専攻する言語の基礎学習、言語がつかわれている地域に関する学習について言及しており、自ら学ぶ主体として何をすべきか考えるきっかけとなっていると評価できる。

②改善すべきこと

入試広報活動については、全般的に効果が上がってきていると考えられる。来年度もこれらの行事を実施していくが、同時に教職員の入試広報の負担増についても意見が挙がっている。継続的な広報戦略を検討していく必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

入試制度改革および高大連携の観点から、ひきつづき、以下の課題に取り組んでいく。

第一に、グローバル人材育成推進室と入試広報室の連携を一層強化し、様々な入試広報活動の機会をとらえて本学の「グローバル人材プログラム」や全国枠推薦入試制度について周知活動を行う。①明確でわかりやすいアドミッション・ポリシー、②グローバル人材育成推進事業の全体像が簡単にわかる広報（ターゲットは高校生、教師、保護者）、③グローバル人材育成プログラム科目を外国語学部の正課科目へ取り込み、外国語学部のカリキュラムの特色として、平成 29 年度にスタートする新たな「グローバル人材プログラム」等の発信に力を入れるとともに、さまざまな高大連携事業（講演会、模擬授業等）も広報機会として活かす。

第二に、全国枠推薦入試に関して、合格者に対する入学後のフォローアップ調査を行う。当該推薦枠による入学者の成績パフォーマンスや学科・専攻での影響力、大学全体へのインパクトなど、その効果を量的、質的に分析していく。また、本推薦制度による応募者がゼロ、または極めて少ない都道府県については、広報ターゲットを検討するなど効果的なアプローチ方法を考える必要がある。

第三に、スーパーグローバルハイスクール採択校との連携や、愛知県が進める「あいち国際戦略プラン」の中に位置づけられるグローバル人材育成推進事業との連携など、高大連携の在り方を検討する。

12. 情報発信

1. 概要

本学の「グローバル人材育成推進事業」に関する情報を広く発信するために、専用の Web サイトの開設と共にパンフレット等の印刷物を作成した。また、本事業関連会議等に参加し、他大学と取り組みに関する情報交換を行い、本学の取り組みに反映させた。また、大学広報のために大学進学セミナーや高等学校でのガイダンスも実施した。

2. 平成 28 年度の目標

多言語学習センターiCoToBa、および「グローバル人材育成推進事業」の Web サイトの内容を充実させる。SNS 等を活用し、広報活動に取り組む。グローバル人材育成推進事業の全国およびブロック会議に積極的に出席し、他大学と取り組みに関する情報交換を行う。その他、各種マスコミに情報を提供する。

3. 平成 28 年度の実績

①グローバル人材育成推進室・iCoToBa ホームページの運営

平成 25 年 4 月に iCoToBa の Web サイトを開設し、授業の開講情報、行事予定および報告、各種募集内容など、定期的に最新情報を発信している。また、教員が作成した教材、報告書等がダウンロードできるように掲載している。

グローバル人材育成推進事業の Web サイトは平成 25 年 12 月に開設した。ここでは、本事業に関連する行事案内および報告の情報発信をしている。留学、インターネットポートフォリオ、外国語学習支援等、関連するサイトのリンクを貼り、閲覧者が求める情報を的確に提供している。

本事業に関して、Web サイトにアップした情報を、表 12-1 に示す。

［表 12-1　本事業に関する Web での情報発信］

	発信数
グローバル人材育成推進室 Web サイト	8
iCoToBa Web サイト	19

また、本学公式 Web サイトの「新着情報」にも適宜グローバル関連の情報をアップしている。本年度は、「レシテーション大会」や「ミニオープンキャンパス」の開催について発信した。

グローバル人材育成推進事業 Web サイト URL	http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/
iCoToBa Web サイト URL	http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/

②グローバル事業に関する講演・発表・広報活動

a) NAFSA 2016 (May 29th - June 3rd , 2016)
"Study in Japan" in Denver, Colorado, USA

b) Go Global Japan Expo 2016（平成 28 年 12 月 11 日、於鳥取大学鳥取キャンパス）
「世界に向かって Let's Try!」
ポスター発表「グローバルマインドを持ち、グローバル＆ローカルに活躍する県大生」
発表者：有吉奈美（英米学科 4 年）、金井真実子（国際関係学科 4 年）

c) 2016 年度西日本第 1 ブロック共同シンポジウム「グローバル社会の進展と大学教育」
（平成 28 年 12 月 11 日、於鳥取大学鳥取キャンパス）
個別発表「地域資源を活かし学生の可能性を伸ばすグローバル人材育成」
発表者：宮谷敦美（グローバル人材育成推進室副室長、国際関係学科）

③マスコミによる情報発信

a. 中日新聞 2016 年 5 月 24 日(月)「海外メディアおもてなしブース」
b. 読売新聞 2016 年 5 月 28 日(金)
「伊勢志摩サミット PR ラストスパート 大学生全力でおもてなし」
c. 中日新聞 2016 年 6 月 26 日(日)「世界で見た風景写真 県立大生ら 100 点展示」
d. 中日新聞 2016 年 8 月 12 日(金)「外国語漬けで上達を」
e. 中日新聞 2016 年 8 月 14 日(日)「就業体験中の県立大生 留学生の研修企画」
f. 中日新聞 2016 年 11 月 29 日(火)「外国人へ防災情報どう伝達」
g. 読売新聞 2016 年 12 月 24 日(土)「外国人に冊子で愛知紹介」
h. ひまわりケーブルテレビ 2016 年 12 月 24 日(土)、2017 年 1 月 28 日(土)
大学情報発信番組「ダイガクモン！」
i. メ~テレニュース 2017 年 1 月 28 日
「大学生が外国語で海外展開する地元企業のPR記事を制作」
j. 中日新聞 2017 年 1 月 29 日(日)「地場企業の海外進出を後押し」
k. 中日新聞 2017 年 3 月 12 日(日)「世談 あるもの探し」
l. NHK ニュース 2017 年 3 月 16 日（木）「"売れる真珠"大学生がデザイン」
m. テレビ愛知ニュース 2017 年 3 月 16 日（木）
「若者に PR 大学生が真珠アクセサリーをデザイン」

n. 日刊工業新聞 2017 年 3 月 17 日（金）
「OKKO真珠、学生とコラボ商品 『年配』『フォーマル』イメージ一新狙う」
o. 日本経済新聞 2017 年 3 月 17 日（金）
「愛知・三重の産学連携、真珠アクセサリーを製作」
p. 朝日新聞 2017 年 3 月 20 日(月)「県立大生ら丹精真珠をデザイン」
q. 中日新聞 2017 年 3 月 25 日(土)
「県立大生真珠デザイン　企業と協力展示会へ多言語パンフも」
r. その他
・名古屋国際会議場　NCC ニュース　2016 年 8 月号
「『MICE およびグローバル人材育成事業』から生まれた新たな試み
～学生による『国際影響評価学会 IAIA16』でのユニークな“おもてなし”～」
・学内の広報誌「探県大」（2017 年 3 月号）
「グローバル実践教育プログラム」と iCoToBa の紹介記事を掲載（全 1 ページ）
・学生出版会サークル発行「Aps！」（2016 年秋号）
特集「地域ものづくり学生共同プロジェクトって何？」（全 5 ページ）

④iCoToBa 訪問者

［表 12-2　平成 28 年度 iCoToBa 訪問者一覧］

月日	所属・氏名	担当
6 月 17 日	愛知大学 現代中国学部長　安部悟氏 国際コミュニケーション学部長　塚本倫久氏 教学事務部長　堀真人氏 国際交流センター事務課　係長　村田安氏 名古屋学生課　課長　樋口裕嗣氏	宮谷敦美 水野淑子
6 月 23 日	金城学院大学 学生支援部　国際交流センター係長　加藤祐子氏 学生支援部　ラーニングコモンズ係長　長坂知美氏	岩井美樹
9 月 15 日	愛知県　学事振興課　2 名	岩井美樹
11 月 1 日	愛知県　健康福祉部少子対策監　服部克己氏 子育て支援課　課長補佐　安部進矢氏	岩井美樹

4. 平成 28 年度の評価

①効果が表れていること

本年度も、多様な方法による積極的な情報発信を行なった。特に、本事業に関連する学生の取り組みを積極的にプレスリリース等で発信し、マスコミ等に働きかけた。

②改善すべきこと

本学の教職員や学生による成果に関する情報を迅速に収集することができておらず、情報開示までにタイムラグが発生してしまう点については、解決を図る必要がある。

5. 事業全体での評価（総括）

本事業開始にともない、取組みを広く知らせるために、グローバル人材育成推進事業と iCoToBa の専用 Web サイトを立ち上げ、情報を発信してきた。また、新聞やテレビ、SNS 等多様な手段を用いた広報にも取り組み、一定の効果をあげることができた。愛知県立大学のグローバル事業はかなりの程度まで認知されるようになった。そのことは、本校の iCoToBa（多言語学習センター）への施設見学が毎年継続してあることにもあらわれている。愛知県下の高校および高校生とその父兄における認知度の高まりも実感するところである。今後も引き続き情報発信に取り組んでいく。

13. グローバルキャンパスへの取り組み

1. 概要

本学では iCoToBa（多言語学習センター）をグローバル人材育成のプラットフォームと位置づけ、語学の授業や留学アドバイジング、「グローバル」と「異文化」をキーワードとし、学生の主体的な活動をサポートする場として機能させている。

本事業の目標である「外国語学部生の 60％以上が単位認定を伴う留学を経験する」を達成すべく、これまで国際交流室を中心として学術交流協定大学の拡充に努めてきた。既存の交換留学や派遣留学にとどまらず、学生の海外留学に対するモチベーションを高めるために、①外国語学部の専攻言語の全言語圏でのショートプログラムの実施、②アジア太平洋域内の学生交流大学コンソーシアムであるUMAP（University Mobility in Asia and Pacific）を利用した交換留学の開始、③世界中の大学と学生交流ネットワークをもつ SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）への加入など、学生を派遣する仕組みを構築してきた。学内の語学教育環境の充実と交換留学生の増加に伴って、海外留学に挑戦する本学学生も増え、また、学術面での国際的な交流も活発化している。

また、グローバルキャンパスを展開するために、国際交流関係業務の運営や、国際的教育研究活動支援を円滑に行える事務職員の育成に取り組んできた。国際交流室での業務には、大学間学術協定締結上の語学、折衝能力や、APAIE や NAFSA 等海外の大学フェアにおける外国語でのプレゼンテーション能力が必須である。また、国際交流担当職員のみならず、留学生や海外からの来客対応、海外の大学と連携したプロジェクトの立ち上げなど、大学事務職員の英語運用能力の強化は喫緊の課題となっており、全ての事務職員がグローバルな視点を持ち、外国語によるコミュニケーション能力及び国際感覚の養成を図ることが求められている。上記の問題意識に立ち、職員の海外研修や語学力向上の取り組みを展開してきた。

2. 平成 28 年度の目標

① 海外留学に対するモチベーションを高める仕組みや、海外留学への挑戦をサポートする体制を中心に、補助金終了後も継続して取り組むことができるよう、グローバルキャンパス化に対応しうる学内体制の充実を図る。

② 事務職員の英語能力の強化をスタッフディベロプメントの課題の一つとして位置付け、TOEIC 目標スコアを 800 点以上に設定する。

③ 若手事務職員の国際的な対応力強化を目的に、実践的な海外研修を実施する。海外の大学フェア等に参加し、本学の PR スキルを身に付ける。また現地での交流を通して他大学の広報活動・留学制度等を学ぶ。

④ 英語版 Web サイトや英語版大学案内の作成により、海外への情報発信を充実させる。また、学内文書の英文化を進め、学内のネイティブ教員への情報提供の偏りをなくす。

3. 平成 28 年度の実績・評価

① グローバル化に対応する学内体制の充実

学内におけるグローバル化への対応として、屋外・屋内の学内誘導サインや案内板を日本語と英語の両方で表記するなどハード面を重点的に整備した。また、学内文書の英文化を進め、利用者の利便性の向上、ネイティブ教員の研究・教育活動の支援を強化している。

平成 28 年 4 月より、iCoToBa での個別指導に加えて、教養英語担当の外国人教員による個別指導体制を拡充し、「教養英語相談室」を開室した。この相談室は、全学部・大学院生が利用しており、特に国際学会に挑戦する情報科学研究科の大学院生が発表前に集中的に利用しており、学生の英語力強化に繋がっている。

国際交流室では、これまで協定大学が少なかったアジア圏に学生を派遣するために、平成28年度からUMAPを利用した交換留学の準備を進めてきた。SAFのネットワークを利用することにより、留学の選択肢の拡充、留学に関するカウンセリングの充実や留学中のきめ細やかな現地サポートなど、総合的支援体制を確立した。

日本文化学部では、世界的視野から地域貢献できる人材育成のため「愛知人文社会ルネッサンス」と称したグローカル事業を展開させた。昨年度に続き、留学生と日本人学生との協働による「留学生的アイチガイド（観光パンフレット）第 2 弾、第 3 弾」を作成した。また、学生の世界的視野を養うため、海外大学との国際交流事業を推進しており、職員は海外招聘研究者の支援や留学生のサポート等を担当するなど、本学の教育活動を内外に伝える体制を充実させた。

② 職員の語学力向上の取り組み

平成25年度から4年連続で、大学職員の語学力向上を目指した英語力向上制度を実施している。本法人において各年度上限 5 名が 1 月の TOEIC 受験を目指して、勤務時間内に TOEIC 対策講座（iCoToBa 開講授業）を受講してきた。今年度も引き続き、職員全員にTOEIC受験と、英語学習支援e-Learning「ALC Net Academy 2」の利用が推奨され、希望者にはアカウントが配付された。平成 28 年度に本制度を利用した職員は 4 名で、そのうち 2 名が TOEIC800 点を取得した。

また、昨年度に引き続き、国際担当職員を対象とした英語研修（JAFSA・ブリティッシュカウンシル共催）に参加し、英語を使用した業務のスキルアップを図った。研修を通して、国際交流実務に関わる実践的な知識や経験を得た。

③ 職員海外研修

事務職員に海外の大学、国際会議、国際シンポジウム等における実地研修の機会を与えることにより、大学全体のグローバル化とその意識改革を推進している。平成 28 年度は以下の研修を実施した。参加した職員は、異文化への理解を深めるとともに、海外大学のグローバル化の状況と手法について、情報を収集した。

表 13-1 は平成 28 年度法人職員海外研修の状況である。

［表 13-1 平成 28 年度職員海外研修実施一覧］

研修内容	目的	日程	訪問国	参加人数
NAFSA Conference 2016	既存の協定大学との関係強化、情報交換。新規協定大学の拡充。	平成 28 年 5 月 29 日～6 月 3 日	アメリカ	1 名
名古屋大学事務職員海外研修	ベトナムにおける教育研究活動の社会還元のあり方について学ぶ。	平成 28 年 11 月 7～11 日	ベトナム	1 名
名古屋大学事務職員海外研修	国際感覚の要請および国際交流関係業務の運営や国際的教育研究活動の支援を円滑に行うための知識を深める。	平成 28 年 11 月 21～25 日	カンボジア	1 名
APAIE Conference 2017	既存の協定大学との関係強化、情報交換。新規協定大学の拡充。	平成 29 年 3 月 21～23 日	台湾	1 名

④ 海外への情報発信の工夫

平成 27 年度より、英語版大学案内を作成し、英語版大学 Web サイトには採用情報をリンクさせている。採用手続に関する書類やその説明についても英語で通知するなど、日本語を母語としない外国人にも十分理解できるよう、英語による情報を増やしている。また、国際交流室の英語版 Web サイトも開設した。このサイトは、本学の国際交流の状況を英語で発信することで、本学の情報を収集する協定大学の学生や、日本の協定大学を探している海外大学への情報提供に役立てることを目的に情報を発信している。

5. 事業全体での評価（総括）

本事業では、英語能力の向上や海外研修の参加など、本学職員のグローバル研修に取り組んできた。また、英語版 Web サイトの運営や各種外国語書類の蓄積も着実に進めている。次年度以降も、厳しい予算状況ではあるが、ひきつづき大学のグローバル化を目指した取り組みを進めていく。平成 28 年度は名古屋大学の海外研修や、大阪大学共同教育利用施設事業による留学生研修旅行に本学の事務職員が参加している。このような他大学の資源の活用も積極的に取り入れていく。

引き続きグローバル関連や iCoToBa の最新イベント情報、国際交流室で行われる留学関連の情報を英語で発信し、活発に実施されている学内行事をタイムリーに広く公開していくことに努める。

14. 資料

14－1. グローバル人材育成推進室運営体制

［グローバル人材育成推進室］

室長	吉池　孝一	（外国語学部長、中国学科）
副室長	川尻　文彦	（中国学科）
副室長	宮谷　敦美	（国際関係学科）
室員	久田　由佳子	（英米学科）
室員	原　　潮巳	（ヨーロッパ学科フランス語圏専攻）
室員	江澤　照美	（ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻）
室員	池田　利昭	（ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻）
室員	寺澤　君江	（iCoToBa 語学学習アドバイザー）
室員	桑村　昭	（国際交流室）
室員	夏目　美和	（学務課）
事務職員	水野　淑子	
	岩井　美樹	

［iCoToBa］

専任講師	英語担当	Fern Sakamoto
専任講師	英語担当	Brett Hack
専任講師	フランス語担当	Morgan Dalin
准教授	スペイン語担当	Sergio Neri
専任講師	中国語担当	顧　令儀
専任講師	語学学習アドバイザー	寺澤　君江
	兼英語担当	
非常勤講師	留学アドバイザー	大山　守雄
非常勤講師	ドイツ語担当	Martin Niers
非常勤講師	ドイツ語担当	Frank Schäfer
非常勤講師	ドイツ語担当	Miho Strala
事務職員	iCoToBa 受付	岩井　美樹

14－2. グローバル人材育成推進室会議開催一覧

［表 14-1　平成 28 年度グローバル人材育成推進室会議開催一覧］

回	開催日	主たる審議・報告事項
第 1 回	4 月 20 日	H28 年度グローバル人材育成推進室副室長および推進室選出、iCoToBa 委員 iCoToBa 非常勤講師の委嘱 平成 28 年度「グローバル人材プログラム修了見込証明書」発行、平成 28 年度グローバル人材育成推進室計画 伊勢志摩サミット学生ボランティア 国際環境アセスメント学会(IAIA)学生ボランティア e-Learning と manaba に関する意見徴収
第 2 回	5 月 12 日	レシテーション大会の開催 iCoToBa サマープログラム
第 3 回	5 月 25 日	グローバル人材プログラム科目成績認定 平成 28 年度グローバル人材育成推進室計画 グローバルオープンキャンパスの実施時間と内容について
第 4 回	7 月 6 日	2016 年度後期出発留学者のリサーチ発信プロジェクト②の履修 オープンキャンパス時の iCoToBa の開室体制 オープンキャンパスでの iCoToBa の説明 イマージョンプログラム出勤の取り扱い グローバル・キャリアシリーズ　イベント実施
第 5 回	8 月 8 日	iCoToBa 非常勤講師の委嘱 グローバル人材プログラム科目成績認定 2016 年度後期グローバル人材プログラム対応科目 moodle システムについて
第 6 回 (メール会議)	9 月 6 日～ 8 日	グローバル人材プログラム科目成績認定について 国際メトロポリス会議 2016 における愛知県立大学の協力
第 7 回	9 月 29 日	「第4回 Go Global Japan Expo 2016」出張者および「2016 年度西日本第 1 ブロック共同シンポジウム」発表者 11/5 外国語学部ミニオープンキャンパス業務 TOEIC-IP (11/30・12/7)実施時のアンケート 2016 年度後期グローバル人材プログラムガイダンス 2016 年度入学生(36 単位)と 2017 年度入学生（26 単位）のグローバル人材プログラム

		平成 28 年度以降の推進室のあり方 平成 28 年度外部評価・実績報告書の冊子化予算
第 8 回 (メール会議)	11 月 5 日	「グローバル人材プログラム修了見込証明書」発行
第 9 回	11 月 16 日	グローバル人材プログラム科目成績認定 iCoToBaFD アンケートの実施 2016 年度入学生の「グローバル人材プログラム」周知 2015 年度以前入学生への「グローバル人材プログラム」説明メモ 平成 29 年度以降のレシテーション大会
第 10 回	11 月 30 日	平成 28 年度実績報告書執筆担当 平成 29 年度以降の iCoToBa 運営に向けて 平成 29 年度以降のレシテーション大会
第 11 回 (メール会議)	12 月 15 日 ～19 日	グローバル実践プログラム外国語要件
第 12 回	12 月 22 日	平成 29 年度新委員会の設置について(新委員会名、新委員会の業務、全学に移行する事業の要望) JICE(日本国際協力センター)との協働イベント (2 月 3 日(金)実施) 全国推薦枠(グローバル人材)合格者対象入学前ガイダンス
第 13 回	1 月 26 日	グローバル人材プログラム科目成績認定 「グローバル人材プログラム」修了見込証明書・受講証明書の発行 全国推薦枠(グローバル人材)合格者対象入学前ガイダンス グローバル推進委員会規定(案) 「情報探索講座」の認定 平成 29 年度以降の検定試験受験促進とスコア情報収集の方策、仕組みづくり
第 14 回	2 月 14 日	グローバル人材プログラム科目成績認定 「グローバル人材プログラム」修了見込証明書・受講証明書の発行 来年度の申し送り事項

14－3. iCoToBa 委員会

［iCoToBa 委員会］

委員長	四ツ谷 亮子	（ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻）
委員	袖川 裕美	（英米学科）
委員	佐藤 久美子	（ヨーロッパ学科フランス語圏専攻）
委員	渡会 環	（ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻）
委員	中西 千香	（中国学科）
委員	髙阪 香津美	（国際関係学科）
委員	宮谷 敦美	（グローバル人材育成推進室）
委員	寺澤 君江	（iCoToBa 語学学習アドバイザー）
事務担当	岩井 美樹	（グローバル人材育成推進室）
	水野 淑子	（グローバル人材育成推進室）

14－4. iCoToBa 委員会開催一覧

［表 14-2 平成 28 年度 iCoToBa 委員会開催一覧］

回	開催日	主要な審議事項
第 1 回	4 月 5 日	平成 28 年度 iCoToBa 委員長について
第 2 回	5 月 12 日	レシテーション大会の開催 iCoToBa サマープログラム(準備のお願い)
第 3 回 (manaba 会議)	5 月 20 日～25 日	金曜 2 限「ドイツ日常語と実践会話 2」の iContact への変更
第 4 回	6 月 22 日	iCoToBa サマープログラム 2016 年度後期 iCoToBa 時間割作成 グローバルキャリアシリーズ イベント実施
第 5 回 (manaba 会議)	7 月 5 日～7 日	iCoToBa サマープログラム実施案
第 6 回 (manaba 会議)	7 月 11 日～15 日	夏季休暇中の iCoToBa 開室時間および閉室期間
第 7 回 (manaba 会議)	7 月 28 日 ～8 月 5 日	来年度以降のレシテーション大会の継続可否
第 8 回 (manaba 会議)	8 月 17 日～ 24 日	2016 年度レシテーション大会 スペイン語（1年目学習者）の追加募集

第 9 回	9 月 29 日	レシテーション大会、iCoToBa 年報 iCoToBa 教員の教材作成 2016 年度後期ロゼッタストーン利用 ID の配布
第 10 回	10 月 27 日	レシテーション大会 iCoToBa 年報

14－5. 平成 28 年度外国語弁論大会等での受賞者一覧

・実用フランス語技能検定（平成 28 年 3 月）

2 級・文部科学大臣賞　　近藤　萌（ヨーロッパ学科フランス語圏専攻 4 年）

・第 19 回世界外国人韓国語スピーチ大会

（平成 28 年 5 月 12 日　於大韓民国ソウル慶熙大学校）

韓日交流財団賞　　金井　真美子（国際関係学科 4 年）

・ベラルーシ共和国教育省主催　ロシア語オリンピック

（平成 28 年 5 月 18 日～21 日　於ベラルーシ共和国）

第五部（学習歴 3～5 年の人文専攻ではない学生・院生の部門）

優勝　　猪狩　春樹（国際関係学科 4 年）

・第 35 回関西学士絵ポルトガル語暗唱大会

（平成 28 年 7 月 9 日　於京都外国語大学）

初級の部　優勝　　松崎　美侑（国際関係学科 1 年）

初級の部　準優勝　　山田　哲史（国際関係学科 1 年）

中級の部　優勝　　荻島　千里（国際関係学科 2 年）

・第 34 回全日本中国語スピーチコンテスト愛知県代表選考会

（平成 28 年 10 月 22 日　於愛知工業大学自由が丘キャンパス）

朗読部門　第 1 位　　河内　彩花（中国学科 1 年）

朗読部門　第 2 位　　樋江井　可奈（中国学科 1 年）

スピーチ部門　大学生の部

第 3 位　　戸塚　菜水（中国学科 4 年）

・第 30 回全日本学生中国語弁論大会　（平成 28 年 11 月 26 日　於京都外国語大学）

京都外国語大学総長賞　　杉本　雛乃（中国学科 2 年）　※同賞に 3 名受賞

・江蘇杯中国語スピーチコンテスト （平成 28 年 12 月 3 日　於愛知大学車道校舎）

中上級部門　一等賞　　杉本 雛乃（中国学科 2 年） ※同賞に 7 名受賞

初級部門　一等賞　　中嶋　実結（中国学科 1 年） ※同賞に 4 名受賞

初級部門　一等賞　　伊藤　奏絵（中国学科 1 年）

中華人民共和国駐名古屋総領事館賞　　伊藤　奏絵（中国学科 1 年）

・フレンチポップコンクール 2016 （平成 28 年 12 月 4 日　於南山大学）

学生部門（エチュディアン部門）

第 2 位　　相原　尚央（ヨーロッパ学科フランス語圏専攻 2 年）

オリジナリティ賞　　加藤　勇大（ヨーロッパ学科フランス語圏専攻 2 年）

奨励賞　　小塚　拓海（ヨーロッパ学科フランス語圏専攻 2 年）

・第 34 回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会 （平成 29 年 1 月 8 日　於日中友好会館）

朗読部門　大学生の部

優秀賞　　河内　彩花（中国学科1年）

・大阪サンパウロ姉妹都市協会主催　第 7 回ポルトガル語スピーチコンテスト

（平成 29 年 2 月 11 日　於 TB－SQUARE）

大阪市長賞（2 位相当）　　松崎　美侑（国際関係学科 1 年）

14－6. iCoToBa 授業アンケート結果

2014 年度より FD 活動の一環として、前期・後期の iCoToBa 開講授業全てにおいて授業アンケートを行った。アンケート項目は、1)学生自身の学習について、2)授業および担当教員についての 2 部構成である。以下では、2)授業および担当教員についての集計結果を掲載する。回答はそれぞれの項目で 1~5 点で点数化している。

[質問項目]

Q1. 授業概要や学期開始時の授業に関する説明は、わかりやすかったですか。
Q2. 授業概要や学期開始時に説明された授業の目的は、授業で達成されていたと思いますか。
Q3. 教員の話し方、説明の仕方はわかりやすかったですか。
Q4. 教材（教科書、配布物など）は、有用でしたか。
Q5. ホワイトボードへの板書、パワーポイントなどのスライドは見やすかったですか。
Q6. 教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか。
Q7. 教員は、一方的な説明だけでなく、質問、発言、発表など学生の積極的な参加を促しましたか。
Q8. 教員の授業への意欲・熱意は感じられましたか。
Q9. この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたいという気持ちになりましたか。

[2016 年度前期アンケート集計結果]

担当教員: Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English 1	木 1	4.9	4.6	4.9	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8	4.9
Survival English 2	金 1	4.8	4.5	4.6	4.6	4.6	4.8	4.8	4.9	4.9
Topic Talk	月 4	4.2	4.6	4.8	4.2	4.4	4.8	4.8	4.8	4.8
J-Ambassador	火 2	4.7	4.3	4.8	4.7	4.6	4.7	4.8	4.8	4.5
The Global Food Industry	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Global Leader	月 2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	5.0	5.0
TED Talks	木 3	4.1	4.4	4.4	4.3	4.1	4.4	4.9	4.7	4.9

担当教員: Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Pronunciation Profiles 1	月 2	4.8	4.5	4.9	4.5	4.8	4.7	4.9	5.0	4.9
Pronunciation Profiles 2	木 5	4.9	4.9	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
Study English with Movies	火 5	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	4.9
The English-Speaking World	月 5	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Get Good at Speaking	火 4	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9

Research and Presentation Project 1	水 2	5.0	5.0	5.0	4.6	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
Research and Presentation Project 2	金 4	4.9	4.7	4.9	4.8	4.9	4.9	4.9	5.0	4.8
Real-Life English Expressions and Idioms	月 4	4.3	4.0	4.3	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.7
Plan a Trip in English	木 4	4.8	4.7	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7
Talking Better with Movies	金 2	4.5	4.6	5.0	4.9	4.8	4.9	4.9	5.0	5.0
Advanced Course : The Cultural Imagination of Manga and Comics	木 2	4.5	4.5	4.8	4.8	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8

担当教員: 寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC Intensive 1	月 2	4.8	4.8	4.7	4.8	4.8	4.7	4.6	4.8	4.8
TOEIC Intensive 2	月 6	4.7	4.7	4.3	4.7	4.3	4.3	3.7	4.7	5.0
TOEIC Intensive 3	火 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
TOEIC Intensive 4	火 6	4.5	4.5	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	5.0	4.5
TOEIC Early Bird 1	水 1	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	4.3	5.0	5.0
TOEIC Early Bird 2	木 1	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Strategic TOEFL	水 2	4.6	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Successful IELTS	木 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Vocabulary for Exams	水 4	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0
Writing for Exams	月 4	4.8	4.5	4.8	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音サロン 1	火 3	4.5	4.1	4.5	4.5	4.6	4.6	4.8	4.9	4.6
発音サロン 2	金 2	4.7	4.0	4.8	4.7	4.8	4.8	5.0	5.0	4.7
めざせ仏検 3 級・準 2 級	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検準 1 級	月 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語で話そう！	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ初・中級	水 3	4.5	4.4	4.6	4.3	4.4	4.5	4.6	4.8	4.6
フランス語クラブ中・上級	木 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ニッポンなう。	月 5	4.8	4.8	4.9	4.6	4.6	4.8	4.9	4.9	4.9
フランス語圏なう。	木 3	4.7	4.5	4.8	4.5	4.7	4.9	4.9	5.0	4.9
リサーチ・発信プロジェクト①	火 1	4.3	4.1	4.6	4.3	4.4	4.7	4.9	4.9	4.6

担当教員:Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ	火 3	5.0	4.5	5.0	4.5	4.5	5.0	4.0	5.0	5.0

DELE A1 対策	月 5	4.3	4.0	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0
比較文化研究	水 4	4.2	4.7	5.0	4.8	5.0	5.0	4.7	5.0	5.0
リサーチ発信プロジェクト	水 3	5.0	4.7	4.7	4.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
第 2 外国語としてのスペイン語	木 5	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	4.7	5.0	5.0
読解と討論 1	火 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
DELE B1 対策+α	金 3	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0
読解と討論 2	木 3	4.0	4.3	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	5.0	5.0
初級スペイン語 1	火 4	3.9	3.8	4.1	3.9	3.8	4.4	4.5	4.7	4.2
初級スペイン語 2	金 2	4.4	4.2	4.6	4.2	4.4	4.7	4.6	4.5	4.5

担当教員: Miho Strala / Martin Niers / Frank Schäfer	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語と実践会話 1	木 1	3.2	3.6	3.2	3.8	4.0	3.6	4.4	4.4	4.2
リサーチ・発信プロジェクト①	木 2	4.3	4.7	5.0	5.0	4.7	4.7	4.7	4.7	5.0
比較文化セミナー	金 1	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
日本紹介	月 2	4.3	4.3	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: 顧令儀	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
中国と日本の比較文化	月 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
実践中国語（聴解と会話）	月 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
リサーチ･発信プロジェクト①	月 1	5.0	5.0	5.0	4.7	4.7	5.0	4.7	5.0	5.0
複文トレーニング	火 3	4.8	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座 A	水 1	4.9	4.9	4.9	4.7	4.4	4.9	4.7	4.9	4.9
中検 2 級対策	水 2	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座 B	水 3	4.9	4.8	4.9	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
中国語で日本を紹介する	木 3	4.8	4.8	5.0	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0
慣用句でリアルフレーズ	木 4	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音特訓講座 C	金 1	4.5	4.2	4.7	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5
発音特訓講座 D	金 1	4.6	4.4	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7
発音特訓講座 E	金 2	4.5	4.4	4.9	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9
発音特訓講座 F	金 2	4.9	4.5	5.0	4.6	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: 宮谷敦美 / Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
地域ものづくり学生共同プロジェクト	水 4	4.8	4.8	4.9	4.6	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9

[2016 年度後期アンケート集計結果]

担当教員: Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
Survival English 1	木 1	4.8	4.7	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Word Power!	金 3	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0
One-minute Speech	月 4	5.0	4.5	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5
J-Ambassador	火 2	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
The Global Food Industry	金 2	5.0	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7
Global Leader	月 2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.6	5.0	5.0	5.0	5.0
TED Talks	木 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: Brett Hack	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
English : Back to Basics	水 4	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	5.0	5.0
The English Speaking World	月 2	4.8	4.7	4.9	4.6	4.9	4.9	5.0	4.8	4.8
Plan a Trip in English	木 4	4.5	4.5	4.8	4.5	4.8	4.9	4.9	4.9	4.6
Advanced Course : Politics, Social Change, and the Japanese 2	木 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Research and Presentation Project 2	火 3	5.0	4.3	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	4.7
Get Good at Speaking 1	火 5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9	5.0
Get Good at Speaking 2	水 3	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0
Japan Contents : Culture Translation Project	金 2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0
Global News and You	金 4	5.0	5.0	5.0	4.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Advanced Course : Politics, Social Change, and the Japanese 1	木 3	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: 寺澤君江	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
TOEIC Intensive 1	月 2	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.1	4.9	4.6
TOEIC Intensive 2	火 2	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0
TOEIC Intensive 3	水 2	4.9	4.8	5.0	4.9	4.9	4.8	4.2	4.9	5.0
TOEIC Early Bird 1	火 1	5.0	4.7	5.0	5.0	4.3	5.0	4.7	5.0	4.7
TOEIC Early Bird 2	水 1	4.9	4.8	4.9	5.0	4.9	5.0	4.8	4.9	5.0
TOEIC Early Bird 3	金 1	4.6	4.8	4.8	4.8	4.3	4.5	3.8	4.9	4.9
Speaking for Exams : Integrated	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
Listening for Exams	月 3	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0

担当教員: Morgan Dalin	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音サロン 1	火 3	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0	4.8
発音サロン 2	金 2	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検 3 級・準 2 級	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
めざせ仏検準 1 級	月 2	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語で話そう！	火 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ初・中級	水 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
フランス語クラブ中・上級	木 5	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ニッポンなう。	月 5	4.8	4.3	5.0	4.8	4.8	4.8	4.5	5.0	4.5
フランス語圏なう。	木 3	4.8	4.5	4.5	4.8	4.8	4.5	4.3	4.5	4.5
リサーチ・発信プロジェクト	火 1	4.0	3.7	4.3	4.0	4.3	4.7	4.7	4.7	4.0

担当教員: Sergio Neri	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
スペイン語圏世界とグローバリティ	月 4	4.6	4.5	4.8	4.6	4.4	4.6	4.8	4.9	4.6
第 2 外国語としてのスペイン語	金 4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
比較文化研究	水 4	5.0	4.7	4.8	4.5	4.7	5.0	5.0	5.0	4.8
リサーチ発信プロジェクト	水 3	4.5	4.5	4.5	5.0	5.0	5.0	4.5	5.0	5.0
DELE A1 対策	木 5	4.3	4.0	4.8	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	5.0
読解と発言力 1	火 2	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	5.0	5.0	4.7	5.0
DELE B1 対策+ α	金 5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
読解と発言力 2	木 3	4.7	4.3	5.0	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
初級スペイン語 I – 1	火 4	4.0	3.8	4.4	4.3	4.1	4.4	4.8	4.4	4.0
初級スペイン語 I – 2	木 4	4.0	3.5	4.3	4.0	4.3	4.8	4.8	4.8	4.3

担当教員: Miho Strala, Martin Niers, Frank Schäfer	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
ドイツ日常語と実践会話	金 2	4.8	4.5	4.8	4.8	4.5	4.8	5.0	5.0	4.8
ミュンスターアフターケア	木 2	4.6	4.4	4.6	4.8	4.2	4.8	5.0	5.0	4.8
日本紹介	月 3	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7
ドイツの文化：留学ケア	金 1	3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	5.0

担当教員: 顧令儀	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
発音と初級会話	金 2	4.9	4.9	5.0	4.9	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0
実践中国語 A（作文）	火 3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
発音と朗読 a	水 1	5.0	5.0	5.0	5.0	4.3	5.0	5.0	5.0	5.0

日中比較文化	水 2	4.9	4.6	4.9	4.6	5.0	4.9	5.0	5.0	4.9
発音と朗読 b	水 3	5.0	4.7	5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
中検 3 級対策	木 4	4.6	4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.6	4.6
中国語で日本を紹介する	金 4	4.7	4.4	4.7	4.3	4.3	4.9	5.0	5.0	4.9
実践中国語 B（聴解と会話）	月 3	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
複文トレーニング	月 4	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
成語、慣用句でリアルフレーズ	木 3	4.3	5.0	5.0	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0
リサーチ・発信プロジェクト	金 3	4.3	4.3	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	5.0	4.7

担当教員: 宮谷敦美 / Fern Sakamoto	時限	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
地域ものづくり学生共同プロジェクト	水 4	4.5	4.3	4.7	4.8	4.8	4.7	4.9	4.8	4.7

総括

愛知県立大学グローバル人材育成推進室長（外国語学部長）
吉池　孝一

文部科学省の助成によるグローバル人材育成推進事業は 5 年である。この 5 年間につき、年度ごとの概略を述べ総括とする。

平成 24 年度と 25 年度の運営の舵をとった堀一郎前室長の「本報告書の発行によせて」（平成 24 年度～25 年度グローバル人材育成推進事業実績報告）に次のようにある。

本学部にとって大規模な文部科学省支援事業は初めての取り組みであり、しかも採択が決定されてから本格始動まで時間的に猶予はなく、その構想の具体化はハイピッチで進めなければならなかった。すべてゼロからの出発であった。

本事業の立ちあげに関わった方々は、グローバル人材育成推進室を立ちあげ、iCoToBa（多言語学習センター。196.2 平米の専用スペースをもつ）という施設をつくり、さらに iCoToBa 委員会を立ちあげてグローバル人材プログラムを推進したわけである。ゼロからつくりあげる心労は察するにあまりある。このような基礎を固めた先人の作業のうえに平成 26 年度の事業はおこなわれた。

平成 26 年度の 4 月からは、吉池が室長となった。室長には指揮をとるべき責任があるのだが戸惑うこと多く、推進室の副室長と室員および iCoToBa 委員会の委員に支えていただきながら 1 年をとおすことができた。もっとも、平成 26 年度は、本事業が始まってから 3 年目であり「事業が軌道に乗り始めた年」と位置づけることができる。その軌道に乗りはじめた流れにそって事業をすすめることができた年度とも言えよう。なお、本事業の助成金継続期間は 5 年(平成 24～28 年)である。平成 26 年度はちょうど事業の折りかえし地点でもあったのであるが、5 年という歳月をそれぞれどのように位置づけて活用するか、このことについて計画を立て実施するのは容易なことではなかった。おそらく他の採択校も同様であろう。

平成 27 年度の 4 月からは、着地点を考えながら事業を進めることになった。ゼロから出発する立ちあげの労苦はたしかに大きい。しかしながら、助成金の削減がすすむなか、最終年度の平成 28 年度に向けてどのような工夫をするか、この点について推進室の心労も小さくはなかった。工夫の一つ目に iCoToBa の利用があった。iCoToBa のスペースの利用だけでなく開催する諸行事や語学のプログラムを含めての利用を検討し、利用人数の拡大をはかった。またこれまで、iCoToBa はおもに外国語学部の学生が利用していた。平成 27 年度は全学部の学生や職員を対象とした事業に積極的に取りくんだ年でもあった。工夫の二つ目は iCoToBa 科目（27 年度入学生以前は正課の単位にならない）を正課の科目として単位化することである。これをどのように行うか長い時間をかけての話し合いがもたれた。このことについては、次の平成 28 年度の項でのべる。

平成 28 年 4 月からは、事業終了後の平成 29 年度以降の体制を念頭におき、準備をすすめる年度であった。一つ目は、グローバル人材育成プログラムの正規科目化を実施することである。文部科学省の助成金終了後の平成 29 年度の 2 年生から、グローバル人材育成プログラムを履修することができるように改訂したカリキュラムを実施した。内容は次の通りである。英米学科、ヨーロッパ学科フランス語圏専攻、ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻、ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻、中国学科、国際関係学科の 6 学科・専攻のすべてのカリキュラムのなかにグローバル人材の育成にかかわる新たな科目を立てるというものである。6 学科・専攻のカリキュラム表の中には以前より「学部共通各論」というものがカリキュラム上の枠組みとしてあった。この学部共通各論のなかに、新たに「共通各論(グローバル:日本紹介)」「共通各論(グローバル:比較文化セミナー)」「共通各論(グローバル:リサーチ発信プロジェクト)」という科目を立てた。外国語学部としては 18 科目増えたわけである。これによって、「グローバル人材育成プログラム」のなかの iCoBa 科目(27 年度入学生以前は正課の単位にならない)を正課の科目として単位化し、文部科学省の助成金終了後も、同事業を発展させる形でグローバル人材の育成を継続することができるようにした。二つ目は、平成 29 年度以降の新たなグローバル人材育成事業の立ちあげの検討である。検討の結果、文部科学省による助成金終了後の平成 29 年度 4 月以降は、全学に資する内容の新たな事業として、グローバル人材の育成を推進する事業を立ちあげることとなった。この点の詳細については本書巻頭の「本報告書の発行によせて」でのべた。

最後に、この事業とおして育った学生が、社会のなかで活躍することを念願して、総括を終えることにする。

平成 28 年度
愛知県立大学
経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援
外部評価・実績報告書

平成 29 年 5 月 31 日発行

発行：愛知県立大学グローバル人材育成推進室
（現・愛知県立大学グローバル実践教育推進室）
〒480−1198　愛知県長久手市茨ケ廻間 1522 番地 3　E 棟 2 階
TEL：0561－76－8833
E-mail: global@for.aichi-pu.ac.jp
http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/